

平成31年度入学式の挙行 本学永年勤続者表彰に90氏 名誉教授に36氏

お知らせ

・平成31年度 人間ドック・特定健康診査の実施について





平成30年度学位記授与式



永年勤続者表彰

全学ニュース

- 1 平成30年度学位記授与式の挙
- 3 総長告辞（学士学位記授与式）
- 5 来賓祝辞（学士学位記授与式）
- 7 平成31年度入学式の挙
- 8 総長告辞（入学式）
- 10 本学永年勤続者表彰に90氏
- 12 名誉教授に36氏
- 13 平成30年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
- 14 歯学研究院 佐野英彦教授にHollenback Memorial Prize
- 15 平成31年4月 大学院を改組
- 15 「広域複合災害研究センター」を設置
- 16 2019年度北海道大学の予算
- 18 北大フロンティア基金
- 18 ヘルシンキで北海道大学欧州同窓会懇談会を開催
- 21 インドネシア・バランカラヤ大学で「2019北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「北海道大学留学セミナー」を開催
- 22 北海道大学アンバサダー・パートナー（中国）委嘱状交付式を2大学で開催
- 23 平成30年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式・卒業祝賀会を開催
- 24 新渡戸スクール修了式を挙
- 25 平成30年北大えるむ賞授与式を挙
- 26 平成30年度北海道大学大塚賞授与式を挙
- 26 平成30年 北大ペンハロー賞授与式を挙
- 27 平成30年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙
- 27 平成30年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙
- 28 平成30年度北海道大学企業研究セミナーを開催
- 29 第1回ICReDD国際シンポジウムを開催
- 30 北海道大学交流デー（忠南大学校）を開催
- 31 北海道大学交流デー（中国科学院大学・東北大学）を開催
- 32 APECS-UArctic Science Communication Workshop派遣報告会を開催
- 33 次世代へ向けて～本学技術職員10名が「総合技術研究会2019九州大学」にて技術報告
- 34 「博士人材キャリア開発シンポジウム“ミニ・シンフォスター2019”－博士インターンシップ体験報告会－を開催
- 35 全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック会議シンポジウムを開催
- 36 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 38 「ライフサイエンス 新技術説明会」を開催

部局ニュース

- 39 低温科学研究所がパリ天文台と部局間交流協定を締結
- 39 環境健康科学研究教育センターがワライラック大学公衆衛生学院と部局間交流協定を締結



歯学研究院佐野教授にHollenback Memorial Prize



現代日本学プログラム課程学士学位記授与式・卒業祝賀会



低温科学研究所がパリ天文台と部局間交流協定を締結



北方生物圏フィールド科学センターで公開水産科学実習

- 40 第9回日本学術振興会育志賞－優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援－を情報科学研究科学生が受賞
- 41 北海道大学クラーク賞、函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙
- 42 水産学部キャンパス移行式及びびくろしお賞授賞式を挙
- 42 薬学研究院で「第13回薬学研究院研究発表会」を開催
- 43 モスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科長を文学研究科に招聘
- 44 学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）平成30年度公開成果報告会を開催
- 45 「北海道の防災研究を考える～広域複合災害研究センターへの展開～」を開催
- 46 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
- 46 メディア・コミュニケーション研究院で、留学生と中国語シニア学習者の共創による北大キャンパスVRガイド体験会を開催
- 47 植物園で小学生とその家族向けの公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催
- 48 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
- 50 環境健康科学研究教育センターが平成30年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
- 51 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第15期修了生に修了証書授与
- 51 北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催
- 52 物質科学リーディングプログラム（ALP）1期生の修了式を挙
- 53 附属図書館所蔵「ヤエンコロアイヌ文書」が国の重要文化財に指定

お知らせ

- 54 平成31年度 人間ドック・特定健康診査の実施について

博士学位記授与 56

同窓会との交流

- 75 函館同窓会「総会及び懇親会」

諸会議の開催状況 75

学内規程 77

人事 86

- 93 新任副学長・部局長等紹介
- 97 理事・副学長・部局長等（再任）紹介
- 100 新任教授紹介
- 105 新任部課長等紹介

資料

- 109 平成31年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 110 平成31年度入学者の都道府県分布及び地域比率

■全学ニュース

平成30年度学位記授与式の挙行

平成30年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代

平成30年度学士学位記授与式を3月25日（月）に、本学第一体育館において行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部及び現代日本学プログラム課程の卒業生2,282名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

また、新渡戸カレッジの修了者33名を代表し、総代へ長谷川晃新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。

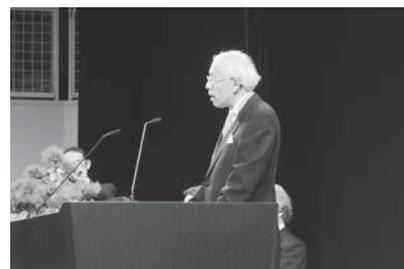
笠原正典総長職務代理（理事・副学長）は、卒業生に向けて「フロンティア精神とともに自信を持って果敢に挑

戦してください。皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新たな人生を切り拓かれることを祈念します。」との言葉を贈りました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長 石山 喬氏は祝辞の中で、「北大でまかれたBe gentlemanの種を大切に、自分なりのGentleman像を作り上げてください」と述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

その後出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

3月26日（火）には、フォーポイントバイシェラトン函館において水産学部卒業生194名を代表し、各学科の総代へ水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には長谷川新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。



告辞を述べる笠原総長職務代理(理事・副学長)



祝辞を述べられる石山会長



修了証書を受ける新渡戸カレッジ総代

平成30年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成30年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、第二体育館において行いました（水産科学院については翌日挙行）。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、16研究科等の修士課程修了者1,494名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者39名、経済学院会計情報専攻修了者21名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者37名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、15研究科等の博士課程修了者292名、論文博士14名を代表し、各研究科等の総代へ、笠原正典総長職務代理（理事・副学長）から博士学位記が授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

3月26日（火）には、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産科学院の修士課程修了者90名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者7名に対し、笠原総長職務代理（理事・副学長）から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号56ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



会場の様子



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	179
教育学部	62
法学部	200
経済学部	169
理学部	305
医学部	284
歯学部	48
薬学部	80
工学部	698
農学部	211
獣医学部	(80) 38
水産学部	194
現代日本学プログラム課程	8
計	(2,518) 2,476

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	71	法科大学院(法学研究科法律実務専攻)	39
法学研究科	20	経済学院会計情報専攻	21
情報科学研究科	184	公共政策学教育部公共政策学専攻	37
水産科学院	90		
環境科学院	132		
理学院	107		
農学院	151		
生命科学院	111		
教育学院	47		
国際広報メディア・観光学院	37		
保健科学院	48		
工学院	(376) 365		
総合化学院	138		
経済学院・経済学研究科	29		
医学院・医学研究科	24		
医理工学院	14		
国際食資源学院	16		
計	(1,595) 1,584	計	97

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	24	3
法学研究科	2	
経済学研究科		
医学研究科	52	
歯学研究科	24	
獣医学研究科	11	1
情報科学研究科	24	
水産科学院	7	
環境科学院	12	3

研究科等名	課程博士	論文博士
理学院	30	1
農学院	22	2
生命科学院	19	1
教育学院	5	
国際広報メディア・観光学院	5	
保健科学院	2	
工学院	28	2
総合化学院	32	1
計	299	14

学士学位記授与式

北海道大学総長 名和 豊春

本日、卒業される2,476名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

北海道大学での学生生活を終え、人生の大きな節目を迎えられたことに対し、北海道大学を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんが、本学で学んだ知識や経験、出会いを大切にしながら、持てる力を存分に発揮され、豊かな人生を築かれることを期待しています。また、皆さんを、ここまで支えてこられたご家族をはじめ関係各位の皆様に対しましても、心よりお祝い申し上げます。

これから社会人として活躍される皆さん、進学してさらに学問を究められる皆さん、それぞれが様々な道へ歩まれようとしています。

皆さんにとって、明日からは、この北海道大学が母校となります。

今日、大学の門を出るとき、歩みを止め、皆さんが学んだ本学をもう一度振り返ってみてください。皆さん一人ひとりの胸の中に、勉学に励んだ日々、クラブ活動やサークル活動に没頭した日々、友人と語り明かした日々など、いろいろな思い出が鮮やかに蘇ることと思います。それらの記憶は、本学での学生生活を通じて得た貴重な財産であります。

私は、大学での学びは、皆さんがこれから過ごす人生の基軸になるものと考えております。

皆さんは、これから多くの試練に直面すると思います。そのときには、是非、学生時代の体験を思い出してください。必ずや、そこから試練を打開するアイデアや勇気が得られると思います。

北海道大学は、4つの教育理念として、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を掲げ、140年余りの歳月を経た今も、その志は脈々と受け継がれています。このような理念の下で学ばれた皆さんは、それぞれの専門分野における深い知識を持ちながらも、専門性のみにとらわれることなく、物事を多元的、俯瞰的に捉える能力や、洞察力、実践力、想像力、さらに高邁な大志と国際的な視野を養ってきたと確信しています。

また、皆さんにとって、これからの人生は、自分にとっての「天職」を見いだす旅路といえます。「天職」について、本学の前身である札幌農学校の第2期生であり、日本を代表する思想家である内村鑑三は、こう述べています。

「天職を発見するの法は今日目前の義務を忠実に守ることとであります。要するに天職は之に従事するまでは発見することの出来るものではありません。予め天職を見付け置いて然る後に之に従事せんと思ふ人は終生、其天職に入ることの出来ない人であります。」

今風に言いますと「天職を発見する方法は、日々の義務を忠実に守ることとあります。あらかじめ天職を見つけておいて、それに従事しようと思う人は、終生天職に就くことのできない人であります。」となります。

皆さんは、これから先、それぞれの選んだ職に就き、社会と深くつながることになりますが、内村鑑三が言うように、日々の職務を誠実に実行する中で、自分に与えられた天職が得られるのだということをしつかりと胸に刻んでいただきたいと思います。

今、私たちは、環境汚染、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇、少子高齢化など数多くの世界的な問題を抱えています。これらはいずれも空前のスケールを有する重要な問題です。日本は、前世紀において、これらの困難に遭遇し、世界で初めて課題解決の方策を見いだしてきた国です。言い換えると、困難な時代であればあるほど、真に我が国が国際社会におけるフロントランナーとして、世界に貢献できると言えます。

皆さんは、そのことに誇りと自信を持って、これからの人生で活躍して頂きたいと思います。歴史を振り返りますと、明治維新以降、日本は欧米諸国から様々な産業や社会制度を導入して先進国となりました。そして、今や世界に類を見ない「世界的な課題を解決できる先進国」となったのです。

現代社会が抱えている課題は、もはや、再び欧米諸国から何かを導入することによって解決できるものではなく、むしろ、私達が世界に先駆けて課題を解決しなければならぬものです。それが日本の使命であり、これからの日本を担う皆さんの国際社会における役割だと思えます。

今日、北海道大学を巣立つ皆さんが、それぞれの立場で世界をリードする人材へと発展されることを強く期待しています。

グローバル化が進み、インターネットが世界の各地を一瞬で結び付ける現在にあつては、相手の立場に寄り添いながらも、問題解決や変革を主導できる人材が不可欠です。

グローバルなフィールドで主体的に構想し、多様な人々の理解と共感を得ながら、問題意識を国際社会と共有し、地球規模の社会モデルを提案していく必要があります。皆さんが、このことを実践されることを望みます。

卒業はけっして皆さんとお別れを意味するものではありません。むしろ、これからの長い人生の中で、社会の中の皆さんと北海道大学は、これまで以上に強い絆で結ばれていくものだと私は思っています。

北海道大学は、学生時代の学びの場だけでなく、皆さんがこれから歩む人生においていつでも立ち寄れる「港」であり、皆さんが直面する課題を解決するために必要な人知のネットワークの場として機能しつづけます。

同窓会組織「校友会エルム」の活動をはじめ、様々な形で皆さんとの交流を図ってまいりますことを約束いたします。

最後になりますが、北海道大学は、これからもさらなる発展を目指して挑戦を続けてまいります。

私は、皆さんが、課題解決のための能力を備え、無限の可能性を秘めており、世界各地でリーダーとして活躍できる人材であることを信じて疑いません。フロンティア精神とともに自信を持って果敢に挑戦してください。皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新たな人生を切り拓かれることを祈念し告辞の結びとします。

学士学位記授与式

北海道大学校友会エルム会長 石山 喬

皆さんご卒業おめでとうございます。

只今ご紹介いただきました、昭和42年卒業の石山でございます。

今年も2,476名のはつらつとした同窓生を仲間として迎えることができ大変うれしく思います。若い皆さんが同窓会の会合に参加してくれますと、我々年寄り自分の息子や娘が一人前に成長して巣立ってきたように思え大変喜ぶものです。

最近の世界を見ると自国第一主義や覇権主義が大きくはびこっています。日本もかつてはそのような考えで、自国民やアジア諸国に多大な迷惑をかけた歴史があります。国家間が互助の精神を発揮してお互いの文化を大切に、お互いが平和に安心して暮らせるよう知恵を出し合っていないと混雑が増幅し、世界の人々の平和な暮らしが守れなくなってしまうと考えられます。

北大の基本的精神は、クラークさんが校則を作るとき言われたという、「Be gentleman」に始まると思います。皆さんはgentleman とはどのような人と考えますか、私は「立居、振る舞い、言動について人から尊敬されるような人」と考えています。そして自分の心構えとして「昔よく言われていた御天道様に恥ずかしい事が無いよう、御天道様の下をいつも裸で歩ける人間」であろうと心がけるようにしてきました。

昨年多くの大企業で不正が行われていたことが報告されました。これらの殆どは内部告発によって明らかになっています。組織の中で、納期、品質、コスト、そして決算等で具合の悪い問題が発生した場合にごまかしが行われ、それがなし崩しに慢性化していったものです。これらの不正に耐え切れなくなった人から声上がるのが、内部告発です。組織のトップが承知して行っていると会社そのものの存続が問われてしまいます。国の組織においても同じです。そのような厳しい状況でもじっと耐え忍んで正しい事を行っていく組織は必ず成長していきます。企業だけでなく社会全体の色々なところに「Be gentleman」が必要で、地位が上の人ほど必要です。北大卒業生にはこの精神が植え付けられていると思います。私は50年以上前に卒業しましたが、社会人になりたての頃はまだ学生気分は抜けず、上司にとっては不良社員でありました。Be ambitious も小さなもので、将来部長くらいになれるかな、工場長までになれるかな、程度でしたが、次第に大きな組織を任せられるようになると、多くのメンバーに真面目にきちんとした

仕事をしてもらわないと組織として成り立たなくなるので、そのためには自分の言行が常に明確で、分かりやすく、従業員が安心して働けるようにしようと心がけ、御天道様の下を裸で歩けるように心がけてきました。これを超えるうちに、いつの間にか社長になり、会社の業績も良くなっており、最近では証券会社には推奨株に選ばれるほどにもなりました。

昨年から日産のゴーンさんの事件が世間を騒がせています。日産は毎年プリンスホテルの飛天の間という2000人以上入る大きな宴会場で、顧客やサプライヤーをお呼びして新年賀詞交換会を開いていました。ゴーンさんが社長になる前の賀詞交換会は非常に静かで、社長さんの挨拶を聞いていても全く盛り上がりせず、この会社は大丈夫かなと感じるものでした。ゴーンさんが社長になり改革が始まった後の会は大変な活気に包まれ、会場全体が興奮状態になっていました。そして皆さんもご存知のように日産は見事に復活致しました。会社の病巣を切り取り、慣習にとらわれず、果敢に改革に取り組んだ実行力は日本の経営者達に大きなショックを与えたものでした。ゴーンさんの改革が無ければ日産は破綻していた可能性がありました。今報酬の不開示や自己損失の会社への付け替え等によって告発されていますが、あれだけの成果をあげたのだから、正々堂々と20億円でも30億円でも報酬をもらえばよかったと思います。ノブレス・オブリージュという言葉があります。(地位の高いものはそれにふさわしい振る舞いをしなければならない)というフランスの諺が語源だそうですが、私はBe gentlemanと同様な意味を持つと思います。ゴーンさんの行動にはこれが欠けていたのではないかと考え、残念に思っています。

皆さんはこの北大で蒔かれたBe gentlemanの種を大切に自分なりのGentleman 像を作り上げて下さい。そしてこれを大切にBe ambitious に繋げて行って下さい。

皆さんが高い志を持ち、活動されていく時には北大の4つの理念をご自分の行動規範として意識されると役に立つと思います。

フロンティア精神はこれからの社会の変化の中で、日本にとっても世界にとっても大変重要です。常に今まで誰も手掛けたことのない領域を開拓していく事が世界の平和のためにも、地球環境の保護のためにも、人々が安心して暮らしていけるようにするために求められています。

国際性の涵養について、これからは他国との付き合いでも自国だけの繁栄を望むような政策はどこかで行詰まりを迎えてしまうことと思います。地球環境を保護していく事でも各国が考え方を共有し協力していくことが大切です。どこの国にも国民が大切にしているその国の文化やアイデンティティーがあります。これらを理解し、大切に始めて真の協力関係が構築されていきます。

全人教育はBe gentlemanに通じるものと考えます。内村鑑三さんの代表的日本人という著書があります。これには、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹さん達のこと書かれています。この方達の考え方は自分というものはさておき、常に多くの人達が成り立っていけるよう考えを巡らせていたようです。

西郷さんの「命も要らず、名も要らず、位も要らず、金も要らず、という人こそ最も扱いにくい人である。だが、このような人こそ、人生の困難を共にすることのできる人物である。またこのような人こそ、国家に偉大な貢献をすることのできる人物である。」という言葉が残されています。ここまでの生き方はできませんが、覚えておいて良い言葉かと思えます。このような覚悟の人には黙って付いていきたくありませんね。

実学の重視、これは学生を指導するときクラーク先生が大切にしていた基本であります。実際に身体を使い農作業などをさせてそれに対して賃金を払っておられたという話が残っています。多分最初の学生は士族の出身ですから、農作業などは自分たちのやるべきことではない、下層階級がやることだ、くらいに考えていたのだらうと思います。しかし物事は実際に自分の手や目で触れてみないと本物は感じ取ることはできません。もの作りの世界では、作り方を変えるときや、新しいものを作る時には、4Mの条件を調査します。これはマン、マシン、マテリアル、メソッドこの4項目におかしいことはないか、オペレーターの習熟度は、設備の稼働状況、精度は良いか、材料は適正か、手順はマニュアル通りか、これらは実際に確かめていかなくてはなりません。これからの世の中で、AIやロボットによっていろいろなものが進化するにしても、全ての事柄は実際の経験がベースになっています。

最後に校友会エルムの事です。皆さんは学部を卒業されると殆どの方が学部同窓会に所属されることと思います。また大学を離れていかれますと、東京や関西等地方の同窓会や海外の同窓会もありそれぞれ活動をしています。エルムはこれらの全ての同窓会を基礎同窓会として、北大関係者全ての人が参加できる組織です。エルムは学生の就職支援、寄附金集め、インターンシップ、海外インターンシップ、新渡戸カレッジフェローの推薦、ホームカミングデーへの協賛、大学祭への支援等の活動を通じて北大を応援しています。皆さんは北大という総合大学を卒業したという

大きなメリットをまだ感じていないだらうと思います。日本には優秀な単科大学がありますが、これらの大学卒業では得られない広い世界のメンバーになれることです。学生時代は学部や学科などの世界に住んでいますから、殆ど単科大学と同じですが、校友会や同窓会に入るとこの北大の全ての学部出身者と親しい友人として付き合いすることができます。この広さが校友会や同窓会の最大のメリットです。私達は東京で大きな企業で上級役員、社長、会長をされた同窓生の皆さんと北大を応援する会を作っています。工学部、農学部、水産学部、医学部、獣医学部、理学部、経済学部、法学部、文学部等様々な学部出身者の集まりです。皆さんもぜひ校友会に参加して、色々な世界で活躍されている先輩たちと交流をしていただきたいと考えます。通常ではお目にかかれなような、会社の中では話もできないような先輩たちに親しく話を聞くことができます。

ただ、条件は一つだけ「都ぞ弥生」を2番まで歌えるようにしておいてください。これができれば誰でもOKです。すぐに隣のおじさん状態になってしまいます。

皆さんが、Be gentlemanを心に秘めて、大きく羽ばたいていかれることを祈念して私のご挨拶を終わらせていただきます。

平成31年度入学式の挙行



総代による入学者宣誓

平成31年度の入学式を、4月4日（木）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

式は、来賓の校友会エルム会長 石山 喬氏、大韓民国、ロシア連邦、中華人民共和国及びオーストラリア連邦領事館からの代表者並びに役員及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、笠原正典総長職務代理（理事・副学長）から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、笠原総長職務代理（理事・副学長）は告辞の中で、本学の概要について歴史的経緯を含めて紹介し、是非、本学の雄大なスケールを味わってほしいと述べました。

続いて、私たちは少子高齢化、環境汚染など数多くの世界的な問題を抱え、特に少子高齢化は、我が国が初めて経験する世界的にも類を見ないもので、過去の例や外国での例を参考にすることはできないことから、新しい状況を自ら正確に把握し、正しい理解に

基づき「自分の頭で考える」ことが大切であり、大学生活の学びの中で、ぜひ、「自ら考える」能力と習慣を身に付けてくださいと述べました。

さらに、そのためには基礎となる幅広い知識を獲得し、自由自在に取り扱えるようになる必要があるため、最初の1年間、高等教育推進機構・総合教育部に籍を置き、様々な学問分野の基礎を学び、自らの関心を広げ、個々に修学のスタイルを作っていくこととなり、幅広い領域の知識と教養を培ってこそ、各学部の専門課程における学びも実を深めていくことが可能となることから、総合教育での勉学に励み、「自ら学び、自ら考える」という姿勢を体得してほしいと述べました。

そして最後に、グローバル化が急速に進む現在では、主体的に構想し、問題意識を国際社会と共有のうえ課題解決を提案していく必要があります、そのためには、英語を中心とする外国語によるコミュニケーション能力と異文化理解が欠かせないことから、「新渡戸カ

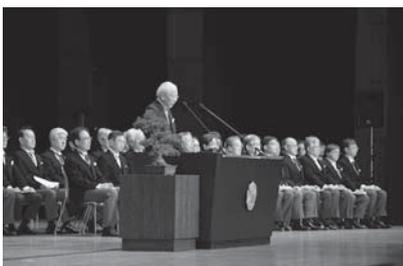
レッジ」への積極的な参加により、海外の異なった考え方や価値観を理解して、世界で活躍できる人材になって欲しいと、激励の言葉を述べました。

続いて、留学生35名を含む2,564名の入学者を代表して、東 尚宏さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学理事、副学長、監事及び部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、本学卒業生である、農学部副学部長の野口 伸教授から「本学卒業生からのメッセージ」としてご講演いただき、引き続き長谷川晃副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンス、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「I've been working on the railroad」の合唱が行われ、全ての行事が終了しました。

（学務部学務企画課）



告辞を述べる笠原総長職務代理



野口教授から後輩へのメッセージ



長谷川副学長によるガイダンス

入 学 式

北海道大学総長 名和 豊春

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

この春、北海道大学は、2,564名を新入生として迎えました。北海道大学を代表して、希望と活力に満ち溢れた皆さんを心から歓迎するとともに、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

北海道大学は、今から143年前の1876年に、「札幌農学校」として、北海道開拓の任に当たる人材を育成するため、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して明治政府により設立されました。

当時は、明治維新を経て、我が国が近代国家へ歩み始めた時期であり、東京大学を初めとして幾つもの大学が、国家の近代化と産業の振興を担う人材の育成を目的として、ヨーロッパ、特にドイツの大学を手本として、創立されました。

それに対して、札幌農学校では、アメリカ流のリベラルアーツ教育が行われ、農学だけではなく、数学、化学、生物学から語学、歴史学、経済学まで幅広い基礎教育が英語により実施されていました。そこでは、未踏の学問領域を積極的に探求する「フロンティア精神」、国際人としての素養や教養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤となる幅広い教養を培う「全人教育」、そして、物事の本質を見極めるべく真理を探究し、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」を理念とした教育が実践されました。皆さんは、本日、このような、建学以来の長い年月の中で培われてきた四つの基本理念を持つ北海道大学の一員となったのです。

北海道大学は、12の学部、21の大学院、3つの専門職大学院を擁する我が国を代表する基幹総合大学の一つです。日本全国はもちろん、100を超える国々から集った約1万9,000名の学生がキャンパスで学んでおり、文字通り、世界に開かれた大学です。

本学は、札幌市の中心に位置し、日本でも有数の規模を誇る緑豊かな札幌キャンパスのほか、函館キャンパス、全国6カ所にある広大な研究林、臨海・臨湖実験所、果樹園、植物園、牧場などを有し、自然に恵まれた環境の中で世界水準の教育・研究が行われています。

皆さんには、是非、北海道大学のキャンパスをできる限り歩き、この大学の雄大なスケールを味わってもらいたいと思います。

さて、今、私たちは、少子高齢化、環境汚染、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇など数多くの世界的な問題を抱えています。例えば、新入生の皆さんが生まれた2000年前後では、人口に占める65歳以上の高齢者の比率は全人口の約17%でしたが、現在では約28%となり、皆さんが働き盛りの40歳代になる2040年代には人口の約35%、実に4割弱が高齢者となります。このような少子高齢化社会の到来は、我が国の歴史において初めて経験する事態であり、世界的にも類を見ないものです。したがって、この少子高齢化社会でこれから発生する問題を解決するためには、過去の例や外国の例を参考にすることはできません。新しい状況を自ら正確に把握し、正しい理解に基づいて問題を解決しなければなりません。つまり、「自分の頭で考える」ことが大切です。そのためには、既成の概念や思考方法を疑い、必要に応じてそれを変え、時には壊していくことが必要となります。

具体的には、問題となっている現象や変化を正確に理解し、問題の所在を把握し、自分自身で答えるべき課題を特定した上で、課題解決に向けた論理を組み立て、次にその論理が正しいかを検証しながら、解決策を講じて行かなければなりません。これは、大学で学ぶ学問の方法論そのものです。すなわち、自ら考えるべき問題を設定して研究課題とし、それを多方面から科学的方法論に基づいて解析し、現象を説明しうる仮説を作り、仮説の正否を実験や統計、さらには過去の文献等を用いて検証し、正しい結論を導くわけです。

また、この「考える」という営みのためには、自らの結論が社会でどう受け止められるかに拘わらず、主張する覚悟と勇気が必要です。大学で学問の自由と自治が尊重されなければならないことをだれもが認めているのは、既存の権威や常識に束縛されることなく、自ら「考える」ことが真理の探究のために不可欠であり、また、「自ら考える」能力を備えた人材を養成するために大学が存在するからに他なりません。皆さんは、大学生生活の学びの中で、ぜひ、「自ら考える」能力と習慣を身に付けて下さい。さらに、この「考える」力を身に付けるためには、まずはその基礎となる幅広い知識を獲得し、それを自由自在に活用できるようになる必要があります。このため、皆さんは、最初の1年間、高等教育推進機構・総合教育部に籍を置いて様々な学問分野の基礎を学びながら、自らの関心を広げ、個々に修学のスタイルを作っていくことになります。

そして、このようにして、幅広い領域の知識と教養を培ってこそ、各学部の専門課程における学びも深めて行くことができるのです。ですから、皆さんは、まずは総合教育部での勉学に励み、「自ら学び、自ら考える」という姿勢を体得して、幅広い知識と教養を身に付けてください。

次に、本学の教育理念の一つである「国際性の涵養」についても一言、述べたいと思います。国境を越えた人の移動が急増し、インターネットが世界の各地を一瞬で結び付け、あらゆる面でグローバル化が進んだ現在にあっては、グローバルな視点をもって主体的に構想し、多様な人々の理解と共感を得ながら、問題意識を国際社会と共有し、課題解決を提案していく必要があります。そのためには、英語を中心とする外国語によるコミュニケーション能力と異文化の理解、そして何よりも自国の歴史と文化に対する深い理解が欠かせません。

北海道大学では、本学の前身である札幌農学校の第2期生であり、国際連盟の初代事務次長として国際舞台で活躍され、今日に至るまで読み継がれている国際的な名著「武士道」を著した新渡戸稲造博士の名を冠した「新渡戸カレッジ」を平成25年度に開校しました。そこでは、国際経験豊かな本学同窓生の協力を得て、英語での授業や海外留学のプログラムを提供し、自文化の自覚に裏付けられた異文化理解能力を養い、国際社会で活躍できる人材を養成しています。皆さんには、この「新渡戸カレッジ」に積極的に参加し、海外の異なった考え方や価値観を理解し、世界で活躍できる人材になって欲しいと願っています。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったWilliam Smith Clark博士は、“Be gentleman!”（紳士たれ）の一言を校則とし、学生に自律心、独立心、社会的責任と義務を目覚めさせました。皆さんも“Be gentleman!”、そしてその現代版であります“Be lady and gentleman!”の意味を自ら追い求め、その答えを見いだしてください。北海道大学は、皆さんを一個の自律した人格として尊重し、敬意をもって接します。そのかわり、皆さんに対しても、そのような自律した個人の自覚と責任を求めたいと思います。このような人間教育に立脚した「全人教育」は札幌農学校以来の建学の精神に則ったものであり、北海道大学はこの伝統を大切にしてきたことを、本学の一員として知っておいて欲しいと思います。

結びに、本日、大学生活の一步を踏み出すことになった皆さんに、Clark博士が残されたもう一つの大変有名な言葉“Boys, be ambitious!”を現代版に改めた“Girls and boys, be ambitious!”（少年・少女よ大志を抱け!）」という言葉を贈り、告辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

本学永年勤続者表彰に90氏



笠原総長職務代理から表彰状の授与

平成31年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式を3月29日（金）学術交流会館小講堂で行いました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々90氏の代表として、農学研究院教授阿部

純氏に、笠原正典総長職務代理から表彰状の授与及び記念品の贈呈が行われました。

次いで、笠原総長職務代理から、被表彰者の方々の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第一会議室におい

て祝賀会が催され、被表彰者と関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
学務部	佐々木 淳 子	理学研究院	相 川 弘 明
施設部	板 井 義 喜	〃	竹 下 徹
監査室	斎 藤 之 史	〃	武 田 定
文学研究科	田 山 忠 行	〃	高 田 泰 弘
〃	千 葉 恵	薬学研究院	鈴 木 利 治
〃	細 田 典 明	農学研究院	阿 部 純
〃	山 本 絹 子	〃	坂 下 明 彦
法学研究科	田 村 善 之	〃	近 藤 哲 也
情報科学研究科	高 橋 庸 夫	〃	小 泉 章 夫
〃	栗 原 正 仁	〃	王 秀 峰
水産学部	吉 田 義 孝	〃	高 橋 公 咲
〃	中 村 幸 也	教育学研究院	水 野 眞 佐 夫
〃	沢 中 和 也	メディア・コミュニケーション研究院	杉 浦 秀 一
函館キャンパス事務部	村 上 建 市	〃	藤 野 彰
地球環境科学研究院	甲 山 隆 司	〃	山 田 澤 明
〃	松 田 冬 彦	〃	大 野 公 裕
〃	長谷部 文 雄	〃	川 寄 義 和

所	属	氏名
保健科学研究院		村田 和香
〃		進藤 ゆかり
工学研究院		飯場 正紀
〃		上田 多門
〃		梅垣 菊男
〃		松藤 敏彦
〃		吉田 明彦
工学系事務部		勝山 憲明
経済学研究院		岡部 洋實
〃		佐々木 憲介
医学研究院		松居 喜郎
〃		清水 宏
歯学研究院		齋藤 正恭
〃		井上 貴一朗
〃		金子 正範
歯学事務部		柴田 仁
北海道大学病院		寶金 清博
〃		高道 理
〃		笠師 久美子
〃		佐藤 ひとみ
〃		大井 陸美
〃		表 留美子
〃		山田 千津子
〃		櫻田 弘美
〃		須藤 三千代
〃		竹内 ひとみ
〃		戸澤 幸子
〃		藤林 薫

所	属	氏名
北海道大学病院		坂元 裕美
〃		丸山 和子
〃		太田 香苗
〃		高橋 えり子
〃		刈田 信子
〃		笹川 八州子
〃		秋沢 宏次
〃		門馬 弘司
〃		阪野 充
〃		輪島 克司
病院事務部		堀川 まゆみ
〃		志賀 政明
〃		堀川 俊弥
〃		幕田 典子
〃		隅田 由美子
低温科学研究所		原 登志彦
〃		伊藤 敏文
遺伝子病制御研究所		野口 昌幸
触媒科学研究所		高橋 保
附属図書館		中林 ゆかり
アイソトープ総合センター		野矢 洋一
北方生物圏フィールド科学センター		本村 泰三
〃		清水 晋
〃		杉山 淳一
〃		林 寛
〃		上浦 達哉
〃		小宮 圭示
〃		富岡 輝男

名誉教授に36氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月13日（水）開催の教育研究評議会において、次の36氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月4日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

千葉 惠	（元大学院文学研究科教授）	杉浦 秀一	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
細田 典明	（元大学院文学研究科教授）	藤野 彰	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
田山 忠行	（元大学院文学研究科教授）	大野 公裕	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
田村 善之	（元大学院法学研究科教授）	井上 馨	（元大学院保健科学研究院教授）
栗原 正仁	（元大学院情報科学研究科教授）	村田 和香	（元大学院保健科学研究院教授）
高橋 庸夫	（元大学院情報科学研究科教授）	梅垣 菊男	（元大学院工学研究院教授）
甲山 隆司	（元大学院地球環境科学研究院教授）	上田 多門	（元大学院工学研究院教授）
松田 冬彦	（元大学院地球環境科学研究院教授）	松藤 敏彦	（元大学院工学研究院教授）
長谷部 文雄	（元大学院地球環境科学研究院教授）	岡部 洋實	（元大学院経済学研究院教授）
相川 弘明	（元大学院理学研究院教授）	佐々木 憲介	（元大学院経済学研究院教授）
武田 定	（元大学院理学研究院教授）	清水 宏	（元大学院医学研究院教授）
竹下 徹	（元大学院理学研究院教授）	松居 喜郎	（元大学院医学研究院教授）
儀我 美一	（元大学院理学研究科教授）	大滝 純司	（元大学院医学研究院教授）
鈴木 利治	（元大学院薬学研究院教授）	寶金 清博	（元北海道大学病院教授）
阿部 純	（元大学院農学研究院教授）	田中 歩	（元低温科学研究所教授）
近藤 哲也	（元大学院農学研究院教授）	野口 昌幸	（元遺伝子病制御研究所教授）
坂下 明彦	（元大学院農学研究院教授）	高橋 保	（元触媒科学研究所教授）
水野 眞佐夫	（元大学院教育学研究院教授）	本村 泰三	（元北方生物圏フィールド科学センター教授）

平成30年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院 看護部副看護師長 櫻田弘美氏、同医療技術部放射線部門診療放射線技師 齋藤英一氏が表彰され、3月6日（水）文部科学省3階講堂において、表彰式が行われました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（総務企画部広報課）



北海道大学病院 看護部
副看護師長

さくらだ ひろみ
櫻田 弘美 氏

3月6日（水）、東京で開催された医学教育等関係業務功労者表彰式に出席してまいりました。北海道からは5人の選出で、大変名誉な賞をいただいたことに感激しました。

私は北大病院に入職し38年間勤務させていただきました。病棟は精神神経科、第2内科、脳神経外科・神経内科で勤務しました。医師をはじめ多職種の方々と共に、一人一人の患者さんにとっての最良の医療の提供ができるように取り組んできました。病気や障害を抱える中に、一人一人の患者さんや家族の生活や願いがあることを知り、希望を叶えるために何ができるのかを考えてきました。残念ながら亡くなる方も少なくありませんでしたが、一人一人の患者さんから多くのことを学ばせていただきました。辛いこともありましたが、やりがいを感じ看護師である事に誇りを持ちながら働き続けることができました。最後の10年間は物流管理センター、看護部キャリア支援室で勤務しました。物流管理センターでは、直接患者さんの看護に携わることはありませんでしたが、安全な医療を支える部署の役割を学びました。キャリア支援室では、主に1～2年目の看護師の成長支援に向け部署と連携を図り取り組みました。北大病院に求められる看護師を育成するために必要な研修や支援を考え、面談・実践の場での個別支援・フィジカルアセスメント研修や2年目多重課題研修の企画実施などを行いました。また、多職種の方々との合同の研修にも企画させていただきました。若い看護師の方々が葛藤しながら成長していく姿に喜びを感じ充実した日々を送らせていただきました。

最後に、これまでお導きくださった諸先輩方、歴代の看護部長、副看護部長、看護師長、同僚の皆様から感謝いたします。

※同氏は、平成31年3月末で定年退職。



北海道大学病院 医療技術部放射線部門
診療放射線技師

さいとう えいち
齋藤 英一 氏

3月6日（水）、文部科学省より医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、身に余る栄誉と深い感謝を申し上げます。またこの表彰にあたり、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

さて、私が北海道大学病院に就職した平成元年は、当院が世界に先駆けてCR（Computed Radiography）を臨床に採用した記念すべき年です。従来の銀塩フィルムでのX線撮影とCRによるX線撮影の両方の仕事ができ、とても貴重な経験をさせてもらいました。そのため、二つの世界の知識と技術を、実習学生や後輩に指導できたのは幸運でした。そして、平成14年には放射線治療に携わることになり現在に至っています。この放射線治療分野でも、配属された当初は知識と技術だけがたよりの部門でした。しかし、ここ治療部門でも、コンピューターの利用により日進月歩の勢いで治療精度が向上していきました。とりわけ当院では、白土博樹教授が開発しました動体追跡治療システムの使用により、格段の精度で患者さんに放射線治療を施すことが可能になりました。そして、治療部門の諸先輩方のご指導ご鞭撻のおかげで、放射線治療専門技師の資格を取らせていただきました。その結果、教育実習の学生や他施設からの研修生への指導に自信をもってあたるできるようになりました。

最後になりますが、今の自分があるのは諸先輩方、同僚ならびに同じ部門での医師や看護師の方々のご支援無くしてはなりません。ここに深く感謝しお礼を申し上げます。

（北海道大学病院）

歯学研究院 佐野英彦教授にHollenback Memorial Prize

歯学研究院の佐野英彦教授がAcademy of Operative Dentistryの2019年度George M. Hollenback Memorial Prizeを受賞しました。この賞は、歯科保存学分野で教育・研究・臨床等で世界的な貢献のあった方々に贈られるもので、日本人としては、1997年の中林宣男教授（東京医科歯科大学医用器材研究所所長、当時）、1999年の総山孝雄東京医科歯科大学名誉教授（日本学士院会員、当時）に次いで3人目の受賞です。今回の受賞は、佐野教授が、今までの教育研究を通じて、日本発の接着歯学を進展させ、この臨床応用が世界に広がっていったことが評価されたものです。

George M. Hollenback先生（1886-1973）は研究・教育・臨床で歯科に大きく貢献された方で、その診療には定評があり、Katherine Hepburn, Clark

Gable, Olivia de Havilandなど多くのハリウッドセレブリティが患者でした。また患者の一人に大富豪のHoward Hughes氏がいたこともあり、同氏の寄付により研究所をハリウッドの近くに設立し、そこで数多くの研究成果を発表しています。佐野教授の恩師も1960年代にHollenback先生の研究所に留学し、研究をなさっていました。また、Hughes氏はHoward Hughes Medical Instituteを設立した方としても有名で、この財団の財産総額はビル&メリンダ・ゲイツ財団に次ぐ全米2位の規模ともいわれています。

授賞式は、シカゴのThe Drake Hotelで行われ、佐野教授はその際に、今までに研究協力いただいた方々への感謝の言葉を述べると共に、今後の国際共同研究をさらに発展させていくという

趣旨のスピーチを行いました。

今回の受賞をきっかけに、これからも海外からの大学院生が多数入学すること、及び接着歯学を基礎にした歯科医学のさらなる発展が期待されます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



会場のThe Drake Hotel



授賞式会場



佐野教授による受賞スピーチ



佐野教授（中央）とAcademy of Operative DentistryのPresident（左）及び選考委員長（右）

平成31年4月 大学院を改組

4月1日、次のとおり大学院を改組しました。

【専攻の新設】

農学院 農学専攻

国際広報メディア・観光学院

国際広報メディア・観光学専攻

【博士後期課程の新設】

国際食資源学院

【学院・研究院化】

文学研究科

→ 文学院・文学研究院

情報科学研究科

→ 情報科学院・情報科学研究院

なお、国際食資源学院及び情報科学院については、総長直轄の教育研究組織である国際連携研究教育局（GI-CoRE）における国際連携研究の成果

が大学院教育に活かされています。

また、各学院についての詳細は下記でもご覧いただけます。

◆教育組織の改革

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/reform/>

（総務企画部企画課）

「広域複合災害研究センター」を設置

近年我が国では豪雨や地震が頻発しており、山崩れ、洪水氾濫、津波、地盤沈下など様々な現象が複合して、広域にわたり自然災害が発生する傾向にあります。自然災害では、人命や財産、土木施設など住民の生存基盤にとどまらず、農林畜水産業や電力・水・交通網などの産業基盤に大きな被害が生じます。北海道でも、平成28年には北海道豪雨により、また平成30年は北海道胆振東部地震により、広域複合災害が発生しました。北海道は、我が国の食料生産基地であるにもかかわらず、一極集中・過疎化という第一次産業の空洞化を示す地域で、災害に対す

る脆弱性は我が国の社会経済にも大きな影響を及ぼします。このような現状を踏まえ、平成31年4月1日に学内共同研究施設である「広域複合災害研究センター（Center for Natural Hazards Research）」が設置されました。

本センターでは、災害規模・形態・被害の予測手法、それらに対する対策手法や災害復旧のシステム化にとどまらず、災害に強い地域社会のあり方や社会構造などを研究し、「広域・複合型災害減災計画・対策ガイドライン」を関係行政・研究機関、学内関係プロジェクト（ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点等）、地域社会と連

携・協働しながら提案することを目指しています。また大学院教育や定期的な研修会を通じ、広域複合災害に関する研究成果を社会人教育プログラムに反映させることで、総合的な知見を持った、防災の専門家の育成を図ります。多極化する防災・減災研究の一元化を目指す本センターは、北海道だけではなく国内外においても災害研究の先導的モデルとなることが大いに期待されます。

（広域複合災害研究センター）

2019年度北海道大学の予算

2019年度 北海道大学収入・支出予算書

(単位：千円)

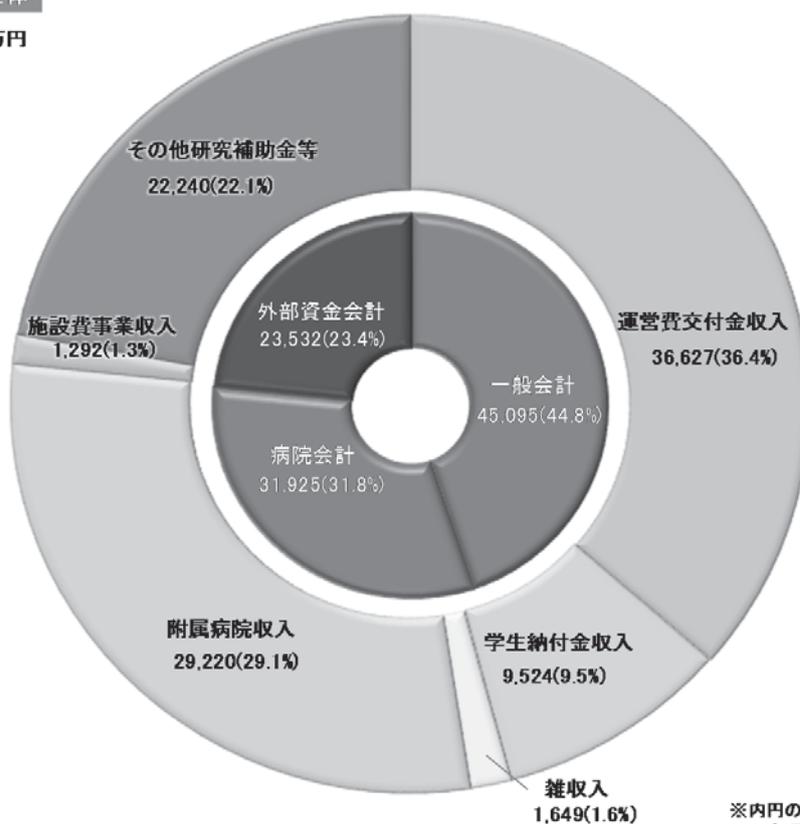
収 入				支 出			
事 項	前年度 予算額	19年度 予算額	増減額	事 項	前年度 予算額	19年度 予算額	増減額
〔一般会計〕	43,888,161	45,094,524	1,206,363	〔一般会計〕	43,888,161	45,094,524	1,206,363
運営費交付金収入	33,107,991	34,151,931	1,043,940	人件費	27,793,532	27,610,275	△183,257
学生納付金	9,429,412	9,524,057	94,645	共通政策課題分	523,756	470,458	△53,298
雑収入	1,350,758	1,418,536	67,778	特殊要因経費	2,113,508	2,751,683	638,175
				退職手当	2,006,454	2,379,485	373,031
				建物新営に伴う設備費	22,177	74,079	51,902
				移転費	0	290,161	290,161
				P F I 事業維持管理経費	84,528	0	△84,528
				土地建物借料	349	0	△349
				P C B 廃棄物処理費	0	7,958	7,958
				調整費	200,000	200,000	0
				特定経費	3,060,669	3,221,353	160,684
				電子計算機借料	304,849	279,428	△25,421
				電子ジャーナル経費	615,000	600,000	△15,000
				公租公課、保険料等	954,100	1,015,970	61,870
				燃料費	0	20,937	20,937
				収入見合経費	1,186,720	1,305,018	118,298
				学長裁量経費	4,058,414	4,734,055	675,641
				学長裁量経費	2,318,212	2,218,670	△99,542
				機能強化促進事業 (基幹経費化分)	1,740,202	2,515,385	775,183
				(機能強化促進分)	305,350	843,844	538,494
				(機能強化促進分)	1,434,852	1,671,541	236,689
				基盤配分経費	6,138,282	6,106,700	△31,582
〔病院会計〕	31,830,304	31,925,001	94,697	〔病院会計〕	31,830,304	31,925,001	94,697
運営費交付金収入	2,606,790	2,475,320	△131,470	人件費	8,778,916	8,761,365	△17,551
附属病院収入	28,991,733	29,219,513	227,780	機能強化経費	632,800	0	△632,800
雑収入	231,781	230,168	△1,613	学長裁量経費	0	524,071	524,071
				機能強化促進事業 (基幹経費化分)	0	524,071	524,071
				(基幹経費化分)	0	524,071	524,071
				病院診療経費	21,140,063	21,633,930	493,867
				債務償還経費	1,172,025	900,839	△271,186
				基盤配分経費	106,500	104,796	△1,704
〔外部資金会計〕	22,647,643	23,532,018	884,375	〔外部資金会計〕	22,647,643	23,532,018	884,375
施設費補助金等収入	1,829,738	1,292,040	△537,698	施設整備費	1,829,738	1,292,040	△537,698
保育園運営費補助金収入	94,764	93,001	△1,763	保育園運営費補助金事業費	94,764	93,001	△1,763
寄附金収入	2,562,511	2,457,616	△104,895	直接事業費	17,954,786	19,222,247	1,267,461
受託研究収入	6,988,059	6,325,419	△662,640	寄附金事業費	2,516,895	2,417,331	△99,564
共同研究収入	1,567,511	2,044,452	476,941	受託研究費	5,964,089	5,370,675	△593,414
受託事業収入	845,815	1,031,522	185,707	共同研究費	1,443,973	1,728,906	284,933
大学改革補助金等収入	1,783,266	3,381,368	1,598,102	受託事業費	830,227	1,003,412	173,185
文部科学省科学研究費補助金	6,775,149	6,730,200	△44,949	大学改革補助金等事業費	1,768,584	3,305,138	1,536,554
厚生労働省科学研究費補助金	114,526	115,911	1,385	文部科学省科学研究費補助金	5,247,008	5,233,029	△13,979
その他助成金等	86,304	60,489	△25,815	厚生労働省科学研究費補助金	103,272	103,517	245
				その他助成金等	80,738	60,239	△20,499
				間接経費	2,768,355	2,924,730	156,375
				特定経費(電子計算機借料)	816,132	800,940	△15,192
				特定経費(燃料費)	568,240	635,247	67,007
				部局配分経費	1,383,983	1,488,543	104,560
合 計	98,366,108	100,551,543	2,185,435	合 計	98,366,108	100,551,543	2,185,435

2019年度 北海道大学収入・支出予算（グラフ）

収入予算全体

100,552百万円

（単位：百万円）

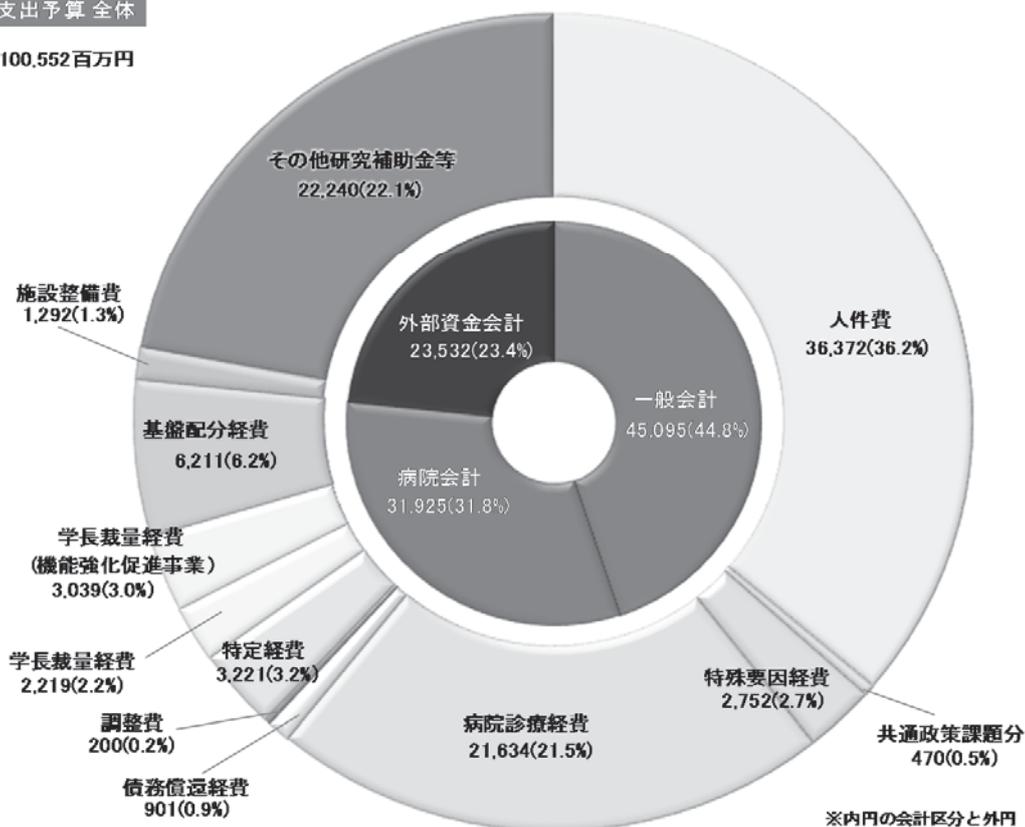


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

（単位：百万円）

支出予算全体

100,552百万円



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（3月31日現在）

23,982件 4,835,620,279円

3月のご寄附状況

法人等31社、個人224名の方々から87,323,415円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

旭化成ファーマ株式会社、岩田地崎建設株式会社、栄研化学株式会社、株式会社エルムプロジェクト、株式会社OHEN、一般財団法人 砂防・地すべり技術センター、大總商事株式会社 こけし屋、大和ハウス工業株式会社、医療法人溪仁会手稲溪仁会病院、寺田医院、日本工営株式会社札幌支店、日本棋院北見支部、社会医療法人母恋 日鋼記念病院、北海道ガス株式会社、北海道大学校友会エルム、北海道大学大学院医学研究院消化器外科学教室Ⅱ内TaTME講習会、株式会社マイ・ケア、株式会社ムトウ

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	阿部 宏子	雨夜 隆之	有好 利典	石黒 正剛	石津 明洋	石塚 羊治	泉山 昭彦
伊藤 信彦	稲葉恵一郎	入澤 秀次	江波戸 謙	大沢 正人	大馬 重昭	大橋 一郎	大畑 昇
大原 正範	奥 健志	小田原一史	小内 透	折茂 達也	片桐 一	加藤 達哉	加藤 智章
金川 眞行	金子豊三郎	鎌田 裕実	上出 英輔	川島 光行	河本 充司	岸 豊	木下 久代
金家 茂幸	久米 尚雄	栗林 道夫	河野 通仁	小菅 高之	小橋 好充	斉藤 久	酒井 健司
坂下 一博	坂本 大介	左近 祥夫	佐藤 憲	三升畑元基	志済 聡子	清水 智弘	清水 幸衣
白鳥 貴久	杉江 和男	杉元 紘一	鈴木 修六	鈴木 貴之	鈴木麟太郎	関口 新造	瀬名波栄潤
芹澤 慈子	竹内 薫	千川 浩治	辻野 正雄	辻谷 直利	土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦
戸田 純子	十時 理祐	豊田 威信	中川 秀哉	中沢 大悟	中塚 英俊	中道健太郎	中村 昭伸
中村 克宏	中村新一郎	成ヶ澤憲太郎	西田 実弘	西村智嘉男	橋本 望	長谷川尚明	春名 敏弘
福永 悟郎	藤枝雄一郎	藤田 修	藤田 佳之	古家 乾	本多 昌平	本多 敏朗	本間 重紀
前田 博	政氏 伸夫	松沢 幸一	松原 謙一	三浦 旭	皆川 一志	宮田 信幸	村上 幸夫
山岸 誠司	横井 成尚	横山 考	吉田 広志				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

旭化成ファーマ株式会社、岩田地崎建設株式会社、株式会社エルムプロジェクト、一般財団法人 砂防・地すべり技術センター、大總商事株式会社 こけし屋、医療法人溪仁会手稲溪仁会病院、日本工営株式会社札幌支店、社会医療法人母恋 日鋼記念病院

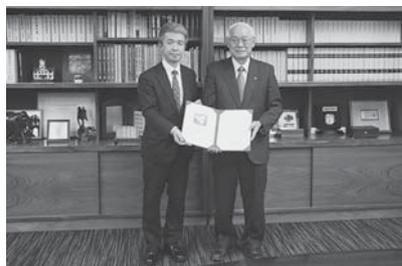
(個人)

伊藤 信彦, 大橋 一郎, 河野 通仁, 清水 智弘, 杉元 紘一, 芹澤 慈子, 中道健太郎, 藤田 佳之, 古家 乾,
本間 重紀, 三浦 旭, 吉村 文子

感謝状の贈呈



医療法人社団北海道健診センタークリニック 様
(平成31年3月6日)



石山 喬 様 (平成31年3月19日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書(兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書(教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室(事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

ヘルシンキで北海道大学欧州同窓会懇談会を開催



参加者による集合写真

3月1日（金）、フィンランド・ヘルシンキ大学メイン・ビルディングにて、北海道大学欧州同窓会懇談会を日本学術振興会フィンランド同窓会懇談会と合同開催しました（日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター共催、在フィンランド日本国大使館後援）。本会合には、北海道大学アンバサダー武田 靖本学名誉教授をはじめ、北海道大学パートナーであるユッシ・ライネ准教授（東フィンランド大学）や欧州同窓会の幹事を務めるマイケル・ガシク教授（アールト大学）らフィンランド国内の研究者・関係者を中心に40名以上が参加しました。

はじめに、吉原誉夫氏（日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター副センター長）による日本学術振興会の活動紹介の後、田畑伸一郎教授（本学欧州ヘルシンキオフィス所長）による本学の紹介及び岡部赳大同副所長に

よる欧州同窓会の活動報告の他、フィンランド・アカデミーとビジネス・フィンランドからも挨拶をいただきました。

続いて、武田名誉教授（欧州同窓会副会長、スイス連邦工科大学チューリッヒ校上級研究員）、エリナ・オクサネン教授（欧州同窓会会員、東フィンランド大学）、中村美穂博士（トゥルク大学）らが最新の研究・プロジェクトについて発表を行いました。武田名誉教授の講演は、「科学」と「技術」の違いを先史時代から現代までの長いスパンの中で考察するスケールの大きいもので、専門外の聴衆をも惹きつけ、講演後も参加者の間で活発な議論を誘っていました。また、オクサネン教授は気候変動が森林に与える影響の調査にビッグデータを利用するプロジェクトと共に日本やイタリアとの共同研究について紹介しました。中村美

穂博士は、骨についての医学的研究に物質工学や生物工学における研究を応用する、日本とフィンランドの共同プロジェクトについて発表しました。この懇談会を通じてフィンランドの各大学や各種機関等との交流が深まったことから、今後様々な分野での交流活性化が期待されます。

2019年は日本-フィンランド外交関係樹立100周年にあたります。欧州ヘルシンキオフィスは今後もフィンランドをはじめとした北欧各国の大学との交流促進のみならず、欧州同窓会事務局として同窓会員及び欧州在住北海道大学アンバサダー・パートナーが交流する機会を積極的に設けていく予定です。

（総務企画部広報課）



田畑教授（本学欧州ヘルシンキオフィス所長）



北海道大学アンバサダー武田名誉教授
（スイス連邦工科大学チューリッヒ校）

インドネシア・パランカラヤ大学で「2019北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「北海道大学留学セミナー」を開催

3月8日（金）・9日（土）、インドネシアボルネオ島カリマンタン州パランカラヤ大学で「2019北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「北海道大学留学セミナー」を開催しました。

本学同窓生のスルミン・グミリ教授（パランカラヤ大学副学長）が参加者を温かく迎え、本学とパランカラヤ大学のコラボレーションが今後ますます発展していくことへの期待を述べました。

8日（金）に開催した「北海道大学留学セミナー」には、パランカラヤ大学のさまざまな研究プログラムや学部、大学院から参集した150人以上の

学生に加えて、約50人の本学インドネシア同窓生が出席しました。北海道大学パートナーのヘンドリック・セガ准教授（パランカラヤ大学学長補佐）が司会を務め、北海道大学アンバサダーのクリストフォラ・ハニー・ウィジャヤ教授（ボゴール農科大学、インドネシア同窓会長）、マリア・ステファニ・ドゥイヤンティ助教（農学研究院）、及び川野辺創教授（国際連携機構副機構長）が発表を行いました。

9日（土）はパランカラヤ周辺のランドマークを訪ねるエクスカージョンが開催されました。オランウータンの住まう森として有名なセバンアウ国立

公園地域には、本学と共同で1993年に設立された、約5万ヘクタールのフィールドを持つ「パランカラヤ大学附属泥炭湿地研究所」があります。参加者たちは、泥炭湿地を貫くセバンアウ川をボートで周遊し、泥炭土壌に由来する独特の黒い水の生態系を観察するなどしながら、互いの親睦を深めました。

今後、本学とインドネシア各協定校との連携がますます深まり、様々な分野で協働が発展することが期待されます。

（総務企画部広報課）



留学セミナーの様子



インドネシア同窓生らと川野辺国際連携機構副機構長

北海道大学アンバサダー・パートナー（中国）委嘱状交付式を2大学で開催



関係者による集合写真

3月20日（水）に中国地質大学・北京において、及び3月22日（金）に東北大学（瀋陽）において、中国北海道大学アンバサダー・パートナー（HUAP）委嘱状の交付を行いました。

3月20日（水）に、中国地質大学・北京構内に位置する地大国際会議センターで行われた委嘱式では、王 訓練副学長に北海道大学アンバサダー、李林准教授に北海道大学パートナーの委嘱状を交付しました。

本学理学研究院の同窓生である両

HUAPには、かつて指導教官を務めた加藤 誠名誉教授及び永井隆哉教授より委嘱状が手交されました。中国地質大学・北京からは雷 涯隣副学長（研究協定担当）をはじめ蔡 敏国際合作交流所長らが出席し、本学理学研究院との協定締結に向けた打合せも併せて行いました。

今回の委嘱を機に、両HUAPによる協力のもと、学術・研究協定の締結とそれに続く交流の進展が今後ますます期待されます。

続いて3月22日（金）、東北大学（瀋陽）にて開催された交流デー全大会において併催された北海道大学アンバサダー委嘱式にて、西井準治理事・副学長より趙 継東北大学長に北海道大学アンバサダー委嘱状を交付しました。

趙学長は1992年にJSPS外国人研究員として来日後、本学工学部にて外国人研究員として精密工学研究に従事、2017年に開催された第10回日中学長会議では開催校責任者を務め、同会議で笠原正典理事・副学長と面会したのをきっかけに、2018年4月の本学と東北大学との間の大学間交流協定調印にご尽力いただきました。

今回の委嘱を機に、東北大学のみならず中国東北部の諸大学と本学間における教育・研究交流活動の推進及び活性化が大いに期待されます。

（総務企画部広報課）



王 北海道大学アンバサダー（左）と加藤名誉教授



李 北海道大学パートナー（左）と永井教授



趙 北海道大学アンバサダー（右）と西井理事・副学長

平成30年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式・卒業祝賀会を開催



現プロ教員と現プロ卒業生7名との記念写真

外国人留学生を対象とした4年間の学士課程プログラムである現代日本学プログラム課程（現プロ）の記念すべき初めての卒業生となる第1期生8名が、3月25日（月）に卒業の日を迎えました。卒業生は、当日、午前中に挙行された北海道大学学士学位記授与式に引き続き、同日午後から学生交流ステーション大会議室において挙行された現代日本学プログラム課程学士学位記授与式に出席しました。

現プロ学位記授与式では、長谷川晃理事・副学長（現代日本学プログラム課程長）、高橋 彩総長補佐（現代日本学プログラム副課程長）をはじめ、同課程担当教職員、卒業生の晴れ姿を

見るために海外から駆けつけた保護者等が参列する中、長谷川理事・副学長から卒業生一人ひとりへ学位記が授与されました。また、現代日本学プログラム課程最優秀学生賞及び現代日本学プログラム課程特別賞の表彰が併せて行われ、被表彰者各1名へ賞状と記念品が贈呈されました。

引き続き、長谷川理事・副学長から、卒業生へ祝辞が贈られました。現プロ第1期生として、頼れる先輩がない中で母国を離れ、異国の地での予備課程を含む4.5年間の長く険しい留学生活への労いの言葉に、卒業生は目を潤ませていました。

現プロ学位記授与式の後、学生交流



長谷川理事・副学長から学位記を授与される現プロ卒業生

ステーション111教室に会場を移し、卒業祝賀会を開催しました。卒業生の後輩にあたる現プロ在籍学生も多数出席し、卒業生は、苦勞を共にした現プロ教員や後輩達と過ごす最後の時間を惜しみながら、大いに盛り上がっていました。

卒業生の多くは、卒業後に国内外の企業への就職や国内の国立大学への進学を予定しており、日本の良きパートナーとして日本と世界の架け橋の一端を担っていくことが期待されます。

（学務部教育推進課）

新渡戸スクール修了式を挙



修了生と関係教員による記念写真

平成30年度新渡戸スクール修了式を3月22日（金）に、工学部フロンティア応用科学研究棟レクチャーホールにて執り行いました。

修了式は、基礎プログラム2期、3期及び4期修了生の84名、及び上級プログラム2期修了生の24名から約60名が出席する中、長谷川晃校長代理から、修了生代表のスクール生2名に修了証書が授与されました。

続いて、長谷川校長代理から挨拶が行われ、「近年、グローバル化という言葉によって象徴される社会の急激な変化に対応するため、個々の専門性を超えてチームで問題に立ち向かい、新たな社会的価値を生み出すことができ

る人材の必要性が高まっている」ことに触れ、修了生に対し、「新渡戸スクールにおける学びと経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願っております」との激励の言葉が贈られました。

最後に、修了生代表の挨拶として、基礎プログラム4期生代表のシオン・エリザベス・エルファイナル・ハロホさん、及び上級プログラム修了生代表のグオ・フェンさんが、新渡戸スクールで学んだ経験や今後の抱負などについて英語で挨拶を行い、修了式を終えました。

修了式後は、ワークショップ「新渡戸スクールの『これまで』と『これから』—NITOBEはなぜ必要か—」を開催しました。パネリストに歴代の新渡戸スクール関係教員及び同窓生多数を迎え、プログラムの開設から今日までの活動を振り返ると共に、今後の展望を確認する機会となりました。また、ワークショップに続き、修了生、メンター及び同窓生にご出席いただき、北大新渡戸同窓ネットワーク交流会を開催しました。ワークショップ及び交流会の実施にご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

（学務部教育推進課）



修了証書授与

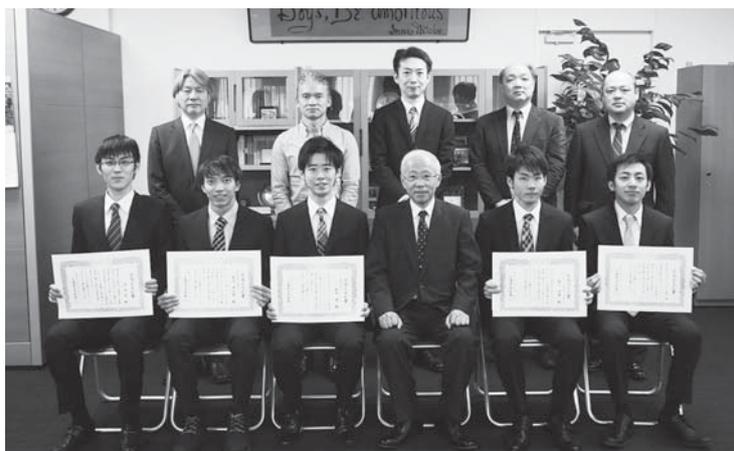


修了生代表による挨拶



ワークショップにおける発言の様子

平成30年北大えるむ賞授与式を挙



授与式での記念写真

3月22日（金）、総長室において、平成30年北大えるむ賞の授与式を行い、笠原正典総長職務代理から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化

を図ることを目的として創設されたものです。

本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績を取め課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導などに優れた評価を受け

たものなどに対して表彰しているもので、今回は、応募のあった13件から6件が決定されたものです。

笠原総長職務代理から受賞者へ労いと激励の言葉があり、受賞者は今後のさらなる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体・個人と受賞理由

◆個人

- 鈴木 潤
フィギュアスケート日本代表として「2018 Challenge cup」Menカテゴリーで第4位。
- 関口 将貴
「第43回スポーツチャンバラ世界選手権大会」長巻の部において第1位。
- 前田 進太郎
「第43回スポーツチャンバラ世界選手権大会」長剣フリー初段の部において第1位。
- 堀合 孝太郎
「第65回全国国公立大学選手権水泳競技大会」100m自由形で1位。

◆団体

- CoSTEPメディアデザイン実習
「朝日VRアワード」に出場し、自然部門賞を受賞。
- 合唱団
国際的な演奏会に多数招待され、国内外から優れた評価を得たこと。また、コンクールにおいても優秀な成績を残したこと。

平成30年度北海道大学大塚賞授与式を挙

3月22日（金）、総長室において、北海道大学大塚賞授与式を挙

大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は平成30年度内の博士課程修了予定者9名及び既修了者1名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には笠原正典総長職務代理、大塚榮子名誉教授、長谷川晃理事・副学長列席の下、笠原総長職務代理より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、大塚賞受賞者講演会が百年記念会館にて開催され、今年度

受賞者代表及び平成21年度受賞者の研究紹介及び講演があり、最後に大塚名誉教授から講評と激励のお言葉をいただきました。

引き続き交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓

い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

(学務部学生支援課)



賞状の授与



お祝いの言葉を述べる笠原総長職務代理

受賞者

理学院	黒田	みなみ
工学院	全	商希
工学院	伊藤	茜
総合化学院	阿南	静佳
総合化学院	Hong	PANG
水産科学院	黒田	実加
医学研究科	菅原	恵理
歯学研究科	鎌口	真由美
情報科学研究科	青柳	佑佳
国際広報メディア・観光学院	許	晴



記念撮影

平成30年 北大ペンハロー賞授与式を挙

3月5日（火）、高等教育推進機構S講義棟S棟中講義室において、平成30年北大ペンハロー賞の授与式を行い、長谷川晃理事・副学長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大ペンハロー賞は、平成17年度から開始され、本学学生の課外活動の充実と更なる活性化を図るため、都道府県規模の競技会・コンクールで優勝するなど、高い評価を受けた学生団体等

を表彰する制度です。

今回は、7団体、27個人が受賞しました。今回までで、159団体、456個人

の計615件が授与されています。

(学務部学生支援課)



記念撮影

平成30年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙

3月22日（金）、高等教育推進機構中会議室において、平成30年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙

行しました。北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した新しい賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、北海道大学を卒業される学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

表彰式では、長谷川晃理事・副学長から13名の受賞者のうち所属学部にお

いて表彰式を行う7名と、欠席となった1名を除く5名に賞状盾が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を挙行する学部においては3月25日（月）、水産学部では3月26日（火）に表彰式が挙行されました。

（学務部学生支援課）



記念撮影

受賞者

文学部	片平春樹
教育学部	廣瀬史帆
法学部	杉原直幸
経済学部	赤井翔太
理学部	菊地大夢
工学部	浮中裕大
農学部	中西登志紀
獣医学部	勝野雄太
水産学部	邊見龍樹
医学部医学科	三船早紀
医学部保健学科	紺谷一生
歯学部	阿部未来
薬学部	原田芽生

平成30年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—表彰式を挙

行しました。3月28日（木）、工学部フロンティア応用科学研究棟において、平成30年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—表彰式を挙

行しました。この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、長谷川晃高等教育推進機構長、河本雅弘学務部長の列席の下、長谷川機構長から7名の受賞者のうち2名の欠席者を除く5名に賞状が授与

されました。

続いて長谷川機構長から、鈴木章名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしてい

ました。（学務部学生支援課）

被表彰者

【第1学期被表彰者】

29組	丹羽史萌
30組	新宅一平
31組	金杉尚紀
31組	久松郁美

【第2学期被表彰者】

41組	春川美友
47組	大石睦
51組	山内佑紀恵



賞状の授与



記念撮影

平成30年度北海道大学企業研究セミナーを開催

キャリアセンターでは、北海道大学校友会エルクとの共催により、3月1日（金）から11日（月）までの期間中11日間にわたり、クラーク会館において「平成30年度北海道大学企業研究セミナー」を開催しました。

本セミナーは、北大生の地理的ハンディキャップを解消し、学生が主体的に業界・企業研究を行うことで「就職活動へ向けての礎を築く」ことを目的に平成16年度から開催しています。本年度は、全国から北大生の採用に積極的な680の企業・団体の参加を得るとともに、延べ約19,700名の学生が参加しました。

セミナーでは、午前・午後各33カ所のブースで、企業・団体の採用担当者

や本学OB・OGからそれぞれの業界・企業に関する説明が行われ、参加学生は熱心に耳を傾け、積極的に質問していました。

午前の部と午後の部の間には、「留学生相談コーナー」を毎日開催し、外国人留学生採用に積極的な56社の参加を得て、延べ142名の留学生が率直な質疑応答を交わしました。

午後の部終了後は、「情報交換会」を毎日開催し、209社の採用担当者と延べ約600名の学生が参加して、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

特別企画として開催日前日の2月28日（木）に開催した「公開模擬面接会」では、協力企業9社の採用担当者と受検学生18名との間で本番さながら

の形式で面接が行われ、延べ500名の見学学生とともに面接での留意点や課題を確認していました。また、期間中の3月5日（火）に開催した「外国人留学生就職セミナー」では、国内企業で活躍している外国人社員から、就活での苦労話や雇用慣行の違い、仕事内容など様々な経験談について講話があり、42名の留学生が参加しました。

キャリアセンターでは、引き続き、各種の就職ガイダンス・セミナーや個別相談等を通じて、学生の就職支援を継続していきます。

（キャリアセンター）



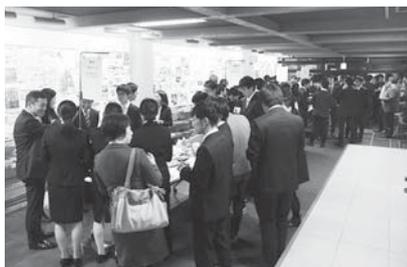
会場外観



企業説明



留学生相談コーナー



情報交換会



公開模擬面接会



外国人留学生就職セミナー

第1回ICReDD国際シンポジウムを開催



シンポジウム参加者の集合写真

文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」により昨年10月に本学に新たに設置された化学反応創成研究拠点（ICReDD／アイクレッド）では、3月12日（火）と13日（水）の2日間にわたって最初の国際シンポジウムを開催し、学内外から約130人の研究者や学生が参加しました。

開会にあたり、西井準治理事・副学長、金子忠利文部科学省基礎研究振興課基礎研究推進室長、宇川彰WPIプログラムディレクター（PD）から、それぞれご挨拶をいただきました。西井理事・副学長からはICReDDの成功には若手研究者の積極的な参加が重要であること、金子室長からは現在日本にある13のWPI研究拠点が互いに協力し合うことへの期待、そして宇川PDからはWPIプログラムの概要について説明がありました。

その後、ICReDD拠点長の前田理教授からICReDDの概要説明と研究講演がありました。新しい化学反応の発見はとて難しく、これまでの社会を変えるような化学反応は多くの人の労力と時間を要してきたことに触れ、ICReDDでは計算科学・情報科学・実験科学の三分野を融合させることで、社会を変えるような新しい化学反応の合理的設計と高速開発を目指していると語りました。特に、前田教授が開発した“Artificial Force Induced Reaction（AFIR）”という、研究者が新しい反応経路を発見する助けとなる重要な手法についての紹介を行いました。続いて、ICReDD副拠点長の伊藤肇教授、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）拠点長の伊丹健一郎教授が講演を行いました。講演終了後にはレセプションも行われ、講演者らを囲んで研究の議論や今

後のICReDDの展開についての議論なども行われました。

二日目には京都大学の湊真一教授、ストラズブル大学のAlexandre Varnek教授（ICReDD主任研究者）、マックスプランク石炭研究所のBenjamin List教授（ICReDD主任研究者）、中部大学の山本尚教授らが講演を行い、それぞれの講演後には活発な質疑応答が行われました。最後に、巽和行WPIプログラムオフィサー（PO）から閉会の挨拶をいただき、2日間のシンポジウムは終了しました。

今後ICReDDでは、このような国際シンポジウムを毎年開催し、著名な研究者に講演していただくことで最先端の研究を踏まえた、ICReDDにおける研究を世界へと発信していく予定です。

（研究推進部研究支援課化学反応創成拠点）



西井理事・副学長



前田ICReDD拠点長



巽プログラムオフィサー

北海道大学交流デー（忠南大学校）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、韓国ソウルオフィスが中心となり、3月11日（月）に韓国中部に位置する大田広域市の忠南大学校において、北海道大学交流デーを行いました。

忠南大学校と本学は2001年7月に大学間交流協定を締結した後、2016年2月に薬学研究院・薬学部との間で部局間交流協定を締結し、2018年1月にはOh Deog-Seong学長が本学を訪問されるなど交流を続けています。本学工学研究院と忠南大学校工科大学とは、1990年代から長い交流の歴史があり、研究者や学生の交流を重ねています。

今回の大学交流デーでは、両大学の工学系の研究者交流を中心にジョイントシンポジウムを開催し、忠南大学校からはYu Sangseok工科大学副学長をはじめ教職員及び学生約25人が参加しました。ジョイントシンポジウムは、同大学校Institute of Advanced Transportation

の所長であるKim In-Gul教授の挨拶からはじまり、続いて、小林幸徳工学院院长が挨拶しました。その後、両大学から講演*を行い、本学工学研究院からは小林工学院院长、佐々木克彦教授、東藤正浩教授、戸谷 剛教授、武田 量助教授がそれぞれ発表し、質疑応答や意見交換が行われ、実りある交流デーとなりました。

大学交流デーに際し、開始前には忠南大学校工科大学／産業大学院のChoi Hoon工科大学長を表敬訪問し、両大学の工学関係について懇談を行い、本学韓国ソウルオフィスの車 柱榮所長

から本学の概要や国際交流の状況について説明を行いました。また、大学交流デー後には、忠南大学校工科大学の施設や実習室、ナノ工学部や航空宇宙・船舶海洋工学部などの研究室を案内いただき、交流を深めました。

今後も国際連携機構では、韓国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際部国際連携課）



シンポジウム参加者による集合写真

* 講演内容（及び講演者）

Session 1:

Introduction of School of Engineering and Lab of Robotics and Dynamics (Yukinori Kobayashi)

Vibration Reduction and Performance

Improvement Analysis Using Individual Blade Pitch Controls for Lift-offset Rotors (Park, Jae-Sang)

Computational Simulation on Mobile and Medical Devices (Katsuhiko Sasaki)

The Velocity Planning for the Off-road Unmanned Ground Vehicle (Kim, Sung-Soo)

Session 2:

Experimental understanding on durability of PEMFC short stack under vehicle driving cycle (Yu, Sangseok)

Heat Release in Heating Process from a Heat Storage Material, AMP, with Solid-solid Phase Change Material (Tsuyoshi Totani)

A Numerical Study on the Transition of Metal Transfer from Globular to Spray Mode in GMAW (Chung, Hyun)

Session 3:

Multi-scale Mechano-structural Relationships of Mineralized Bone Matrix (Masahiro Todoh)

Introduction to Clinically Applicable Biomechanics Research ~ From Ligament Tissue to Blood Vessels ~ (Ryo Takeda)

High Accuracy Measurement System Using Dual Absolute Encoders (Lee, Kyung-min)



忠南大学校Hoon工科大学長への表敬訪問



忠南大学校施設視察

北海道大学交流デー（中国科学院大学・東北大学）を開催



参加者による集合写真（東北大学）

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月21日（木）に北京市にある中国科学院大学において、また22日（金）に瀋陽市にある東北大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

本学は、中国科学院大学と2017年に、東北大学と2018年にそれぞれ大学間交流協定を締結するなど、これまで研究・教育交流を行ってきました。

21日（木）に実施した中国科学院大学での交流デーでは、本学の保健科学研究院と生命科学学院、本学の農学研究院と資源環境学院、本学の理学研究院と地球惑星科学学院、本学の遺伝子病制御研究所及び情報科学研究科とコンピューター科学技術学院、本学の工学研究院と建築研究・設計センター及び本学の理学研究院と生命科学学院（3月20日（水）に実施）、の6つの分科会に分かれ、研究交流セミナーを

実施しました。

22日（金）に実施した東北大学での交流デーでは、午前中に全体会を開催し、東北大学から趙 継学長をはじめ約300人の教職員及び学生が出席し、本学からは、西井準治理事・副学長をはじめ37人の教職員及び学生が出席しました。

全体会は、唐 立新東北大学副学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の西井理事・副学長が挨拶した後、日本国駐瀋陽総領事館の杉田雅彦首席領事から挨拶をいただきました。その後、映像による東北大学の紹介があり、本学国際連携機構の川野辺創副機構長による本学の紹介、瀋陽市と札幌市が姉妹都市であることから札幌経済交流室（札幌市北京事務所）の村田雄亮室長代理による札幌市の紹介がそれぞれ行われた後、趙東北大学長への北海道大学アンバサダー委嘱状の授与が行われ

ました。

午後には、本学の保健科学研究院と生命科学・健康学院、本学の保健科学研究院及び遺伝子病制御研究所と中蘭生物医学情報工学院、本学の農学研究院と文法学院土地管理研究所、本学の工学研究院と江河建築学院、本学の理学研究院と資源土木工学院、本学の高等教育推進機構と理学院、本学の情報科学研究科と機械学院、の7つの分科会に分かれて、研究交流セミナーを実施しました。

今後も国際連携機構では、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際部国際連携課）



唐東北大学副学長による挨拶



西井理事・副学長による挨拶



アンバサダー委嘱式の様子
（右：趙東北大学長、左：西井理事・副学長）

APECS-UArctic Science Communication Workshop 派遣報告会を開催

3月7日（木）、学生交流セッション2階大会議室においてAPECS-UArctic* Science Communication Workshop派遣報告会が開催され、笠原正典理事・副学長をはじめ、北極域研究センターの教員や北極圏に興味のある学生ら約15名が出席しました。

同ワークショップは、2018年9月3日（月）・4日（火）にフィンランド共和国のオウル大学（オウル市）で開催された北極圏大学総会（UArctic Congress）中の学生向けセッションとして実施されたものです。本学からは2名の大学院生が参加し、北極圏大学教授陣による講義と実習を受講しながら「サイエンス・コミュニケーション」について学びました。

報告会では、参加者の1人である環境科学院博士後期課程3年の大久保祐作さんが発表し、ワークショップの概要のほか、現地で学んだことや今後の研究への活用などについて紹介しました。また、発表後の質疑応答ではワークショップの様子などについて、出席

者から積極的に質問が寄せられました。

最後に、笠原理事・副学長から、大久保さんのワークショップ参加及び報告に対する労いと今後の研究生活への温かい励ましの言葉が贈られました。

本学は、UArcticで実施される学長フォーラム及び学生向けセッションに積極的に参加しており、次年度の学長フォーラム及び学生フォーラムはカナダのトレント大学（ピーターボロ）にて開催される予定です。同フォーラムなどへの参加を通じて、北極圏の大学との交流がさらに発展することが期待されています。



大久保さんによる発表

*UArctic（University of the Arctic, 北極圏大学）とは、北方圏の課題に係る教育・研究のための教育機関ネットワークのこと。本学は、2011年から日本から唯一の非北極圏メンバーとして加盟している。APECS（Association of Polar Early Career Scientists）とは、学生や若手研究者の中で主に北極圏を対象とした研究者のための国際学術組織のことである。APECS-UArctic Science Communication Workshopは上記2組織の共催で実施された。

（国際部国際連携課）



笠原理事・副学長からのコメント

次世代へ向けて～本学技術職員10名が 「総合技術研究会2019九州大学」にて技術報告

3月7日（木）、8日（金）の2日間、九州大学（福岡市）において「総合技術研究会2019九州大学」が開催されました。本技術研究会は2年に1度開催されており、今回は全国から800名以上の技術系職員が参加しました。

本学からの参加は24名で、口頭発表5件・ポスター発表5件の10名が技術報告を行いました。そのうち2名は、昨年9月に本学にて開催された「北海道大学技術研究会2018～技術職員組織改革 次世代へ向けて～」における優秀発表賞受賞者であり、本学の代表として技術支援本部の支援により参加しました。口頭発表部門受賞の理学研究院 中村晃輔技術専門職員は「薄片技術の取り組みと、試作ソリューション事業について」と題して、薄片技術室の全学支援化など主体的に進めた支援体制の整備及び国立大学では初めての試みとなる試作ソリューション部門の取り組みについて紹介しました。多数の参加者が、学外からの受注スキームや料金体系、その取り組みを通じた実践的な人材育成効果について熱心に耳を傾けていました。ポスター部門受賞の理学研究院 松本亜希子技術専門職員は、「学内技術交流活動の紹介：電

顕系技術職員交流会」と題して、学内の電子顕微鏡系技術職員間で自発的に構築した技術交流に関する取り組みの報告を行いました。特に、部局の垣根を超えた技術職員同士の連携構築や技術交流によるスキルアップへの取り組みについての反響が大きく、研究教育支援の強化を目的とした主体的な活動に高い関心が得られていました。

今回の総合技術研究会では11分野の口頭発表区分が設けられ、その中でも地域貢献・技術者養成活動分野への参加者が非常に多い傾向がありました。具体的には技術職員が持つスキルを最大限に活かした地域貢献活動報告や、技術職員のためのプレゼンテーションスキルに関する考察などの口頭発表がありました。

これらの傾向から、技術職員が持つ技術をいかに発展させ伝承するか、そしてその技術・活動をいかに表現し伝えるかへの関心が高まっていることが考えられます。技術支援本部は、このような背景を踏まえ、技術職員組織の一元化や、学内研修や研究会等への参加支援などの取り組みを通じて技術職員のスキルアップと連携強化の促進、持続的な技術継承、そして、キャリアアップのサポートを行っています。今後も、技術職員が、さらに大学の研究・教育活動の強化・推進に貢献できるように支援機能の拡充を図っていき考えています。

（技術支援本部）



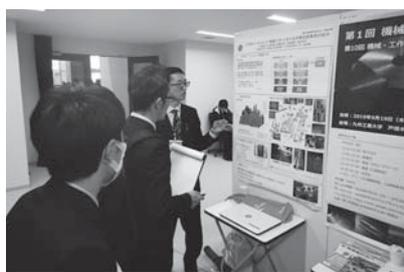
ポスター発表会場の様子



中村技術専門職員による口頭発表



松本技術専門職員によるポスター発表



森 雄司技術専門職員によるポスター発表



松尾孝之シニアアドバイザーによるポスター発表

「博士人材キャリア開発シンポジウム “ミニ・シンフォスター2019”」 —博士インターンシップ体験報告会—を開催

3月12日（火）に、工学部フロンティア応用科学研究棟において、「博士人材キャリア開発シンポジウム “ミニ・シンフォスター2019”」を開催しました。

本シンポジウムは、本学において実施している人材育成の取り組みの担当者が一堂に会し、それらの事業間の更なる理解と連携を深め、あわせて学内外に対して本学の人材育成活動をアピールすることを目的としています。平成20年度から継続して実施しており、今年度で9回目の開催となりました。

今回は、3年ぶりのシンフォスター開催となり、また担当教員が今年度末で退任や交代となるため、13年間に亘るS-cubicを中心とする人材育成本部・上級人材育成ステーションの活動の振り返りと、ここ数年継続している博士力実践インターンシップの報告会も兼ねて実施することとしました。

今回のシンポジウムでは、笠原正典

人材育成本部長（理事・副学長）からの冒頭挨拶の後、第1部では、NPO法人産学連携推進機構の妹尾堅一郎理事長による基調講演が行われました。同氏には、「パラダイムとイノベーション～技術と制度と文化を変える若い力に期待する～」と題し、激変する世の中において若手博士人材に期待することなどを、エールとともに講演いただきました。

第2部では、人材育成本部の樋口直樹特任教授から、ここ13年間に亘り本学で博士人材に対して行われているイノベーション創出人材育成事業に関する実績の紹介が行われました。

また第3部では、例年開催されている博士力実践インターンシップを活用した本学博士人材と、彼らを受け入れていただいた企業研究開発部門の担当者をお招きし、博士人材からはインターンシップ経験で得たこと、学んだことの紹介、また企業からは博士インターンシップ制度の紹介や、受け入れ

た企業側でのメリットなどを中心に紹介がありました。その後、それらの講演者に妹尾理事長、また人材育成事業を当初より支援していただいている新日鐵住金株式会社の村瀬賢芳内部統制・監査部長などを交えてのパネルディスカッションを開催し、熱い論議が交わされました。

今回のシンポジウム全体では、学外を含めた58名の参加登録があり、盛況のうちに終了し、本学独自の一貫した人材育成システムの構築に大きく寄与するものとなりました。今回のシンポジウム開催にあたり、ご配慮、ご協力を賜りました皆様に改めてお礼申し上げます。

なお、ご興味のある方は、人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



笠原人材育成本部長による冒頭挨拶



NPO法人産学連携推進機構
妹尾理事長による基調講演



樋口人材育成本部特任教授による活動報告



獣医学研究科 港江利奈さんによる体験報告



新日鐵住金株式会社
村瀬内部統制・監査部長による講演



パネルディスカッションの様子

全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック会議シンポジウムを開催

3月14日（木）、北海道大学学術交流会館小講堂において、全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック会議シンポジウム「ダイバーシティ時代の研究リーダーとマネジメント人材の育成」を開催しました。

はじめに基調講演として、大阪大学の工藤眞由美理事より「産学官連携による女性研究者の循環型育成」と題し、産学官共創でクロスアポイントメントを活用して研究現場を歩きながら女性研究者を育てる「組織としての取組」についてお話しいただきました。講演からは、総長と理事の強い意思とリーダーシップによって、産業界とともにダイバーシティを推進していることが感じられました。

続いて神戸大学の森康子先生からは「研究者への道のりとこれから - 後

進の育成」と題して、先生ご自身の研究者としての歩みと、Principal Investigator (PI) として研究室を率いるにあたり研究室でいかに人を育てていくのか、人材育成の方針と方法等について具体例を交えてお話しいただきました。研究者を育成する立場の方にとっても、PIを目指す研究者にとっても、大変興味深いお話でした。その後、パネルディスカッション「暗黙知を伝える人材育成」では、本学のほか、室蘭工業大学、北見工業大学から男女共同参画・ダイバーシティ推進の取組の紹介をいただき、大学としての取組、研究室レベルでの人材育成、特に女性が少ない工学系分野における課題、管理職の育成と登用等についてディスカッションを行いました。

会場には、ダイバーシティ研究環境

実現イニシアティブ北海道ブロック会議参加機関及び全国のダイバーシティ事業に携わる機関、教職員や民間企業の方など約60名の参加があり、ともに、ダイバーシティ時代の人材育成について現状と今後のあり方への理解を深め、展望を共有しました。

女性研究者支援室では、本学の研究環境の一層の充実に向けてさらなる取組を進めて参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

女性研究者支援室の活動について興味のある方は、こちらのホームページをご覧ください。

◆<https://freshu.ist.hokudai.ac.jp/>

(人材育成本部)



大阪大学 工藤理事



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、2月～3月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

実用英会話（業務英会話）研修 参加者：78名

開催日：2月19日（火）、21日（木）、27日（水）、3月1日（金）、
5日（火）、7日（木）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：学生時代の既習の単語や表現を思い出しながら、英語を話すことに慣れ親しみ、英語で業務をしなければならない場面でも落ち着いて会話ができるようになることを目的として開催した。



ワークショップ「教育研究活動における異文化コミュニケーション」参加者：6名

開催日：3月4日（月）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：効果的な異文化コミュニケーションスキルを身に付け、異文化を理解する上で注意しなければならないポイントや学生が抱える共通の問題等の取り扱い方法を学ぶことを目的として開催した。



英語コミュニケーション研修 参加者：15名

開催日：3月9日（土）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：必要最低限のビジネス英会話力を身に付けたいという人を対象とし、学内の留学生や外国人教員と仕事上のやり取りを簡単な英語を使って行えるようになることを目的として開催した。



英語コミュニケーション研修 参加者：37名

開催日：①スピーキング編 3月15日（金）

②リスニング編 3月16日（土）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：英語でのコミュニケーション力を向上させることを目的とした研修会。リスニング研修では、英語を英語で理解できるようになるためのトレーニングと自己学習法の習得を目的とし、リスニング力の向上を、スピーキング研修では、「何を話すか」「どう話すか」を同時に行うことができるようになるためのトレーニングを行い、スピーキング力の向上を目指した。



Teaching in Englishワークショップ（発展編） 参加者：5名

開催日：3月18日（月）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：国際化における大学の変化や英語で教える際に考慮すべきさまざまな要素について学ぶことを目的として開催した。また、参加者同士の議論の場として互いの実践例や意見を共有した。

**ハラスメント防止研修会「ハラスメント化する人間葛藤－アサーティブな関係・コミュニティを作る」 参加者：13名**

開催日：3月18日（月）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：留学生に関わるハラスメントについてもふれながら、大学内の人間関係（教員－学生、教職員同士、学生同士など）において誤解が生じる背景について考えることを目的として開催した。コミュニケーションの改善がなされない場合、ハラスメントとしてクレームがあがることがあり、北海道大学において生じたいくつかの事例についても紹介した。

**TF振り返り研修会 参加者：75名**

開催日：3月19日（火）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：今年度TFを担当した大学院学生が行った業務を振り返るとともに、制度を活用するためのディスカッションを行った。TFを担当した大学院学生の参加及びTFの活用を検討している教員を対象として開催した。



「ライフサイエンス 新技術説明会」を開催

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と産学・地域協働推進機構は、2月21日（木）にJST東京別館ホール（東京・市ヶ谷）において、特許庁・関東経済産業局・帯広畜産大学・北海道立総合研究機構と共に「ライフサイエンス 新技術説明会」を開催しました。

当説明会は、本学が主催者となり、北海道地区の大学・公設試のライフサイエンス系の特許技術シーズを集め、研究者が自らの特許技術について実用化を展望した技術説明を行うことで、事業化及び共同研究を希望する企業等と産学連携マッチングを図るイベントです。本学では、平成22年度から北海道地区の他大学・高専・公設試等と連携して開催しており、今回で10回目の開催となりました。

今回は1日で5件の講演発表（本学研究者からの講演発表3件）がなされ、来場者数88名、技術個別相談件数

4件、名刺交換数30件と例年通りの盛況な会となりました。今回引き合いを受けた企業に継続的なフォローを行い、今後の技術移転活動に反映させて

参ります。

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



理学研究院 角五 彰准教授



水産科学研究院 宮下和夫教授



先端生命科学研究院 比能 洋教授

■ 部局ニュース

低温科学研究所がパリ天文台と部局間交流協定を締結

低温科学研究所は、3月20日（水）にパリ天文台と部局間交流協定を締結し、調印式を行いました。調印式はパリ天文台で執り行われ、同天文台から Claude CATALA 台長ら 5 名、本研究所からは福井 学所長ら 3 名が出席しました。

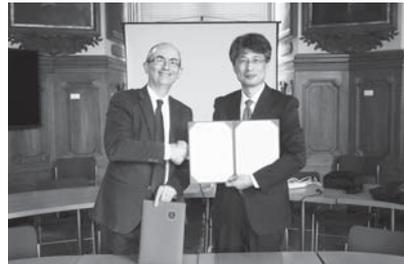
パリ天文台は1667年に創設された歴史ある天文台であり、世界最大級の天文学研究センターの一つでもあります。また、今回の協定については、本研究所の渡部直樹教授とLERMA（パリ天文台を含む4つの高等教育機関及びフランス国立科学研究センターからなる研究機関）のFrançois Dulieu教

授による研究交流を契機として取り交わされました。

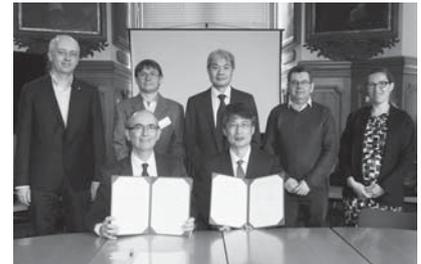
調印式の後は互いの研究状況に関する活発な意見交換が行われました。

今後は、本協定に基づき、さらなる積極的な交流連携が期待されます。

（低温科学研究所）



協定書を取り交わすClaude CATALA台長（左）と福井所長（右）



関係者集合写真

環境健康科学研究教育センターがワライラック大学公衆衛生学院と部局間交流協定を締結

環境健康科学研究教育センターは、3月13日（水）、ワライラック大学公衆衛生学院（タイ）と部局間交流協定を締結しました。本学ファカルティハウス「エンレイソウ」にて執り行われた調印式には、ワライラック大学公衆衛生学院長のDr. Warit Jawjitに加えて、副学院長のDr. Supabhorn Yimthiangが、本センターからは小笠原克彦センター長をはじめ10名が出席しました。

本センターとワライラック大学公衆衛生学院は、昨年11月に開講した、ソウル大学校、マヒドーン大学を含む4校でのジョイントクラスを機に、今後も環境健康科学領域でのより広範囲な

研究交流や共同講義などの教育交流をさらに活発に行うために、このたび部局間交流協定を締結したものです。本協定は、平成28年のソウル大学校公衆衛生大学院に続き、2つ目の部局間交流協定締結となりました。

今後、ワライラック大学と大学間交流協定締結へ向けて、さらに国際共同研究及び学生交流の実績を積み上げていく予定です。

（環境健康科学研究教育センター）



調印する小笠原センター長（左）とJawjit学院長（右）



関係者集合写真

第9回日本学術振興会育志賞—優秀な大学院博士課程学生の 顕彰・支援—を情報科学研究科学生が受賞

3月8日（金）、第9回（平成30年度）日本学術振興会育志賞の授賞式が東京・上野の日本学士院において挙行されました。全国から155名の推薦があった中から18名が選考され、情報科学研究科情報エレクトロニクス専攻博士後期課程2年の植吉晃大さんが受賞しました。

日本学術振興会育志賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することを目的として、平成22年度に創設され、本学では第1回から受賞者を輩出しています。

3月22日（金）には、受賞者と北裕幸情報科学研究科長、指導教員の高

前田伸也准教授が笠原正典総長職務代理に受賞の報告をしました。

*情報科学研究科は、平成31年4月1日付けで情報科学院・情報科学研究院に改組。

（情報科学院・情報科学研究院）



受賞報告後、総長室で記念撮影
（左から北情報科学研究科長、笠原総長職務代理、植吉さん、高前田准教授）

受賞者の研究課題等

氏名	所属機関	博士課程の研究課題
植吉 晃大	情報科学研究科 情報エレクトロニクス専攻	深層学習を加速する汎用計算アーキテクチャに関する研究

北海道大学クラーク賞，函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙

3月26日（火），フォーポイントバイシェラトン函館において，北海道大学クラーク賞，函館市長賞及び水産科学院の各種表彰の授賞式を学位記授与式に引き続き，執り行いました。

「北海道大学クラーク賞」は，本年本学を卒業する学部生の中から所属の学部において最も優秀な学生であると

推薦された学生を表彰するもので，「函館市長賞」は，優秀な成績で学士課程を卒業する者に対し，函館市から贈られる賞です。また，「水産科学院表彰」は，学術上優れた研究成果を挙げた大学院学生に授与する水産科学院独自の表彰制度です。

授賞式では，北海道大学クラーク賞

は総長職務代理の笠原正典理事・副学長から，その他の賞は木村暢夫水産科学院長からそれぞれに賞状が贈られ，お祝いの言葉が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

名 称	学 年	受 賞 者
北海道大学クラーク賞	水産学部 4 年	邊見 龍樹
函館市長賞	水産学部 4 年	古卷 史穂 樋口 美暢 吉田 知樹 野口 祐輔
水産科学院表彰 （伊藤一隆賞）	大学院水産科学院 博士後期課程 3 年	松原 直人 西山 竜士
水産科学院表彰 （佐々茂雄賞）	大学院水産科学院 修士課程 2 年	徳弘 航季 喜多 壮太
水産科学院表彰 （はるにれ賞）	大学院水産科学院 博士後期課程 3 年	黒田 実加



授賞式の様子



祝辞を述べる木村学院長

水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙

水産学部3年次の函館キャンパスへの移行に伴い、4月1日(月)、講義棟大講義室において、キャンパス移行式を行いました。

式には、木村暢夫水産科学研究院長のほか、川合祐史水産科学研究院副院長、藤森康澄水産科学研究院副院長、評議員、学科長、教務委員長、学生委員長、練習船船長及び学科担任が出席し、木村研究院長から210名の移行者へ、函館キャンパスで新たに始まる学生生活に向けて激励がありました。

移行式終了後には、引き続き、水産

学部くろしお賞の授賞式を行いました。

本表彰は、優れた学業成績により水産学部第3年次に進級し、函館キャンパスに移行した学生を表彰する水産学部独自の表彰制度です。

受賞者である増殖生命科学科3年の東坂和樹さんには、木村研究院長から賞状が授与されました。

(水産学部)



移行生を激励する木村研究院長



くろしお賞授賞式の様子

薬学研究院で「第13回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、3月8日(金)に薬学研究院臨床薬学講義室において、「第13回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、佐藤美洋薬学研究院長による開会の挨拶の後、薬剤分子設計学研究室の中村孝司助教による「ナノDDSを基盤としたがん免疫療法」と題する発表及び、薬理学研究室の天野大樹講師による「雌・子供との社会関係によって変化する雄マウスの神経回路と行動」と題する発表の2件の研究

発表が行われました。

本発表会には、教員50名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。また、参加者へのアンケートを実施することにより、発表に関する感想や改善点等のアドバイスを発表者へフィードバックすることで、プレゼン

テーションの向上に役立てています。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーションの参考として、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は本年8月に開催予定です。

(薬学研究院)



中村助教



天野講師

モスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科長を 文学研究科に招聘

文学研究科では、3月11日（月）～15日（金）にモスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学（Institute of Asian and African Countries at Lomonosov Moscow State University, 以下ISAA）で日本語学科長を務めるステラ・アルテムィエヴナ・ブィコヴァ（Stella Artemievna Bykova）先生を招聘しました。本招聘は、名和豊春総長とモスクワ国立大学学長の間で合意された両大学の交流事業の一つとして、文学研究科でモスクワ国立大学教員の招聘計画を進めていることに関連してお招きしたものです。モスクワ国立大学からの教員招聘計画として文学研究科では2020年度よりISAA日本語学科から日本文学、日本語史、日本語の語彙論、日本語教育法などの専門家で、いずれも日本語の堪能な教員を招

聘する予定です。

今回、本計画の一環でお招きしたブィコヴァ先生のご専門は日本語教育で、滞在中、文学研究科の居室や講義室、図書館、外国人研究者等宿泊施設の視察を行うとともに、3月14日（木）にエンレイソウ第1会議室においてISAAでの日本語教育事情についてセミナーを行いました。セミナーには文学研究科や本学で日本語教育を専門としている教員など21名が参加し、セミナー後は懇親会において活発な意見交換が行われました。

セミナーでは講演に先立ち、笠原正典総長職務代理よりブィコヴァ先生のご紹介と併せて歓迎のご挨拶をいただきました。

講演は、18世紀に始まるロシアでの日本語教育の歴史について、毎年春に

モスクワ市内の植物園で開催される裏千家の茶会や小学生から大学生までの日本語学習者が参加する日本語弁論大会、少人数で行われるISAA日本語学科での授業についてなど、多岐にわたる内容でした。講演後の質疑応答では多くの参加者から質問があり、活発な情報交換が行われました。

文学研究科では、まずは2020年度に文学研究科とISAAの教員間の交流から始め、将来的にはモスクワ国立大学やISAAからの学生の受け入れや共同研究等へ発展させたいと考えています。

*文学研究科は、平成31年4月1日付けで文学院・文学研究院に改組。

（文学院・文学研究院・文学部）



笠原総長職務代理（中央）、山本文彦文学研究科長（左）と歓談されるブィコヴァ先生（右）



流麗な日本語で講演されるブィコヴァ先生



講演後の記念撮影

学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ） 平成30年度公開成果報告会を開催

学芸員リカレント教育プログラム（略称「学藝リカプロ」）は、「文化庁 大学における文化芸術推進事業」に採択され、3年計画でスタートした事業です。ミュージアムで働く現役の学芸員や文化施設の職員を中心に講義や実習を行い、地域文化の担い手を育てるといふプログラムであり、初年度であった平成30年度は、32名の受講生を受け入れて事業を行ってきました。その学びの成果を一般に公開するべく、3月9日（土）、北海道立近代美術館にて公開成果報告会を開催しました。報告会では、学藝リカプロの受講生のうち25名が、口頭発表、ポスター発表、シンポジウム発表のいずれかの形式で報告を行い、一般市民を含む137名の来場者が会場を訪れました。

当日は、10時からポスター発表の会場がオープンしたことに続き、午後からのプログラムの前には、笠原正典理事・副学長から挨拶があり、本事業全体の意義を説明していただきました。次いで、学藝リカプロ代表の文学研究科 佐々木亨教授から本年度の総括を兼ねて事業の特徴を報告した後、受講生による口頭発表（Session A）が始まりました。

口頭発表では、7名の受講生が合計

5本の研究発表を行いました。勤務する博物館等の所蔵資料や企画展に関する発表はもとより、海外の博物館について考察したり、ミュージアム・ショップのあり方を模索したりする発表もあり、バラエティに富んだセッションとなりました。ゲストコメンテーターとして招聘した大阪市立自然史博物館の佐久間大輔氏からは、多岐にわたるテーマの発表にも関わらず、その都度、鋭い指摘を数多くいただきました。

ポスター発表（Session B）では、15名の受講生が13本の発表を行いました。こちらも、勤務する博物館等に関連する研究に加えて、特定の美術家に関する研究、展覧会カタログに関する研究、図書館や公文書館とミュージアムとの連携に関する研究など、幅広いテーマが出揃いました。会場では、発表者と来場者とが真剣に議論をする姿が多く見られ、次年度以降の学びに向けてモチベーションを高めた受講生も少なくなかったようです。

また、北海道立近代美術館で開催中であった展覧会「生誕70年・没後40年 記念 深井克美展」にあわせ、「夭折の画家、再考」と題してシンポジウム（Session C）を開催しました。学藝

リカプロの受講生であり、現役学芸員でもある3名が、勤務する博物館等での仕事とも関連付けつつ、若くして没した画家に関する研究発表を行いました。ゲストコメンテーターの東京ステーションギャラリー 富田 章氏を交えたディスカッションでは、それぞれの受講生が独自に行っていた研究が「夭折の画家」というキーワードで結びつけられ、横断的に検討されました。

シンポジウム後には、挨拶に立った文学研究科長の山本文彦教授から、本事業の今後に対する期待と激励の言葉があり、さらに北海道芸術学会の南聡会長が盛会を祝いつつ閉会の辞を述べられました。なお、本報告会は、北海道芸術学会との共同主催、北海道立近代美術館との共催という形で開催したものです。北海道の文化・芸術の振興に寄与してきた北海道芸術学会・北海道立近代美術館と、新たな試みである本事業とのコラボレーションを通じて、地域文化の今後のあり方を展望する一日となりました。

*文学研究科は、平成31年4月1日付けで文学院・文学研究院に改組。

（文学研究院）



笠原理事・副学長による挨拶



佐々木プログラム代表による事業主旨説明



SessionA 口頭発表



SessionB ポスター発表



SessionC シンポジウム「夭折の画家、再考」



山本研究科長による閉会挨拶

「北海道の防災研究を考える～広域複合災害研究センターへの展開～」を開催

大規模災害に対する実践的な研究と国土保全を担う人材の育成を目的とした農学研究院の寄附講座「国土保全学研究室」（平成25年度から、寄附元：一般財団法人砂防・地すべり技術センター）、防災・減災に関する文理連携教育研究プロジェクト「突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点」（以下、拠点；平成27年度から）は、平成30年北海道胆振東部地震・平成28年北海道豪雨災害の災害メカニズムの解明等、北海道の防災研究に主導的な役割を果たして参りました。両組織が時限を迎えるにあたり、3月5日（火）、学術交流会館講堂において、成果報告会「北海道の防災研究を考える～広域複合災害研究センターへの展開～」を開催しました。

成果報告会では、笠原正典理事・副学長からの開会挨拶及び寄附者への感謝状贈呈に続き、国土保全学研究室（小山内信智特任教授、林真一郎特任助教）及び拠点（山田 孝拠点長、古市剛久学術研究員）の成果報告、及び両組織を発展的に統合し、平成31年度に設置される学内共同研究施設「広域複合災害研究センター」について紹介を行いました。また、特別講演として、松本浩司NHK解説主幹より「平成の災害から何を学び、次の災害にどう備えるのか」、栗原淳一国土交通省砂防部長より「砂防分野における大学の役割と期待」と題し、ご講演をいただきました。最後に、横田 篤農学研究院長より両組織のこれまでの活動への感謝、広域複合災害研究センターへ

の期待が閉会挨拶として述べられました。防災に関する全学的な教育研究組織の設置は本学において初めてとなり、学生・一般の方・行政機関関係者・防災技術者等からの関心も高く、約200名の参加者がありました。

（農学研究院）



笠原理事・副学長による開会挨拶



寄附者（一般財団法人砂防・地すべり技術センター南理事長）への感謝状贈呈



小山内特任教授による成果報告



山田拠点長による成果報告



NHK松本解説主幹による特別講演



国土交通省栗原砂防部長による特別講演



横田研究院長による閉会挨拶

経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月3日（水）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、

学生相談総合センターの藤岡大輔氏を講師にお迎えし、ストレスとその対処法等について、わかりやすく説明していただきました。

当日は約200名の学生及び教職員が参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了

後に実施したアンケートでは「自分自身を見直すきっかけになった」「相談できる相手を作ろうと思う」等の感想が多く寄せられました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



藤岡講師



熱心に講演を聴く学生

メディア・コミュニケーション研究院で、留学生と中国語シニア学習者の共創による北大キャンパスVRガイド体験会を開催

3月23日（土）、メディア・コミュニケーション研究院主催で北大キャンパスガイドVR体験会を開催しました。これは、昨年10月実施の留学生と中国語シニア学習者との学習交流会（ワークショップ）で制作した北大キャンパスガイドのコンテンツ（本誌2018年11月号参照）を活用してVR動画を開発し、研究の成果を広く公表したものです。音楽家と研究者の情熱とパフォーマンスをグラフィック・レコーディングの手法で可視化した「SAIHATE LINES 2019-Prelude-」との合同企画として開催しました。

当日は初春の吹雪というあいにくの天候となりましたが、ワークショップ参加者が会場に再び集合し、自分たちの協働の成果をVRという新たなメディア作品として視聴体験しました。VR動画は夏の北大キャンパスを、正門からモデルバーンまで13の区間に分けて作成しました。シニア学習者と留学生は、360度動画に合わせて日本語

と中国語のナレーションを入れた2つのバージョンを聴き比べながら、10月のワークショップを振り返り、学び直しの機会になっていたようでした。一般来場客として、北大生のみならず、学外の様々な年代の来場者が北大キャンパスVRガイドを体験しました。「（コースが）細かく分けられていて、とても分かり易かった。説明が簡潔でわかりやすい」「具体的で歴史的なことが分かった。例えばクラークの言葉がどこで言われたことが分かった」「行った気になる、自分が実際に歩いているような感覚がTVとは違っ

て良い」「冬の時期に夏の青空と緑の景色を見ることができてすごく良かった」「高い視点からの映像が面白かった。普段見られない」といった多様な感想が寄せられ、VRに対する関心の高さが感じられました。また、ゆるキャラとして人気の高い「樹氷のゆるきゃら・じゅっきーくん」（蔵王温泉スキー場）も来場し、夏の北大キャンパスの風景を、共創の成果であるナレーションと共に、360度あらゆる角度から楽しみました。

（メディア・コミュニケーション研究院）



VRを体験する留学生と中国語シニア学習者



一般来場者も体験

植物園で小学生とその家族向けの公開講座 「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催

北方生物圏フィールド科学センター植物園では、3月2日(土)・3日(日)に、「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催しました。このイベントは、小学生とその家族を対象に、厳しい冬を生き抜く生き物の姿を観察し生物の多様性について学ぶことを目的とした自然観察プログラムで、小学生29名と保護者22名の計51名が参加しました。

参加者たちは、はじめに実際に園内のマツに触れながらそれぞれの種の特徴を観察し、動物と植物との関わり合いについて職員から説明を受けました。そして次に、エゾイタヤから樹液が出る様子を観察しながらその樹液の味見をしたほか、かんじきを履いて園内を探索しました。このように、見るだけでなく触覚や味覚も使って冬の自然を体感し学んだ後、マツボックリや木の実など園内の植物を素材として思い思いに工作を行いました。

参加者たちは、職員の説明に耳を傾

け、普段入園することのできない冬の植物園の森を満喫していたようです。また、工作では、さまざまな材料を目の前に、迷いながらも子供ならではの

自由な発想で魅力的な作品を作り上げていました。

(北方生物圏フィールド科学センター)



かんじきを履いて雪の上を歩く参加者たち



エゾイタヤの樹液が出ている様子を観察する参加者たち



マツボックリなどを材料として工作をする参加者たち



園内の色々なマツを観察する参加者たち

北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション・白尻水産実験所、七飯淡水実験所、及び忍路臨海実験所は、文部科学省教育関係共同利用拠点（「食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点」）に認定されています。その取り組みの一環として、他大学の学生が参加できる公開水産科学実習「応用発生工学実習」「海棲哺乳類実習」「北海道の沿岸生物の増養殖実習」を、それぞれ2月25日（月）～3月1日（金）、3月4日（月）～7日（木）、3月11日（月）～15日（金）に開催しました。

以下に、今回実施された3件の実習を紹介します。なお、これらの実習は今年度も開催を予定していますので、興味がある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆ <http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten/index.html>

（北方生物圏フィールド科学センター）

「応用発生工学実習—亜寒帯魚類を対象とした増養殖実習—」

北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所で開催し、全国から8大学12名の学生が参加しました。実習では、サケマス類からの採卵など従来の実習に加えて、魚卵への顕微注入を含む発生工学など先端的な手法も体験し、水産生物の育種技術における未来への方向性に対する視座を与えることを目的としました。魚類の胚を操作するために使う操作器具などを実際に実習生が作成することから始まり、魚類の正常発生の観察、染色体の操作、遺伝子資源の保存、また、魚類の発生に関する講義などが行われました。加えて、本学と水産海洋実践教育ネットワーク連携プログラムを提携している長崎大学の征矢野清教授も参加し、北海道と異なる海域の増養殖技術の現状

や取り組みなどについても講義・実習を行いました。

実習生のアンケートには、「ハイレベルな内容を丁寧に説明してもらえ、発生工学に関する理解が深まった」「自分の研究分野との繋がりを知ることができ、幅広い視点で今後の研究に取り組みたいと思った」「他大学の人との交流も本当に良い刺激になった」

など、好意的な回答が数多く寄せられました。

なお、本実習は長崎大学の「水産海洋環境学実習Ⅰ（B）：産卵親魚を用いて、卵子や精子形成を理解するための実習」を合わせて受講することで、より高い学習効果をあげられるような連携プログラムを構築しています。



屋内水槽の見学



屋外水槽の見学



長崎大学・征矢野教授による実習



ガラス器具作成の様子



集合写真

「海棲哺乳類実習—水圏における環境と人間活動の共生に関する実習」

北方生物圏フィールド科学センター忍路臨海実験所で開催し、全国から9大学10名の学生が参加しました。実習では、近年北海道沿岸で課題になっている漁業と海棲哺乳類の共存について学ぶことを目的としました。内容は講

義、おたる水族館での行動観察と鳴音記録、デバート、データ解析（バイオロギング、鳴音、形態測定、個体識別）、水族館で取ったデータについてのグループ発表と、盛りだくさんでした。本年度は、本学と水産海洋実践教

育ネットワーク連携プログラムを提携している長崎大学の盛田祐加特任研究員に加え、名古屋港水族館の大友航氏、南知多ビーチランドの櫻井夏子氏を招待しての講義も開催しました。

参加学生のアンケートには、「内容

がとても濃く、充実していた」「レベルの高い環境で学ぶことができ、研究の重要性を理解できた」「学びたかったこと以上の収穫があった」「興味が

あることに対して貪欲になる姿勢と発信能力の重要性を感じた」「初対面の人との共同作業を行ううえでのチームワークの大切さを学べた」など好意的

な回答が数多く寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



ディベートの様子



おたる水族館での行動観察



盛田特任研究員による講義



キタオットセイ胎児の形態観察



発表会の様子



集合写真

「春季フィールド科学実習—北海道の沿岸生物の増養殖実習」

北方生物圏フィールド科学センター 忍路水産実験所・洞爺臨湖実験所・白尻水産実験所の、道央から道南にかけて3か所にまたがる実験所で開催し、全国から4大学9名の学生が参加しました。実習の前半では、北海道の沿岸域で行われているコンブの種苗生産を体験し、北海道の海浜域を移動しながらコンブを形態学的・遺伝学的に比較することで、その多様性の実態とコンブ藻場が抱える現状について理解を深めました。その後、実習の後半では、回遊する亜寒帯性の魚類であるホテイウオ（地方名：ゴッコ）の人工授精と受精卵の発生観察を行いました。また、潜水によりホテイウオを直接観察するとともにホテイウオが生息する冬

の北海道の海を実習生自身が体験し、その生態に対する理解を深めました。

実習生のアンケートには、「海の様子を間近で見て、磯焼けの問題を考えるきっかけになった」「海だけでなく湖にも入ることができ、貴重な体験となった」「視野を大きく広げることが

でき、様々な部分に興味が出てきた」「想像していた以上に実習内容が濃く、とても充実していた」「本州では体験できないことが多く、北海道大学まで来た甲斐があった」など好意的な回答が数多く寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



忍路臨海実験所でのコンブ調査



コンブの組織観察



人工授精観察



受精卵の発生観察



シュノーケリングの様子

環境健康科学研究教育センターが平成30年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催

3月13日（水）、中央キャンパス総合研究棟1号館 環境健康科学研究教育センターにおいて、平成30年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回は1名（保健科学院：Rahel Mesfin Ketema）のプログラム修了生に対して、小笠原克彦センター長からディプロマが授与されました。

本プログラムは、北海道大学大学院のすべての専攻／学院／研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、北海道大学大学院共通授業「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成しています。また、大学院共通授業「社会と健康」に加えて、これまで

に各学院・研究科が提供する科目及び「社会と健康」として提供されている科目以外の62科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています（平成31年1月15日現在）。「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthにかかわる知識を得るため科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。

「社会と健康」ディプロマは、平成

27年3月に第1回目の授与を行いました。今回は第7回目、累計14名の方がプログラムを修了しました。これまでに、医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科、農学院、獣医学院、工学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

平成31年度前期「社会と健康」ディプロマプログラムの登録申請は、本年6月末まで受け付けており、9月に前期授与式を予定しています。

（環境健康科学研究教育センター）



授与式後の記念撮影

脳科学研究教育センター—発達脳科学専攻第15期修了生に修了証書授与



今年度の修了生と基幹教員



センター長から修了証書の授与

3月25日（月）、本学修士・専門職学位・博士学位記授与式後に、エンレイソウ第一会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、渡邊雅彦センター長から修了証書が授与されました。

今年度は第15期生として、修士課程10名（鄭俊爾：文学研究科，張軒赫：教育学院，二丹田優介，高瀬峻研：保健科学院，田中寿希，朝岡勇太，木村佳祐，齋藤瞭毅，橋大輝：生命科学科，春日遥：情報科学研究科），博士課程1名（大浦峻介：医学研究科）が所属学院・研究科の学位取得に加えて

発達脳科学専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局の基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

発達脳科学専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、

平成15年度に発足しました。現在は、学内10学院（研究科）にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳に関する分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程98名及び博士（後期）課程24名、計122名の修了生を送り出しています。また平成30年度は、新たに学部生対象の一般教育科目（フレッシュマンセミナー）を開講し、17名の1年生が履修して脳科学の門を叩きました。

（脳科学研究教育センター）

北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催

4月3日（水）、北海道大学病院では医科臨床研修医・歯科臨床研修医・看護師・薬剤師・医療技術職員・事務職員の新規採用者を対象に、多職種合同歓迎会を開催しました。

この合同歓迎会は、病院全体で新規採用者へ歓迎の意を表するとともに、同日行われた多職種合同コミュニケーションスキル研修の一環として企画し、新規採用者と病院各部署・職種間の相互の親睦を図ることにより、優れたチーム医療体制作りを目指したものです。会場となった北部食堂には、新規採用者241名のほか、秋田弘俊病院長をはじめ病院執行部・各診療科長等100名が集まりました。

会の冒頭では、秋田病院長の開会挨拶

、北川善政副病院長の乾杯の発声があり、多職種混合グループの笑顔があふれる賑やかな雰囲気となりました。

会の途中には病院執行部より期待のこもった激励及び各職種の新規採用者紹介があった後、その期待に応えるように新規採用者代表6名より熱い抱負が述べられました。

最後に高橋久美子看護部長から乾杯

及び閉会の言葉が述べられ、大盛況の中、終了しました。

職種の垣根を越えたシームレスな連携が重要性を増す医療現場において、本会がチーム医療実践の一助となることを期待します。

（北海道大学病院）



秋田病院長による歓迎の挨拶



交流を深める新規採用者

物質科学リーディングプログラム（ALP）1期生の修了式を挙



修了証書を手にする1期生とプログラム教員



修了証書を受け取る1期生

3月18日（月）、百年記念会館の大会議室にて物質科学リーディングプログラム（ALP）*第1期生の修了式を行いました。ALPは文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援により、平成25年に発足しました。第1期生は、平成26年10月に採用された学年です。

修了式では開式の辞に続いて、プログラム責任者である長谷川晃理事・副学長より修了生一人ひとりに対して修了証書が授与されました。続いて長谷川理事・副学長により式辞が読み上げられ、その後、修了生11名が一人ずつ挨拶を行い、プログラムでの成果や獲得した力について振り返りました。最後に石森浩一郎プログラムコーディネーターからお祝いの言葉が述べられ、閉式の辞をもって修了式は終了しました。

1期生は、それぞれが所属する研究

院での研究活動に加え、数理連携科目、サイエンスコミュニケーション科目、産学連携・キャリア教育科目など、ALP独自のアクティブラーニング科目を履修しました。さらに、異分野ラボビジットや企業あるいは海外でのインターンシップ、海外サマーキャンプ、国際シンポジウム運営など、実践力を高めるためのイベントを経験した他、修士2年次と博士2年次に行われた2回のQE（Qualifying Examination）を通過しました。博士課程3年次の最後の1年間は独立ラボ運営、先端共同研究、企業共同研究、海外共同研究のいずれかを選択し、その成果は多くの査読付き原著論文として出版されています。特に、本プログラムの売りの1つである数理連携を活かした研究を行った学生が多いことが1期生の特徴の一つでした。

修了生たちは今後、企業あるいは大

学、研究機関の一員としてそれぞれの道を歩むこととなりますが、本プログラムでの活動を通して得た経験や、他大学を含むリーディングプログラム修了生同士のネットワークを最大限活用し、さらなる飛躍をすることが期待されます。

*ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラムです。ALPは産業界や学術・研究機関など、さまざまな領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としています。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際的実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供しています。

（総合化学院）



式辞を読み上げる長谷川プログラム責任者



挨拶を行う修了生



お祝いの言葉を述べる石森プログラムコーディネーターと会場の様子

附属図書館所蔵「ヤエンコロアイヌ文書」が国の重要文化財に指定

文部科学省文化審議会は、3月18日（月）開催の同審議会文化財分科会において、附属図書館所蔵の「ヤエンコロアイヌ文書」を「カラフトナヨロ惣そう乙名おとなもんじよ文書（ヤエンコロアイヌ文書）」の名称で国の重要文化財に指定することについて、文部科学大臣に答申しました。本学では、重要文化財（美術工芸品）としての指定は今回が初めてとなります。

カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）は、カラフト西岸ナヨロの惣乙名（複数村落の統括者）を務めたアイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群で、清朝関係文書4通と日本側作成文書9通の計13通で構成されます。前者は18世紀後半から19世紀前半にかけての満文2通（1通は官印が押捺された公文書）と漢文2通で、清朝への進貢に関する内容をもっています。日本側作成文書は、江戸時代後期（18世紀末から19世紀中葉）のもので、最上徳内らカラフト探査に携わった人物による前記満文文書ほかを披見した旨の書付、並びに箱館奉行所等発給の惣乙名職等の任免に関する文書の2種に大別されます。18世紀から19世紀にかけてのカラフトアイヌと中国、

日本との関わりを伝える極めて稀有な文書群であり、当該期のいわゆる北方世界の歴史研究上に学術的価値が高いと評価されました。

清朝の公文書は、乾隆40年（1775）の年記があり、清朝の地方官吏である三姓（黒竜江省の地名）の副都統（役職名）からカラフトアイヌの氏族長への朝貢に関する通知です。満州語で書かれており、「管理三姓地方兵丁副都統印」という漢字と同じ内容の満州語からなる角印が捺されています。

また、この文書をはじめ現地でみた幕府の役人は、蝦夷地調査でカラフトに行った最上徳内といわれており、徳内が当時文書を所蔵していたヤエンコロアイヌという名の氏族長に大切に保管しておくよう記した寛政4年（1792）の書付や、幕吏・松前藩士・会津藩士らの書付及び箱館奉行所が幕末期のアイヌ惣乙名に与えた辞令類などの和文文書も一緒に残されています。

当館の北方資料データベースでこの文書の画像を公開していますのでご利用ください。資料保存のため、閲覧時はレプリカ（写真複製）での取り扱いとなります。

当館では、この度の重要文化財指定を大変光栄に思い、関係の方々と協力し学術的に貴重な資料として後世に引き継いで参ります。

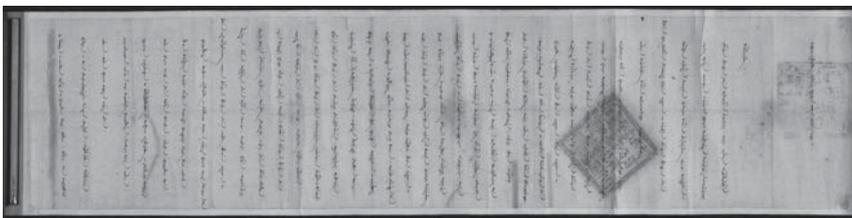
◆北方資料データベース

<https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0A02496000000000>

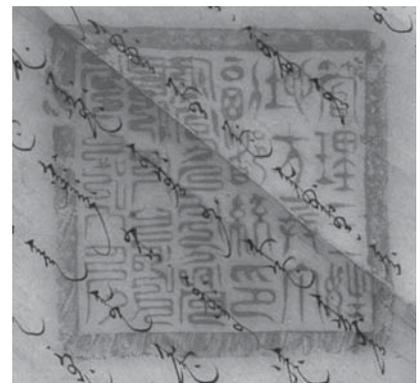
（附属図書館）



ヤエンコロアイヌ文書の外観



角印の捺された満州語の公文書



印部分の拡大画像

■お知らせ

平成31年度 人間ドック・特定健康診査の実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドック・特定健康診査を次のとおり実施しております（任意継続組合員を含む）。

なお、受付等については専門業者へ外部委託となり、組合員が直接文部科学省共済組合ホームページから申込みしていただくこととなります。

1. 申込期間

平成31年4月1日（月）～平成32年1月10日（金）まで

2. 受診期限

平成32年1月31日（金）まで

3. 対象者

①人間ドック

平成31年4月1日現在満35歳以上となる組合員及びその被扶養配偶者、任意継続組合員本人及びその被扶養配偶者

②特定健診

平成32年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

③生活習慣病予防健診

平成32年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

※人間ドック、特定健診、生活習慣病予防健診は、受診期限内にいずれか1回受診できます。

※特定健診、生活習慣病予防健診は、組合員は受診できません。

（任意継続組合員は除く。）

4. 補助額

①人間ドック

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

組合員（任意継続を含む） 30,000円（上限・税込）

被扶養配偶者（任意継続を含む） 25,000円（上限・税込）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、ドック本体料金と合わせ、補助額を超過した分は自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

②特定健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

全額補助（自己負担なし）

※オプション検査料金は、全額自己負担となります。

③生活習慣病予防健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

8,225円（上限・税込）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、全額自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

5. 申込方法, 健診機関

申込方法, 健診機関につきましては, [文部科学省共済組合ホームページ](http://www.monkakyosai.or.jp/)でご確認願います。

なお, ホームページを閲覧できない方は, FAX, 郵送での申込となりますので所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

お問い合わせ先

(株) ベネフィットワン・ヘルスケア健診予約受付センター

TEL 0800-8888-009 (フリーコール)

03-6870-2796 (有料)

受付時間: 平日10~21時, 土日祝10~18時

6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い, 今回実施する健康診断結果のうち, 法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます(目的外利用はいたしません)。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

博士学位記授与

3月25日（月）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は299人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は14人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	いま 泉 和也 いづみ かず や		古典期前期マヤにおける国家形成の研究－三足円筒土器と「テオティワカンの影響」－ 主査：教授 小杉 康
	うえ 田 哲 司 うえ た てつ し		十六～十八世紀における北日本の境界領域とアイヌ社会 主査：教授 谷本 晃久
	すず 鈴 木 山 海 すず き やま み		1654年「帝国宮内法院令」をめぐる諸問題 主査：教授 山本 文彦
	たか 鳥 廉 たか とり れん		室町時代における政治秩序の形成と顕密・禅宗寺院の歴史的位置 主査：准教授 橋本 雄
	みや 本 花 恵 みや もと はな え		近世浄土宗と蝦夷地 主査：教授 谷本 晃久
	よし 吉田(安酸)香織 よし やすかた かおり		近世アルザスをめぐる権力秩序－神聖ローマ皇帝・フランス王・帝国等族－ 主査：教授 山本 文彦
	おお 大 山 隆 子 おお やま たか こ		日本語における「言いさし文」の統語論的構造及び語用論的機能 主査：教授 加藤 重広
	かん 関 ガ 雅 泉 かん が げん せん		江戸時代前期における儒學者の朱子學と陽明學の受容に関する考察 主査：教授 近藤 浩之
	きし 岸 本 宜 久 きし もと よし ひさ		アイヌ語の複雑述語の研究 主査：教授 佐藤 知己
	じョウ 常 シ 思 カ 佳 じョウ じょう し か		川端康成の研究——モダニズムの方法をめぐって 主査：教授 押野 武志
	ちん 陳 セイ 静 静 ちん ちん せい せい		『実学報』東文報訳から見た中日語彙交渉の研究 主査：教授 池田 証壽
	トウ 唐 セツ 雪 トウ とう せつ せ		太宰治文学の研究 主査：教授 中村 三春
	ふじ 藤 い 井 得 弘 ふじ い とい ひろ		中国初期探偵小説論 主査：教授 武田 雅哉
	フ 武 セイ 情 フ ふ せい じょう		本草和名の成立と継承 主査：教授 池田 証壽
ます 増 い 井 真 琴 ます い まま こと		小川未明の総合的再考－詩業と思想展開を中心として 主査：教授 中村 三春	
まつ 松 うら 浦 和 宏 まつ まつ うら かず ひろ		Boats Against the Current: A Philosophy of Time in F. Scott Fitzgerald's Works (流れる時間を取り戻すために：F. Scott Fitzgerald作品における時間論) 主査：教授 竹内 康浩	
みや 宮 ざわ 澤 優 樹 みや みや ざわ むつ き		Questions of Immortality and Inquiring Mind in the Ghost Stories of Henry James and Edith Wharton (ヘンリー・ジェームズとイーディス・ウォートンの幽霊物語における不死をめぐる問いと探究心) 主査：教授 竹内 康浩	
やま 山 じ 路 あつ し 史 やま やま じ あつ し		坂口安吾の研究 主査：教授 中村 三春	
リョウ 廖 カイ 海 カ 華 リョウ りょう かい かい		江戸時代の易學に関する研究 主査：教授 近藤 浩之	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（文学）	キム 金 チャン 昌 ジン 震		少子高齢化社会における日韓比較－子育て支援，高齢者扶養・介護を中心に－ 主査：教授 櫻井 義秀
	ショウ 肖 コン 錕		日本と中国におけるジオツーリズムの発展に関する地理学的研究 主査：准教授 仁平 尊明
	スズ 須 やま 山 まさ 基		累積的文化進化における文化アトラクターの影響：実験室実験を通じた網羅的検討 主査：准教授 竹澤 正哲
	たか 高 さき 崎 ゆう 優 こ子		資源空間の変容をめぐる人びとの抵抗と順応－沖縄の事例から－ 主査：教授 宮内 泰介
	ワヒド ウッラー WAHID ULLAH		A geographical study of farmers' adaptations to climate change in Khyber Pakhtunkhwa, Pakistan (パキスタン，カイバル・パクトウンクワにおける農民の気候変動への適応に関する地理学的研究) 主査：准教授 仁平 尊明
博士（法学）	まえ 前 だ 田 ほし 星		ヨーロッパ近世刑事司法の中の魔女裁判－ハインリヒ・フォン・シュルトハイスの『詳細なる手引き』を手掛かりにして 主査：教授 田口 正樹
	やま 山 さき 崎 こう 皓 すけ 介		多様化・弾力化する違憲判断の法的構成－過小包摂立法を端緒として－ 主査：教授 常本 照樹
博士（医学）	あい 相 かわ 川 かつ 勝 ひろ 洋		幼若期ストレスによって生じる成熟期ラットのうつ様行動に対するケタミンの効果とその神経基盤研究 主査：教授 神谷 温之
	あら 荒 たか 隆 ひで 英		大腸杯細胞は抗菌分子Lypd8依存性に同種造血幹細胞移植後の移植片対宿主病を抑制する 主査：教授 橋野 聡
	いし 石 かわ 川 こう 耕 すけ 資		マウス血管柄付きリンパ節移植モデルにおける移植リンパ節の形態および機能に関する研究 主査：教授 安齊 俊久
	えん 遠 どう 藤 たけし 健		末梢神経再生に最適なシュワン細胞の同定 主査：教授 佐々木 秀直
	オウ 王 シ 子 ホウ 豊		FTY720は脳血液関門構成タンパク質の保護および亜急性期炎症制御により脳虚血による障害を軽減する 主査：教授 渡利 英道
	おお 大 いし 石 ゆういちろう 悠一郎		人工知能を用いた前立腺MRIの癌自動局在診断法 主査：教授 渡利 英道
	おお 大 いわ 岩 ゆう 祐 き 基		変温性・真社会性齧歯類ハダカデバネズミのクイーンにおける社会的隔離による褐色脂肪組織の発熱 主査：教授 久住 一郎
	おお 大 うら 浦 しゅん 峻 すけ 介		中枢神経系における軸索の興奮性制御機構に関する研究 主査：教授 渡邊 雅彦
	おお 大 た 田 みつ 光 とし 俊		軟骨細胞におけるTMEM147依存的炎症回路制御機構についての解析 主査：教授 渥美 達也
	おお 大 つか 塚 りょう 亮		遺伝子導入技術を用いたiPS細胞由来胸腺上皮細胞の作製と移植免疫応答制御に関する研究 主査：准教授 北村 秀光
	おお 大 の 野 こう 浩 た 太		カーネル密度を用いた不均等割付における適応ランダム化のシミュレーション研究 主査：教授 西浦 博
	おお 大 はら 原 まさ 正 つく 嗣		羊膜間葉系幹細胞由来細胞外小胞の慢性肝障害モデルに対する抗炎症・抗線維化効果 主査：教授 武富 紹信
	おお 大 ひがし 東 ひろ 寛 ゆき 幸		HSP47 siRNA含有ビタミンA結合リポソームの点眼療法は慢性移植片対宿主病のドライアイ症状を改善する 主査：教授 橋野 聡
おもて 表 かず 和 のり 徳		入院時の肝硬度は急性非代償性心不全患者の長期予後と関連する 主査：教授 松居 喜郎	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (医学)	かた 片 やま 山 たか 貴 し 史		ナノカプセルを用いた骨格筋ミトコンドリアを標的とした治療法の開発に関する研究 主査：教授 岩永 敏彦
	かわ 川 ぎし 岸 なお 直 き 樹		C型肝炎に対するDAA治療におけるB型肝炎再活性化の頻度と危険因子の検討 主査：准教授 七戸 俊明
	かわ 川 むら 村 たけ 武 し 史		胆道癌における肝切除後の肝不全死亡を予測可能な肝不全診断基準とその周術期予測因子に関する研究 主査：教授 秋田 弘俊
	キム 金 ウ 佑 ヨシ 泳		高純度アルギン酸ゲルを使用した半月板修復治療法の開発 主査：教授 山本 有平
	こう 河 の 野 みち 通 ひろ 大		全身性エリテマトーデス患者T細胞におけるSRSF1発現低下はRasGRP1スプライシング異常を引き起こす 主査：教授 村上 正晃
	こ 小 にし 西 たか 崇 お 夫		Clinicopathological assessment of plaque instability in human carotid atherosclerosis (ヒト頸動脈における粥状動脈硬化不安定性の臨床病理学的検証) 主査：准教授 中村 幸志
	こう 郷 とし 俊 ひろ 寛		Interleukin-32はウイルス感染時の自然免疫経路を活性化する 主査：教授 村上 正晃
	ささ 佐 さき 木 おまむ 理		北海道における先天性心疾患の胎児診断の有用性に関する研究 主査：教授 松居 喜郎
	さ 佐 とう 藤 あや 絢		Ras-PI3Kシグナルの時空間制御を介したエンドサイトーシス制御機構に関する研究 主査：教授 野口 昌幸
	さわ 澤 だ 田 けんたろう 憲太郎		切除不能進行・再発大腸癌患者におけるHER2遺伝子増幅が抗EGFR抗体薬の治療効果と生命予後に与える影響 主査：教授 平野 聡
	し 清 みず 水 あ 亜 い 衣		乳癌における腫瘍関連MUC1の発現とその臨床的有用性に関する研究 主査：教授 田中 伸哉
	しら 白 かわ 川 りょう 亮 すけ 介		慢性心不全における末梢血単核球ミトコンドリア由来の活性酸素種産生量の増加は疾患重症度や運動耐容能低下と関連する 主査：教授 大場 雄介
	すが 菅 わら 原 え 恵 り 理		オートファジーは滑膜線維芽細胞においてピメンチンのシトルリン化およびMHC class IIとの相互作用を促進する 主査：教授 坂本 直哉
	すぎ 杉 うら 浦 りょう 諒		超音波エラストグラフィによる肝弾性度と肝予備能との相関性の検討 主査：准教授 七戸 俊明
	せき 関 たつ 達 や 也		熱可塑性人工弁輪の臨床応用に関する研究 主査：教授 安斉 俊久
	たか 高 しま 島 ゆう 雄 た 太		BET阻害がDNA修復機構に与える影響及びBET阻害薬を用いた新たな非小細胞肺癌治療の開発に関する検討 主査：准教授 鬼丸 力也
	たか 高 せ 瀬 たか 崇 ひろ 宏		生活習慣病の治療介入に関する無作為化比較試験による実証的研究 主査：教授 山下 啓子
	たか 高 はし 橋 とし 俊 ゆき 行		小児難治性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ定期反復投与の治療効果 主査：教授 篠原 信雄
	たか 高 はし 橋 まさ 雅 ゆき 之		膜電位/細胞内カルシウム同時測定光学マッピング法を用いた肥大大心の急性虚血におけるスモールコンダクタンスカルシウム感受性カリウムチャネルの電気生理学的影響および不整脈機序の解明 主査：教授 大場 雄介
	た 田 がわ 川 よし 義 あき 晃		ドライアイにおける角膜痛覚過敏およびレバミピドによる角膜痛覚過敏の改善 主査：教授 神谷 温之
たに 谷 むら 村 しゆん 瞬		難治性自己免疫疾患における新規疾患活動性マーカーと治療薬に関する研究 主査：教授 有川 二郎	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (医学)	つじ 辻 飛雄馬	ひゅうま	多能性幹細胞を用いた組織・細胞移植医療における免疫制御法の開発に関する研究 主査：教授 近藤 亨
	つじ 辻 永 真 吾	なが しん こ	慢性心不全患者における運動時拡張早期左室内圧較差と運動耐容能との関連に関する研究 主査：教授 生駒 一憲
	なが 長 島 一 哲	しま かず のり	炎症性腸疾患患者におけるPaneth細胞形態異常とDysbiosisの関連 主査：教授 平野 聡
	なん 南 部 秀 雄	ふで ひで お	心不全における骨格筋異常の発症にキサンチンオキシダーゼが果たす役割の解明 主査：教授 森本 裕二
	にしむら 西村(中山)ちひろ	なかやま	ヒト表皮角化細胞由来iPS細胞からの間葉系幹/間質細胞の樹立 主査：教授 佐々木 秀直
	はん 半 田 悠	だ はるか	EMT-driven cancer malignancy: what is the fundamental matter? (EMTとがん悪性度：何が根本的事象なのか。) 主査：教授 廣瀬 哲郎
	ひし 菱 村 亮 介	むら りょう すけ	自家骨軟骨柱移植術に高純度アルギン酸ゲル (UPALゲル) 移植を併用した治療法の開発 主査：教授 山本 有平
	ふる 古 田 めぐみ 恵	た めぐみ	小細胞肺癌におけるDLL3/ASCL1の発現とDLL3の機能に関する研究 主査：教授 白土 博樹
	ほりのうち 堀之内	とある 徹	てんかん患者は皮膚電気活動が低下している 主査：教授 岩崎 倫政
	ほん 本 谷 康 二	たに こう じ	SEREX法による非機能性膵神経内分泌腫瘍に対するIgG 抗体型腫瘍マーカーの探索 主査：教授 武富 紹信
	まえ 前 川 さとし 聡	かわ さとし	心不全におけるミトコンドリア機能の心筋治療法の確立に関する研究 主査：教授 廣瀬 哲郎
	まつ 松 澤 文 彦	ざわ ひこ	ヒト膵癌細胞株に対する抗mesothelin抗体 (Amatuximab) の治療効果に関する研究 主査：教授 園下 将大
	まつ 松 田 可 奈	だ か な	腸管Graft-Versus-Host Disease (GVHD) における内視鏡診断の有用性に関する研究 主査：教授 本間 明宏
	みず 水 上 達 三	かみ たつ ぞう	抗mesothelin抗体Amatuximabはmesothelin高発現膵癌細胞株によるマウス腹膜播種モデルにおいてgemcitabineの抗腫瘍効果を増強する 主査：教授 松野 吉宏
	みぞ 溝 田 知 子	た とし こ	遠隔シミュレーショントレーニングシステムの開発と段階的なトレーニングによる腹腔鏡下手術基本手技の技能習得 主査：教授 玉腰 暁子
むら 村 松 けん 憲	まつ けん	制御性T細胞の機能不全はマウスとヒトにおいて類天疱瘡抗原への自己抗体産生を誘導する 主査：教授 石田 晋	
よし 吉 田 純 人	だ すみ と	自然免疫応答を利用した新規抗がん免疫誘導法・がん微小環境制御法の開発 主査：教授 小林 弘一	
博士 (歯学)	たか 高 田 りょう 亮	た りょう	EFFECT OF A NANO-SCALE FINE HOLE PATTERN ON THE DIFFERENTIATION OF RAW264.7 CELLS INTO OSTEOCLASTS (RAW264.7 細胞の破骨細胞への分化におよぼすナノスケール HOLE パターンの影響) 主査：教授 吉田 靖弘
	なが 永 井 伯 弥	い とも や	Immunocytochemical assessment of cell differentiation of podoplanin-positive osteoblasts into osteocytes in murine bone (podoplanin陽性骨芽細胞および骨細胞における組織化学的検索) 主査：教授 横山 敦郎
	ナズニン カディザ Naznin Khadiza		Immunolocalization of podoplanin, CD44 and endomucin in the odontoblastic cell layer of murine tooth germs (マウス歯胚の象牙芽細胞層におけるpodoplanin, CD44およびendomucinの局在) 主査：教授 八若 保孝
	にし 西 見 光 彦	み つ ひこ	再植後の歯根吸収に対するN-アセチルシステインの効果 主査：教授 八若 保孝

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（歯学）	ほん ま間 じゆん 淳		FUSION OF RAW 264.7 MACROPHAGE CELLS ON MICRO-SCALE FINE PILLAR PATTERNS (マイクロスケールパターン上におけるRAW264.7細胞の融合) 主査：教授 吉田 靖弘
	まえ だ 田 あや 彩 こ子		卵巣摘出マウスに対するヒト乳歯歯髄幹細胞の細胞培養液を用いた骨吸収抑制効果の検討 主査：教授 八若 保孝
	まえ だ 田 まさ な 正 名		睡眠時ブラキシズム時の閉口筋活動相における開口筋活動レベルと活動パターン 主査：教授 山口 泰彦
	あ べ 倍 よし ひこ 嘉 彦		高齢者におけるオーラルフレイルの診断とサルコペニアおよびメタボリック・シンドロームとの関連について 主査：教授 山崎 裕
	こう の 野 みち とし 通 俊		リン酸化プルラン含有MTAシーラーを用いた根管充填後の治癒に及ぼす効果 主査：教授 吉田 靖弘
	しとみ 部 かな こ 佳奈子		Characterization and antibacterial assessments of Ag nanoclusters/rose bengal nanocomposite for antimicrobial photodynamic therapy (抗菌的光線力学療法に向けた銀ナノクラスター／ローズベンガル複合体の特性並びに抗菌性評価) 主査：特任教授 柴田 健一郎
	ズバエル アハメッド Zubaer Ahmed		Is the double-sided microtensile bond strength test appropriate to assess the performance of adhesives to dentin? (両側微小引張試験は象牙質歯質接着性を評価する際に妥当か?) 主査：教授 佐野 英彦
	なに わき ひろ と 谷 脇 裕 人		ラット口蓋腺の加齢変化に関する組織学的研究 主査：教授 山崎 裕
	と い だ 戸井田 ゆう 侑		Pulpal response to capping with MTA containing phosphorylated pullulan (リン酸化プルラン含有MTAセメントの歯髄に対する反応) 主査：教授 佐野 英彦
	ふり はた とも かず 降 簇 友 和		Fabrication and characterization of osteoconductive scaffold of recombinant peptide based on human collagen type I and β -tri calcium phosphate nanoparticles. (ヒトI型コラーゲン様リコンビナントペプチドと β -リン酸三カルシウムナノ粒子からなる骨形成スキャフォールドの作製および特性評価) 主査：教授 田村 正人
	ま ゆみ か よ こ 真 弓 佳代子		Antibacterial coating of human dentin surface with surface pre-reacted glassionomer (S-PRG) nanofillers (surface pre-reacted glassionomer (S-PRG) ナノフィラーによるヒト象牙質表面の抗菌コーティング) 主査：特任教授 柴田 健一郎
	み よし けんたろう 三 好 健太郎		1歳6か月児健康診査における萌出歯数の33年間の推移と萌出歯数に関連した因子の検討 主査：教授 八若 保孝
	よこ やま あ や こ 横 山 亜矢子		Immunolocalization of FGF23 in bone metastasis of human breast carcinoma MDA231 cells (乳がんMDA231細胞の骨転移巣におけるFGF23の免疫局在について) 主査：教授 山崎 裕
	い とう けい すけ 伊 藤 啓 介		破骨細胞の機能とRNA結合タンパクHuRの関連 主査：教授 鄭 漢忠
	かま ぐち ま ゆみ 鎌 口 真由美		The differences of collagen XVII between the oral mucosa and the skin discover the pathogenesis of oral lesions in pemphigoid (17型コラーゲンに着目した類天疱瘡における口腔内水疱形成機序の解明) 主査：教授 北川 善政
し ま とも か 志 摩 朋 香		制限拡散モデルに基づく口腔扁平上皮癌の拡散強調像の評価：TNM分類及びPET検査による腫瘍の機能的情報との比較 主査：教授 箕輪 和行	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（歯学）	たけうちあきこ 竹内明子	閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）における口腔領域の画像的評価 主査：教授 箕輪 和行
	はらたさおり 原田沙織	下顎枝矢状分割法術後の安定性および安定性に影響する因子に関する研究 主査：教授 鄭 漢忠
	もりもとまさひろ 森本真弘	転移性腫瘍細胞外小胞miRNAによる血管内皮の形質変化とがん転移促進メカニズムの解明 主査：教授 北川 善政
	やましたえみ 山下映美	味覚障害患者における臨床的特徴と治療成績に関する検討 主査：教授 北川 善政
博士（獣医学）	えぐちりょうた 江口遼太	アストロサイトの細胞外プリン産生・代謝機構に関する研究 主査：教授 乙黒 兼一
	エムディ アブドゥル Md. Abdul MASUM	Studies on morphofunctional interactions between epithelial cells composing blood-urine barrier in mice – as a role for immunological gate regulating renal pathology – （マウス血液－尿関門を担う上皮細胞間相互作用に関する形態機能学的研究－腎病変を制御する免疫学的ゲートとしての役割－） 主査：教授 昆 泰寛
	グエン NGUYEN タム THANH LAM	Virological and epidemiological studies for the control of highly pathogenic avian influenza （高病原性鳥インフルエンザの制御に関するウイルス学的及び疫学的研究） 主査：教授 迫田 義博
	こんどうたつなり 近藤達成	Functional analyses of host factors involved in filovirus infection （フィロウィルスの感染に関与する宿主因子の機能解析） 主査：教授 高田 礼人
	さかぐちけんいちろう 坂口謙一郎	Study on the growth of oocytes and steroidogenesis of granulosa cells in cattle: Effects of bone morphogenetic protein-4, follicle stimulating hormone and antral follicle count in ovaries on <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i> follicular development （牛卵子の発育と顆粒層細胞の性ステロイドホルモン産生の関係：骨形成タンパク質4，卵巣刺激ホルモンおよび卵巣内胞状卵胞数が体外および体内での卵胞発育に及ぼす影響） 主査：教授 片桐 成二
	さとうまさひろ 佐藤匡浩	Generation of bat-derived influenza viruses and detection of virus-specific antibody in African bats （コウモリ由来インフルエンザウイルスの作出とアフリカのコウモリからの特異抗体検出） 主査：教授 高田 礼人
	しんうんちほく 申雄澈	Study on development of brown and beige adipocytes in mice: effect of age and diet-induced obesity （マウスにおける褐色およびベージュ脂肪細胞の誘導・発達に関する研究：加齢および食餌誘導性肥満の影響） 主査：教授 木村 和弘
	でぐちたつや 出口辰弥	Evaluation of radio-resistance mechanisms in cancer stem-like cells isolated from canine tumor cell lines and stem cell-selective radio-sensitizing property of anti-diabetic agent metformin. （犬腫瘍細胞株におけるがん幹細胞の放射線耐性機序および抗糖尿病薬メトホルミンの幹細胞選択的放射線増感効果に関する基礎的研究） 主査：教授 奥村 正裕
	マニヤンド Manyando シンボトウェ SIMBOTWE	Seroepidemiological study of anthrax among cattle in Zambia （ザンビアにおけるウシの炭疽に関する血清疫学研究） 主査：教授 東 秀明
	メイジュンツウ May June THU	Studies on Genetic Diversity of Spotted Fever Group Rickettsiae in Ixodid Ticks in Japan （日本産マダニが保有する紅斑熱群リケッチアの遺伝的多様性に関する研究） 主査：特任教授 片倉 賢
ラビン Rabin カダリヤ KADARIYA	Genetics, ecology and conservation of Himalayan black bears (<i>Ursus thibetanus laniger</i>) in Annapurna Conservation Area of Nepal （ネパール・アンナプルナ保護区におけるツキノワグマ (<i>Ursus thibetanus laniger</i>) の遺伝子、生態および保全について） 主査：教授 坪田 敏男	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (情報科学)	おお 大 はま 濱 いく 郁		Relevance-dependent Biclustering Models for Relational Data Analysis (関係データ分析のための関連度依存型共クラスタリングモデルの研究) 主査：教授 有村 博紀
	なせ 季 ショウ 承 セイ 成		Automated Lemma Generation and Multi-Context Schemes for Rewriting Induction (書換え帰納法のための補題自動生成と多重文脈スキーム) 主査：教授 栗原 正仁
	すず 鈴 き 木 ひろ 浩 ふみ 史		Implicit Subset Enumeration by Top-Down Construction of Decision Diagrams and Its Applications to Combinatorial Problems (決定グラフのトップダウン構築による暗黙的部分集合列挙とその組合せ問題への応用) 主査：教授 有村 博紀
	ソウ 宋 セイ 静		A Study on Causal Discovery Considering Confounders (交絡因子を考慮した因果発見に関する研究) 主査：准教授 小山 聡
	たか 高 だ 田 けい 圭		A Study on Learning Algorithms of Value and Policy Functions in Hex (Hexを用いた局面評価関数とポリシー関数の学習アルゴリズムに関する研究) 主査：教授 山本 雅人
博士 (工学)	お 尾 ぎさ 崎 し 郎 史 郎		Interface control of Al ₂ O ₃ -based insulated-gate structures for high-frequency GaN HEMTs (Al ₂ O ₃ 絶縁ゲート構造の界面制御と高周波GaN HEMTへの応用) 主査：教授 本久 順一
	こ 小 だいら 平 りゅうたろう 竜太郎		Synthesis and Characterizations of Vertical Ferromagnetic MnAs/Semiconducting InAs Heterojunction Nanowires (強磁性体MnAs / 半導体InAs縦型ヘテロ接合ナノワイヤの成長と評価に関する研究) 主査：教授 本久 順一
博士 (情報科学)	ジャン 張 ユー 雨 チョウ 橋		Study on the Thermoelectric Properties of SrTiO ₃ -SrNbO ₃ Solid Solutions using the Epitaxial Thin Films and the Artificial Superlattices (エピタキシャル薄膜と人工超格子を用いた SrTiO ₃ -SrNbO ₃ 固溶体の熱電特性に関する研究) 主査：教授 橋詰 保
	ひ 肥 だ 田 いたる 格		エッジ環境における知的情報処理に向けた低消費電力プロセッサアーキテクチャに関する研究 主査：教授 本村 真人
博士 (工学)	リン 林 シ 志 チョウ 超		Detection of nuclear spin coherence in GaAs through spin-echo measurements using electrical spin injection (電氣的スピン注入を用いたスピネコー測定によるGaAs中の核スピンコヒーレンスの検出) 主査：教授 村山 明宏
博士 (情報科学)	あお 青 やぎ 柳 ゆ 佑 か 佳		新規透明化法を用いたマウス脳における新生ニューロンの分布に関する研究 主査：教授 根本 知己
博士 (工学)	とう 任 だ 田 そう 崇 こ 吾		時間反転原理を利用した散乱効果抑制の試み - 光を用いた生体透視イメージングをめざして - 主査：准教授 工藤 信樹
博士 (情報科学)	さい 斉 とう 藤 なお 直 き 輝		異種データを用いた画像共有サービスに投稿される画像の分類に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
	とう 藤 こ 後 れん 廉		胃X線画像を用いた機械学習に基づく胃がんリスクの診断支援とその応用に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
博士 (工学)	はっ 服 とり 部 きょう 恭 た 太		光時分割多重ネットワークにおけるリソース共有手法の研究 主査：客員教授 可児 淳一
博士 (情報科学)	まえ 前 だ 田 けい 圭 すけ 介		構造物の維持管理支援のための異種特徴を用いた機械学習に基づく変状分類に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
	ロ 廬 シ 子 ショウ 祥		Study on Calculation Method of Computer-Generated Hologram for Volume Data (ボリュームデータの計算機合成ホログラム計算法に関する研究) 主査：教授 坂本 雄児
	あ 足 だち 立 りょう 亮 すけ 介		A Study on State Estimation for Cyber Physical Systems (サイバーフィジカルシステムのための状態推定理論に関する研究) 主査：教授 山下 裕

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (情報科学)	うら 浦 た 田 あき 昇 ひさ 尚		鋳肌面・機械加工面認識と最適計測計画に基づく鋳造品の高品質リバーエンジニアリングの研究 主査：准教授 伊達 宏昭
博士 (工学)	お 小 が 川 とむら 徹		回転子構造に起因した非対称性を考慮したハイブリッド界磁コンシクエントポール型アキシヤルギャップモータの設計手法に関する研究 主査：准教授 竹本 真紹
	か 川 むら 村 とも 智 き 輝		経済性と信頼性に基づく鉄道通信設備の設計・評価手法に関する研究 主査：教授 北 裕幸
博士 (情報科学)	な 谷 ぐち 口 あつし 篤		Effects of Quality Management Measures Based on the Use of Project Management Information System for Project Management Success of ERP Implementation (ERP実装におけるプロジェクトマネジメント成功のためのプロジェクトマネジメント情報システムの利用に基づくクオリティマネジメント処置の効果) 主査：教授 小野里 雅彦
	な 中 むら 村 ゆう 勇 た 太		電力システムの安定化に貢献する需要家リソース群の運用 主査：教授 北 裕幸
博士 (工学)	ファン 黄 スン 淳 ファン 煥		Study on optimization and robust control of active power decoupling circuit based converters (Active power decoupling回路を用いたコンバータの最適化とロバスト制御に関する研究) 主査：教授 小笠原 悟司
博士 (水産科学)	まつ 松 ばら 原 なお 直 と 人		鳴音計測による北海道沿岸性底魚類の資源・生態情報の把握に関する研究 主査：教授 木村 暢夫
	ロ 呂	シン 振	音響的手法を用いた仔稚魚及び動物プランクトンを対象とした曳網採集具の採集効率の推定に関する研究 主査：教授 藤森 康澄
	うえ 上 むら 村 ま 麻 り 梨 こ 子		スフィンゴイド塩基の抗酸化機構とその応用 主査：教授 細川 雅史
	なが 永 た 田 じゅん 淳		Studies on molecular mechanisms underlying regulation of hepatic estrogen-responsive genes in cutthroat trout, <i>Oncorhynchus clarki</i> (カットスロートトラウト肝臓におけるエストロゲン応答性遺伝子の発現調節機構に関する研究) 主査：教授 足立 伸次
	にし 西 かわ 川 しょうたろう 翔太郎		ニジマスのウイルス感染時およびpolyriboinosinic-polyribocytidylic acid (PIC) 投与時における血中タンパク質の発現変動に関する研究 主査：教授 澤辺 智雄
	にし 西 やま 山 りゅう 竜 じ 士		<i>Flavobacterium</i> sp. UMI-01株のアルギン酸分解および代謝機構の解明 主査：教授 澤辺 智雄
	リュウ 劉 ショウ 少 ガイ 凱		Dietary Effect of Squalene and Farnesol on the Lipid Metabolism of Obese/diabetes KK-A ^y Mice and Wild-type C57BL/6J Mice (肥満/糖尿病KK-A ^y マウスと野生型C57BL/6Jマウスの脂質代謝に及ぼすスクワレンとファルネソールの効果) 主査：教授 細川 雅史
博士 (環境科学)	い 池 だ 田 こう 幸 すけ 資		環境DNAを用いた絶滅危惧種ニホンザリガニの生息要因と外来種ウチダザリガニの侵入状況の解明 主査：准教授 根岸 淳二郎
	タ フ チン Ta Huu Chinh		Effects of ENSO-induced synoptic-scale environment on tropical cyclone activity and predictability over the western North Pacific (ENSOに伴う総観規模場が北西太平洋における熱帯低気圧の活動と予測可能性に与える影響) 主査：准教授 佐藤 友徳
	マームダ Mahmuda マクター Akter		Antibacterial activity and cytotoxicity <i>in vitro</i> of green-synthesized silver nanoparticles using <i>Brassica rapa</i> var. <i>japonica</i> leaf (ミズナの葉を用いてグリーン合成された銀ナノ粒子の抗菌活性および試験管内細胞毒性) 主査：准教授 藏崎 正明

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（環境科学）	ラ ケンヤ La Kenya エリザベス エバンス Elizabeth Evans	Accumulation mechanisms of trace metals into Arctic sea ice (北極海における海水への微量金属蓄積メカニズムの解明) 主査：准教授 西岡 純
	バルヴィン PARVIN ファミダ FAHMIDA	Development and application of biomass burning tracers in ice core for reconstruction of boreal forest fire history in North America (森林火災トレーサーの評価とアイスコアを用いた過去の北アメリカ北方林の森林火災の変遷の復元) 主査：准教授 関 宰
	もう ずみ とも き喜 岡 角 友 喜	Studies on vegetation mapping and methane emissions in a taiga-tundra boundary lowland, northeastern Siberia (北東シベリアタイガーツンドラ境界における植生マッピングとメタン放出に関する研究) 主査：教授 杉本 敦子
	よし だ かず ひろ 吉 田 和 広	Photophysiological responses of marine phytoplankton and ice algae to temperature, iron and light availability in subpolar and polar regions (亜極域・極域に生息する海洋植物プランクトンおよび海水微細藻類の温度・鉄・光利用度への光合成生理応答) 主査：教授 鈴木 光次
	うち だ けん た 内 田 健 太	The town squirrel and the country squirrel: multiple behavioral comparisons in Eurasian red squirrel between two environments (都市化がもたらすエゾリスの行動変化：複数の行動に着目した比較) 主査：准教授 小泉 逸郎
	ふく い しょう 福 井 翔	Mechanisms of sustainable introgressive hybridization between native white-spotted charr (<i>Salvelinus leucomaenis</i>) and non-native brook trout (<i>S. fontinalis</i>) (外来カワマスと在来アメマスにおける浸透交雑の存続機構) 主査：准教授 小泉 逸郎
	いわ き みつ ひろ 岩 崎 光 紘	有機配位子が関与する相互作用を通じた金クラスターの特性制御 主査：教授 小西 克明
	やす だ しゅう へい 保 田 修 平	メタクロレインからメタクリル酸への気相選択酸化を促進する金属酸化物触媒の作用機構と新触媒開発 主査：教授 神谷 裕一
	こ ぼやし けん た 小 林 健 太	アナタース型酸化チタンの特性と光触媒活性におよぼす粒子形状の影響に関する研究 主査：教授 大谷 文章
博士（理学）	あい かわ ゆう すけ 相 川 勇 輔	Two researches on elliptic curves: the rank problem in cyclotomic towers of function fields and an application to integer factorization using the CM method (楕円曲線に関する二つの研究: 関数体の円分拡大列におけるランク問題と素因数分解へのCM法を用いた応用) 主査：教授 朝倉 政典
	あさ はら けい すけ 浅 原 啓 輔	Spectral analysis of an abstract pair interaction model (抽象的な対相互作用モデルのスペクトル解析) 主査：特任教授 新井 朝雄
	たけ だ ひろ やす 武 田 裕 康	Confluent hypergeometric systems associated with principal nilpotent p -tuples (主零組に付随する合流型超幾何系) 主査：教授 齋藤 睦
	はん だ さとし 半 田 さとし	Stochastic-geometrical analysis to investigate critical behavior for statistical-mechanical models (統計力学モデルの臨界現象に対する確率幾何学的な解析) 主査：准教授 坂井 哲
	ふじ ざわ こう 藤 沢 好	Equivariant Čech-de Rham theory and its applications (同変チェック・ドラム理論とその応用) 主査：教授 大本 亨

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（理学）	イー テ フン Lee Taehoon	Microscopic Studies of π -d Molecular Conductor λ - (BETS) ₂ FeCl ₄ by ESR (電子スピン共鳴を用いた π -d系分子性導体 λ - (BETS) ₂ FeCl ₄ の微視的研究) 主査：客員准教授 大島 勇吾
	キム ソンヒョン Kim Sunghyun	Electron Spin Resonance Studies of Molecular Mott Insulators with Triangular Lattice (三角格子を有する分子性 Mott 絶縁体の電子スピン共鳴による研究) 主査：客員准教授 大島 勇吾
	シ ショウ テン 司 嘯 天	Number-Phase Fluctuations in Isolated Superconductors (孤立超伝導体の粒子数*位相揺らぎ) 主査：准教授 北 孝文
	ス だ ゆう すけ 須 田 裕 介	Persistency and Breathing Behavior of Chimera States in Nonlocally Coupled Phase Oscillators (非局所結合位相振動子系におけるキメラ状態の持続性と振動挙動) 主査：教授 根本 幸児
	ファームィ アストゥティ Fahmi Astuti	p-electron Magnetism in Alkali-metal Superoxides probed by μ SR (μ SRで探るアルカリ金属超酸化物のp電子磁性) 主査：客員教授 渡邊 功雄
	おお もと なお や 大 本 直 哉	Phenomenological and cosmological aspects of string axion and supersymmetric standard models (弦理論アクシオンと超対称標準模型の現象論的かつ宇宙論的側面についての研究) 主査：教授 小林 達夫
	しら かた ひかり 白 方 光	Theoretical studies for revealing the co-evolution of galaxies and supermassive black holes (銀河と超大質量ブラックホールの共進化についての理論的研究) 主査：准教授 俣徂 和夫
	すず き とも たか 鈴 木 智 貴	Study of Holography for Three Dimensional Spin-3 Gravity Coupled to a Scalar Field (スカラー場と結合した3次元スピン3重力に対するホログラフィーに関する研究) 主査：准教授 中山 隆一
	たつ いし たく や 立 石 卓 也	Non-Abelian discrete flavor symmetries from modular symmetry in string compactification (超弦理論におけるモジュラー対称性由来の非可換離散フレーバー対称性に関する研究) 主査：教授 小林 達夫
	ば ば とも ゆき 馬 場 智 之	Linear-Chain Structure in Carbon Isotopes (炭素同位体における直鎖クラスター構造) 主査：准教授 木村 真明
	ベグズレン Begzsuren トゥメンテムベレル Tumendemberel	STUDY OF SPECTRO-POLARIMETRIC BIDIRECTIONAL REFLECTANCE PROPERTIES OF LEAVES (スペクトル及び偏光を考慮した葉の双方向反射率特性の研究) 主査：教授 高橋 幸弘
	くぼ た あや 久保田 彩	The mid-Cretaceous coastal catastrophe along the eastern margin of Eurasia reconstructed by sedimentological analysis and chronostratigraphic correlation (堆積物の未固結時変形構造と複合年代層序対比を用いた白亜紀中期沿岸域大規模崩壊イベントの復元) 主査：准教授 伊庭 靖弘
	くろ だ みなみ 黒 田 みなみ	Water diffusion in silica glass toward understanding of atomistic diffusion mechanism in silicate melts and glasses (石英ガラス中の水の拡散：ケイ酸塩メルトおよびガラス中における拡散メカニズムの原子スケールでの理解に向けて) 主査：教授 塚本 尚義
	し 見 なお と 自 見 直 人	Taxonomic Studies of Polychaetous Annelids from Japan (日本産環形動物多毛類の分類学的研究) 主査：准教授 柁原 宏

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（理学）	たまきゆうた 玉置雄大	A study on the relationship between synoptic field and precipitation/runoff with dynamical downscaling (力学的ダウンスケーリングを用いた総観場と降水・流出の関係に関する研究) 主査：教授 稲津 将
	ツォグトバーター Tsogtbaatar, チンゾリグ Chinzorig	EVOLUTION, DIVERSITY, AND DISPARITY OF ORNITHOMIMOSAURS (DINOSAURIA: THEROPODA) FROM THE UPPER CRETACEOUS OF MONGOLIA (モンゴルの白亜系から発見されているオルニトミモサウルス類(恐竜類: 獣脚類)の進化, 多様性, 異質性) 主査：准教授 小林 快次
	てらだみお 寺田美緒	CMIP5 multi-model analyses of projected oceanic response to global warming: North Pacific sea-level rise and equatorial upwelling reduction (海洋の地球温暖化応答に関するCMIP5モデルの解析: 北太平洋の海面水位上昇と赤道湧昇弱体化) 主査：教授 見延 庄士郎
	はらだゆうき 原田勇希	視空間認知能力による中学校理科の学業達成と動機づけへの影響-心的イメージ処理の2側面に着目した実証的研究- 主査：教授 鈴木 誠
	ひめまつゆうじ 姫松裕志	Co-seismic and co-diking crustal deformation along subaerial rift zones detected by satellite synthetic aperture radar: East Africa, Iceland, and Southwestern Japan (衛星SARによるリフト帯における地震時・ダイク貫入時の地殻変動観測: 東アフリカ, アイスランド, 西南日本) 主査：教授 古屋 正人
	ファン タイン Phan Thanh トクン Tung	The 80 years geochemical records in Porites coral from Con Dao island, Viet Nam as an indicator for Mekong river discharge and monsoon climate variability (ベトナムCon Dao島のハマサンゴ骨格の地球化学指標に記録される過去80年間のメコン川の流出とモンスーン気候の変動) 主査：特任教授 鈴木 徳行
	ブイ ヴァン ドン Bui Van Dong	Development of the Median Tectonic Line fault zone, Mie Prefecture, southwest Japan: Strain localization and softening (西南日本, 三重県の中央構造線断層帯の発展: 歪の局所化と軟化) 主査：教授 竹下 徹
	ますもとひろかず 増本広和	Clay-mineralogical features of seismogenic faults in shallow accretionary prisms: Implications to their coseismic slip behaviors (粘土鉱物学的手法を用いた付加体浅部断層におけるすべり挙動の推定) 主査：准教授 亀田 純
	やまもとだいき 山本大貴	A kinetic study on oxygen isotopic evolution of primitive amorphous silicate dust and refractory inclusions in the early Solar System (初期太陽系における始原的非晶質ケイ酸塩ダストと難揮発性包有物の酸素同位体進化の速度論的研究) 主査：教授 山本 尚義
	ルイス LUIS エドゥアルド EDUARDO シラ スィアデン CHIRA SIADEN	Systematic and evolutionary studies of rissoellid microgastropods (Mollusca, Gastropoda, Heterobranchia) (ガラスツボ科微小巻貝(軟体動物門・腹足綱・異鰓類)の体系的および進化的研究) 主査：准教授 柁原 宏
	わたなべたかあき 渡邊貴昭	Histories of covariation between the Indian Monsoon and human-activities since the dawn of the civilized-era (文明黎明期以降のインド洋モンスーンと人類活動の共変遷史) 主査：特任教授 鈴木 徳行

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（農学）	カンバザ Cambaza エドガー・マヌエル Edgar Manuel		The use of color as alternative to size measurements in <i>Fusarium graminearum</i> growth studies and prediction of deoxynivalenol synthesis (<i>Fusarium graminearum</i> の生長評価における形態測定の代替としての色調変化の利用とデオキシニバレノール産生量の予測) 主査：准教授 小関 成樹
	こやまけんとう 小山健斗		Approaches for a probabilistic evaluation in predictive microbiology: Interpretation of stochastic bacterial inactivation process in a population and single cell level (予測微生物学における確率的評価のためのアプローチ：集団および単一細胞レベルにおける確率的細菌不活化プロセスの解釈) 主査：准教授 小関 成樹
	すずきしんご 鈴木伸吾		凍霜害防止に向けた資源植物の水核形成阻害活性の利用 主査：准教授 荒川 圭太
	すけけん 徐康珉		脂肪細胞が筋細胞の分化ならびに筋肉内結合組織構造に及ぼす影響 主査：教授 西邑 隆徳
	ソン孫 チュウ仲益		Evaluation of variations in gross primary production over terrestrial ecosystem using remote sensing technique (リモートセンシング技術を用いた陸域生態系におけるGPP変化の評価に関する研究) 主査：准教授 王 秀峰
	チン陳 ケン剣		Antibacterial activity of D-Tryptophan against food-borne pathogenic bacteria: Application to food processing and investigation of the mechanism (D-トリプトファンによる食品有害細菌の増殖抑制：食品への応用と増殖抑制メカニズムの解明) 主査：准教授 小関 成樹
	てづかだいすけ 塚大介		イネにおけるトレハロース誘導抵抗性に関する分子生物学的研究 主査：教授 森 春英
	モファッサラ MOFASSARA アクター AKTER		Study on the ZnPP formation mechanism in two different optimum pH at 4.75 and 5.5 in pork (異なる2つの最適pH4.75と5.5における豚肉のZnPP形成機構に関する研究) 主査：准教授 若松 純一
	リ李 ヨウ楊		アブラムシにおける競争と性投資をめぐる進化生態学的研究 主査：教授 秋元 信一
	わきやゆうこ 脇谷祐子		学校給食向け地場産加工食品供給の不安定性とその要因に関する研究－北海道産野菜を利用した地産地消型学校給食の展望－ 主査：教授 坂爪 浩史
	あらかわたくみ 荒河たくみ		テンサイ <i>Rf1</i> 対立遺伝子の機能と進化機構に関する研究 主査：教授 久保 友彦
	おくもとし 奥聡史		タマネギ鱗茎の品種間差に及ぼすフルクタン代謝メカニズムの研究 主査：准教授 鈴木 卓
	ジュ朱 ジャンフイ 江慧		Molecular-Genetic Study on a Novel Photoperiod-Insensitive Gene in Soybean (ダイズにおける新規の非感光性遺伝子に関する分子遺伝学的研究) 主査：教授 阿部 純
	ほりかわけんたろう 堀川謙太郎		園芸作物果実の成分分析におけるMALDI-TOF MSの利用に関する研究 主査：准教授 鈴木 卓
	リ李 シン莘		ジャガイモSウイルスの感染性cDNAクローンの構築と分子性状比較 主査：教授 増田 税
	ゼトリアナ ZETRYANA プテリターリム PUTERI TACHRIM		Comprehensive studies of organic synthesis by utilizing chemical features of natural products (天然物の化学的特性を活かした有機合成反応の網羅的検討) 主査：准教授 橋本 誠
たかいりょうご 高井亮吾		<i>Spingopyxis</i> 属GF9株が生産する異種微生物増殖因子に関する研究 主査：教授 松浦 英幸	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（農学）	たなか せい や 田 中 誠 也	難消化性二糖によるケルセチン配糖体吸収促進機構の解明と血中ケルセチン抱合体の網羅的解析 主査：特任教授 原 博
	おがわ なお き 小 川 直 記	Evolutionary process of thoracic jumping ability in Hemiptera (半翅目昆虫における胸部内跳躍機能の進化プロセス) 主査：准教授 吉澤 和徳
	くわばら じゅん 桑 原 淳	乳牛ふん尿由来のスラリー連用が草地土壌理化学性と牧草品質に及ぼす影響 主査：教授 石黒 宗秀
	たか なし りゅう や 高 梨 隆 也	腐朽環境下における木質構造物の機械的接合部の性能評価 主査：教授 小泉 章夫
	みやもと こう た 宮 本 幸 太	Determinants of predator-prey interaction on salmonid fish species and their survival rate (サケ科魚類の捕食・被食関係と生残率決定要因の解明) 主査：教授 荒木 仁志
博士（生命科学）	ア ニ カ タ フ シ ン ANIKA TAHSIN ラ ア マ ン RAHMAN	Analysis of Ice Recrystallization Inhibition Activities among Different Antifreeze Proteins (異なる不凍タンパク質の間の氷再結晶抑制活性の解析) 主査：客員教授 津田 栄
	アブラハ ゲブレセレマ Abraha Gebreselema ゲブレヒョット Gebrehiwot	Human serum N-glycans as highly sensitive cancer biomarkers: Potential benefits and the risks (高感度がんマーカーとしてのヒト血清N-グリカン：その潜在的な恩恵と危険性) 主査：教授 西村 紳一郎
	あら い たつ や 新 井 達 也	Structural and functional characterization of ice-binding proteins from cold-adapted fungi (低温適応菌類由来氷結晶結合蛋白質の構造及び機能解析) 主査：客員教授 津田 栄
	ダニエル Daniel トルステン シェンツ Thorsten Schenz	Transportation Network Optimisation during Exploratory Migration in <i>Physarum polycephalum</i> (モジホコリの探索移動中の輸送網効率化) 主査：教授 中垣 俊之
	ほし の けん いち 星 野 顕 一	Effect of swelling on network elasticity of hydrogel (ゲル網目の弾性に及ぼす膨潤の効果) 主査：教授 龔 劍萍
	ムハマド ジャヒルル Md. Jahirul イスラム Islam	Study on the Effect of Chemical Structures of Photo-Responsive Non-Nucleoside Triphosphates on the Interaction with Motor Proteins (光応答性非ヌクレオシド三リン酸の化学構造がモータータンパク質との相互作用に与える影響に関する研究) 主査：教授 玉置 信之
	リー ロン 李 龍	Developing novel methods for protein crystallization (新規タンパク質結晶化法の開発) 主査：教授 姚 閔
	ロー ビン 饶 平	Fast Underwater Adhesion of Hydrogels by Multi-Scale Design (マルチスケール設計によるハイドロゲルの高速水中接着) 主査：教授 龔 劍萍
	あら え とし ひろ 荒 江 星 拓	Controls of mRNA degradation in Arabidopsis: Investigating cold stress response and mRNA decay machinery (シロイヌナズナにおけるmRNA分解制御：低温ストレス応答およびmRNA分解酵素複合体に関する研究) 主査：准教授 千葉 由佳子
チン エイ 陳 穎	Mg-dechelataase Encoded by Chlamydomonas <i>Stay-Green</i> is Involved in the Formation of Photosystem II but not in Chlorophyll Degradation (Stay-Green遺伝子の産物Mg-脱離酵素はクラミドモナスではクロロフィルの分解ではなく光化学系IIの形成に関与する) 主査：特任教授 田中 歩	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (生命科学)	ふく とみ まさぶろう 福 富 又三郎		Neuroethological studies on auditory modulation of wind-elicited walking behavior in the cricket (コオロギの気流誘導性歩行運動の聴覚修飾に関する神経行動学的研究) 主査：教授 小川 宏人
博士 (薬科学)	さい とう こう だい 齋 藤 浩 大		STAP-2によるT細胞活性化制御機構の解明と自己免疫疾患への寄与の検証 主査：教授 松田 正
	さ とう しん べい 佐 藤 晋 平		アンサマイシン系天然物サイトトリエンニンAの全合成研究 主査：教授 周東 智
	すず き たく ろう 鈴 木 拓 郎		外輪型二核遷移金属錯体の構造解析と全合成研究への応用 主査：教授 松永 茂樹
	ひら しま こう き 平 島 洸 基		Tyk2のマクロファージにおける機能調節と炎症応答への関与 主査：教授 松田 正
博士 (臨床薬学)	いし ぐろ ゆ り 石 黒 由 梨		神経膠芽腫モデル細胞における抗てんかん薬バルプロ酸の輸送機構と新規作用に関する研究 主査：教授 井関 健
	い どん あい り 井 門 愛 理		暑熱環境下での行動調節における内側前頭前皮質の役割 主査：教授 南 雅文
	くぼ た あつ ひと 窪 田 篤 人		マンネンタケ科霊芝が腸管免疫に与える影響とその機序に関する研究 主査：教授 井関 健
	なが の ゆう ま 永 野 悠 馬		麻疹ウイルスのV蛋白質がヒトの自然免疫を不活化する分子メカニズムの解明 主査：教授 前仲 勝実
博士 (教育学)	いわ さ な な こ 岩 佐 奈々子		アイヌ民族の人々の主体形成につながる創造的学習：課題提起学習としての“Simulation Game, Project PAL”の開発と実践 主査：教授 宮崎 隆志
	くろ だ ゆう た 黒 田 裕 太		テニス競技におけるサービスパフォーマンスと体力・運動能力および認知機能との関連性 主査：教授 水野 眞佐夫
	しば た けい すけ 柴 田 啓 介		筋肥大および筋力増強を目的とした効率的なレジスタンストレーニング法の検証 主査：教授 水野 眞佐夫
	とまべち のぶ やす 苦米地 の伸 泰		強度漸減・高強度・短時間・間欠的自転車運動トレーニングが最大酸素摂取量及び筋機能に及ぼす影響に関する研究 主査：教授 水野 眞佐夫
	フンティロフ BUNTILOV ゲオルギー GEORGY		Imaging Japan in Moscow and Sakhalin, and Imaging Russia in Tokyo and Hokkaido: Contrasting identities and images of Other in the center and periphery. (モスクワ及びサハリンから見た日本と東京及び北海道から見たロシア：中心と周辺地域における「他者」に対する日本及びロシアのアイデンティティとイメージの対比) 主査：准教授 ゲーマン・ジェフリー・ジョセフ
博士 (学術)	いち はら せつ こ 市 原 攝 子		子宮頸がんワクチン事業を通してみる日本の「第二近代」化—サブ政治と個人化の概念を軸に— 主査：教授 長島 美織
	キョ 許 許 晴		中国における日本語専攻学習者の動機減退構造—社会・教育環境との関連から— 主査：教授 小林 由子
	さ とう あざ 佐 藤 梓		外国語学習環境における日本語学習者の動機づけ—メキシコの学習者を対象とした分析から— 主査：教授 小林 由子
	ヤン 楊 楊 雯 淇		手続きの意味による談話標識「なんか」と「怎么说」の分析 主査：准教授 飯田 真紀
博士 (観光学)	ひら い たけ ふみ 平 井 健 文		日本における産業遺産の観光資源化プロセス——地域社会における「空間の記憶」と「価値の消費」の次元から— 主査：准教授 金 ソンミン
博士 (保健科学)	たか くら ゆう き 高 倉 祐 樹		失構音の病態機序と脳解剖学的基盤に関する研究 主査：教授 横澤 宏一
	み 三 うら ゆう すけ 三 浦 佑 介		ヒト近位尿管上皮細胞の脂肪滴に関する研究 主査：教授 齊藤 健

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	の野村 温 むら かつし	Induced charge density wave and superconductivity in Cu-doped TaSe ₃ (CuドーピングしたTaSe ₃ における誘起された電荷密度波と超伝導) 主査：教授 丹田 聡
	みや宮 里一旗 みや ざと いっ き	Exploration of novel two dimensional materials by using first principle calculation and materials informatics approach (マテリアルズ・インフォマティクスと第一原理計算を用いた新規二次元材料の探索) 主査：教授 郷原 一壽
	あさ浅野 貴志 あさ の たか し	ナノ材料を用いる薬毒物の光イオン化とその機構 主査：教授 米澤 徹
	アデ クルニアワン Ade Kurniawan	Ethanol-Assisted Ironmaking using Mild-Dehydrated Goethite Ore (マイルドか焼したゲーサイト鉱石を用いるエタノール製鉄) 主査：教授 秋山 友宏
	せき関 尾佳弘 せき お よし ひろ	高速増殖炉用オーステナイト系ステンレス鋼におけるポイド欠乏帯観察を用いた照射点欠陥移動エネルギーの定量的評価に関する研究 主査：准教授 坂口 紀史
	なか中 島大希 なか じま だい き	ピロリン酸アノード酸化による超親水・超撥水アルミニウム表面の創製 主査：准教授 菊地 竜也
	なく名久井 恒司 なく い こう じ	水素輸送システムのエクセルギー効率及び評価方法に関する研究 主査：教授 秋山 友宏
	にし西 本大夢 にし もと まさ む	Syntheses of metal nanoparticles suitable for conductive materials and their sintering properties (導電性材料に適した金属ナノ粒子の合成法とその焼結特性) 主査：教授 米澤 徹
	べん彭 力 べん り	Microstructure and phase stability of multi-phase alloys in refractory-metal base systems (耐火金属基多元系合金における組織と相安定性) 主査：教授 三浦 誠司
	さ佐 藤賢一 さ とう けん いち	排ガス循環型酸素燃焼を用いた工業炉の熱力学特性および炉内に形成される火炎のすす特性に関する研究 主査：教授 藤田 修
	たか高 梨知広 たか なし とも ひろ	液滴ラジエーターにおける液滴流の排熱特性 主査：教授 永田 晴紀
	ハディ ビン カリッド Hadi Bin Khalid	Spherical flame propagation behavior of pulverized coal particles and ammonia in a turbulent environment (微粉炭とアンモニアの乱流混焼場における球状火炎伝播特性) 主査：准教授 橋本 望
	あさ朝 井 豪 あさ い こう	気筒内燃料改質プロセスを用いたディーゼル混焼機関に関する研究 主査：准教授 柴田 元
	いし石 川 裕 卓 いし かわ ひろ たく	パルス中性子透過分光法による複数物質定量イメージング手法の開発 主査：准教授 加美山 隆
	こ小 坂 亘 こ さか わたる	不均一電場がもたらすE×Bドリフトに対する量子論的效果 主査：准教授 及川 俊一
	さかき榑 祥太 さかき しょう た	Thermal behavior of submicrometer spherical particle formation by pulsed laser melting in liquid (液中レーザー溶融法によるサブミクロン球状粒子生成の熱挙動) 主査：特任教授 越崎 直人
しま嶋 林 正 晴 しま ばやし まさ はる	窒素プラズマを用いた4H-SiC表面の窒化に関する研究 主査：教授 佐々木 浩一	
サンチェス クリスティン Sanchez Kristine ドモゴイ Domogoy	Meandering-like river channel evolution due to the formation of fluvial bars (砂州の形成によって発生する蛇行状流路変動) 主査：教授 泉 典洋	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	たけうち しんいち 竹内 慎一		地域性及び時代性を考慮した木造建築物の地震被害関数構築に関する研究 主査：特任教授 岡田 成幸
	アピチャヤ Apichaya アネクサンパン Aneksampant		Study on interaction between bacteria and hematite under seawater condition for the elution of iron (海水条件下での鉄溶出を目的としたバクテリアとヘマタイトの相互作用に関する研究) 主査：准教授 中島 一紀
	いとう あかね 伊藤 茜		金属同位体を用いた表層環境における鉄および微量元素の地球化学的挙動の理解 主査：准教授 大竹 翼
	キムリーン Kimleang クホーエン KHOEURN		Long-term acid generation containing heavy metals from the tailings of a closed mine and its countermeasures (休廃止鉱山における鉱滓からの重金属を含む酸性水の長期溶出とその対策) 主査：教授 五十嵐 敏文
	しもかわら まい 下河原 麻衣		原油増進回収法適用時における貯留層特性に関する研究 主査：准教授 エラクネス ヨガラジャ
	シユウ ソク 周 爽		Adsorption and co-precipitation behavior of antimony with ferrihydrite and their silica effects (フェリハイドライトによるアンチモンの吸着・共沈挙動とシリカの及ぼす影響) 主査：教授 佐藤 努
	ジョン サン ヒ Jeon Sanghee		Development of a new method for gold recovery from waste mobile phones by combining physical separation and hydrometallurgical techniques using ammonium thiosulfate medium (物理選別とチオ硫酸アンモニウム溶液を用いた湿式製錬を組み合わせた廃携帯電話からの新しい金回収法の開発) 主査：准教授 伊藤 真由美
	セン ソペア Seng Sophea		Galvanic microencapsulation: a new technique to suppress pyrite oxidation (ガルバニックマイクロエンキャプシュレーション：黄鉄鉱酸化抑制のための新しい方法) 主査：准教授 伊藤 真由美
	イルファン バク Ilhwan Park		Development of a Sustainable Process Based on Carrier-microencapsulation to Suppress the Formation of Arsenic-containing Acid Mine Drainage from Arsenopyrite (硫砒鉄鉱からのヒ素を含む酸性鉱山廃水の発生を抑制する持続的なキャリアマイクロエンキャプシュレーション法の開発) 主査：教授 廣吉 直樹
	もりなが ゆか 森永 祐加		C-S-Hの構造とその生成機構及びコンクリートの耐久性への応用 主査：准教授 エラクネス ヨガラジャ
博士（総合化学）	たかぎ まきと 高木 牧人		Development of Automated Phase Transition Path Search Method for Systematically Predicting Structures and Properties of Crystal (結晶構造とその物性の系統的予測へ向けた相転移経路自動探索法の開発) 主査：教授 武次 徹也
博士（理学）	あかぎ そういちろう 赤木 壮一郎		A Study on the Excited Triplet States of Octahedral Hexamolybdenum (II) Clusters (正八面体型モリブデン(II)六核クラスターの励起三重項状態に関する研究) 主査：教授 加藤 昌子
	あなん しずか 阿南 静佳		多孔性結晶の事後修飾反応と高分子合成への応用 主査：教授 加藤 昌子
	いしほ こうじろう 石橋 公二郎		Study on Epithelial Homeostasis Mechanism at the Initial Stage of Carcinogenesis (発がんの超初期段階における上皮組織恒常性維持機構に関する研究) 主査：教授 村上 洋太
	いとう りゅうせい 伊東 龍生		Asymmetric Total Synthesis of Brasilicardins (ブラシリカルジン類の不斉全合成) 主査：教授 及川 英秋
	うがいたか ひろ大 鵜飼 孝大		人工的機能改変を指向した糸状菌ポリケタイド系天然物の生合成に関する研究 主査：教授 谷野 圭持

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (理学)	えびな まさのり 蝦名昌徳		Theoretical Study on the Excited States and Emission Mechanisms of Metal Complexes with Multiple-Emissions (多重発光を示す金属錯体の励起状態と発光機構に関する理論的研究) 主査：教授 加藤 昌子
	おがさわら さり 小笠原紗里		Study on Function of Protein Phosphatase PPM1D in Carcinogenesis and Cell Differentiation (発癌および細胞分化における脱リン酸化酵素PPM1Dの機能に関する研究) 主査：教授 村上 洋太
	くろだ ゆうすけ 黒田悠介		Theoretical Study on the Properties and Sensitivity of Organic Compounds with Characteristic Bonds (特異な結合を有する有機化合物の性質と感応性に関する理論的研究) 主査：教授 鈴木 孝紀
	こんの しゅうへい 今野翔平		Structural Significance of Intramolecular Interaction Network in Protein Structure (分子内相互作用ネットワークのタンパク質構造における構造的意義) 主査：教授 武田 定
	さいとう たかふみ 齋藤崇史		Synthesis of the Cyclohexene Segment of Portimine (ポーチミンのシクロヘキセンセグメントの合成) 主査：教授 谷野 主持
	さとう ゆうた 佐藤勇太		Studies on Functions of Nonmuscle Myosin II Isoforms in Actin-Microtubule Crosstalk (アクチン-微小管クロストークにおける非筋ミオシンIIアイソフォームの機能に関する研究) 主査：教授 坂口 和靖
	せん しょうめい 張 照明		Stereomutation and Chemical Transformation of Organic Molecules by Light (光による有機分子の立体構造転移および化学構造変換) 主査：教授 鈴木 孝紀
	ただし たいゆう 田崎太悠		Design and Preparation of Influenza Vaccines Using Gold Nanoparticles (金ナノ粒子を用いたインフルエンザワクチンの設計と作製) 主査：教授 石森 浩一郎
	てちかわら こうた 鉄地河原 浩太		触媒法による海洋バイオマス変換の研究 主査：教授 佐田 和己
	どうじゅん のぶ ひこ 道順暢彦		Reaction Mechanism of HutZ-type Heme Degradation Enzymes with Unique Structure (特異な構造を有するHutZ型ヘム分解酵素の反応機構) 主査：教授 坂口 和靖
	どもん だいすけ 土門大祐		New Synthetic Methods for Nitriles Directed toward Natural Product Synthesis (天然物合成を志向したニトリル誘導体の新規合成法) 主査：教授 澤村 正也
	なかむら まとし 中村 聡		Orientation Control of Nanorods with the Assistance of Polymer Brush (ポリマーブラシを用いたナノロッドの配向制御法に関する研究) 主査：教授 佐田 和己
	はん ろん 龐 紅		Construction of Semiconductor-based Photosystem for CO ₂ Reduction and Water Oxidation towards Artificial Photosynthesis (人工光合成を目指した半導体光触媒によるCO ₂ 還元および酸素生成に関する研究) 主査：教授 加藤 昌子
	むらやま ひろあき 村山大 明		Development of Catalytic Asymmetric Reactions Involving Transition Metal Alkoxides (遷移金属アルコキシドが関与する触媒的不斉反応の開発) 主査：教授 谷野 主持
	やすだ ゆうと 安田優人		Development of Copper-Catalyzed Asymmetric Allylic Cross-Coupling Reactions (銅触媒不斉アリル系クロスカップリング反応の開発) 主査：教授 及川 英秋
博士 (工学)	あじり たいが 阿尻大 雅		Development of Highly Sensitive Label-Free Detection Method and its Practical Application Using Micro- and Nano-fluidic Devices (マイクロ・ナノ流体デバイスを用いた高感度無標識検出法の開発とその応用) 主査：教授 佐藤 敏文

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	いわもと ひろあき 岩本 紘明	Development of Ligand-Controlled Chemo- and Stereoselective Borylation Reactions with Copper (I) Complex Catalyst (配位子により制御された銅 (I) 触媒による化学・立体選択的ホウ素化反応の開発) 主査：教授 大熊 毅
	さいとう たつや 齋藤 達也	Environmentally-benign and Practical Synthesis of Biodegradable and Biocompatible Aliphatic Polyesters (生分解性脂肪族ポリエステル類の環境低負荷かつ実践的な合成法の開発) 主査：教授 渡慶次 学
	たかほし のぞみ 高橋 望	Study on Magnetic Oxide Films with Spinel Structure for Electronics Devices (エレクトロニクス素子に向けたスピネル型構造を有する磁性酸化物薄膜に関する研究) 主査：教授 島田 敏宏
	たぐち じゅんぺい 田口 純平	Development of Synthetic Methods for Functionalized Organoboron Compounds via Transition Metal Catalysis (遷移金属触媒を用いた官能基化有機ホウ素化合物の合成法の開発) 主査：教授 大熊 毅
	てらぎわ たけし 寺澤 武	Studies on Mechanical Properties of In-vivo Tissue Formation and In-situ Adaptation Processes in Regenerative Medicine Based on In-Body Tissue Architecture (iBTA) (生体内組織形成術 (iBTA) を基盤とする再生医療における組織構築並びに自己化過程の機械的特性に関する研究) 主査：教授 高木 睦
	やまもと まさのり 山本 昌紀	Study on Photo-functional properties of Lanthanide Coordination Polymers Linked with Metal Ions (金属イオンで架橋した希土類配位高分子の光機能に関する研究) 主査：教授 幅崎 浩樹
	やまもと ゆうだい 山本 悠大	Study on Electrochemical Hydrogen Penetration into Iron and Steel with Sinusoidal Perturbation (正弦波変調を用いた鉄鋼への電気化学的水素侵入の研究) 主査：教授 安住 和久
	よしだ こうへい 吉田 康平	Postpolymerization Modification of Polystyrene- <i>block</i> -Poly (methyl methacrylate) to Fabricate 10-nm-Scale Microphase-Separated Structure (10nmスケールのマイクロ相分離構造を構築するためのポリスチレン-ポリメタクリル酸メチルブロック共重合体の高分子修飾) 主査：教授 渡慶次 学
	わかお おきむ 若尾 棋	Development of High-Throughput Fluorescence Polarization Immunoassay System by a Fluorescence Polarization Imaging Technique (蛍光偏光イメージングによるハイスループット蛍光偏光免疫アッセイシステムの開発) 主査：教授 佐藤 敏文
わだ まとし 和田 智志	Study on External Field-induced Photophysical Properties of Chiral Lanthanide Complexes (キラル希土類錯体の外場に誘起された光物性に関する研究) 主査：教授 島田 敏宏	

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	あそ う たか し 麻 生 尚 志		認識論の自然化と科学 主査：特任教授 山田 友幸
	いぬい ひで あき 乾 秀 明		イギリス近世のコモンズ・ガバナンスに関する一考察－イングランド南西部及び中部のフォレスト地域を中心に－ 主査：教授 長谷川 貴彦
	あ べ か しょう 阿 部 嘉 昭		黒沢清，映画のアレゴリー 主査：教授 応 雄
博士（獣医学）	こ ざ さ たか し 小 佐 々 隆 志		Studies on bovine viral diarrhea virus in quality control of veterinary vaccines (動物用ワクチンの品質管理における牛ウイルス性下痢ウイルスに関する研究) 主査：教授 大橋 和彦
博士（環境科学）	えん どう ま や 遠 藤 摩 耶		A mechanistic study on noble metal-modified titania photocatalysts for inactivation of bacteria and fungi (貴金属担持酸化チタン光触媒による細菌及びカビの不活性化メカニズムに関する研究) 主査：准教授 KOWALSKA EWA KATARZYNA
	しんぐうばら りょう 新宮原 諒		Study on relationship between CH ₄ flux and wetting at taiga-tundra boundary in northeastern Siberia using stable isotope ratios of CH ₄ (北東シベリアタイガーツンドラ境界域における湿潤化前後のCH ₄ フラックスとCH ₄ 安定同位体比の利用) 主査：教授 杉本 敦子
	みず なが ゆ き 水 永 優 紀		冷温帯生態系の森林帯－高山帯エコトーンにおける訪花性昆虫群集組成と開花構造との関連性 主査：准教授 工藤 岳
博士（理学）	お ぎ そ まさし 小 木 曾 仁		Effect of frequency-dependent site amplification and heterogeneous attenuation structure for the precise real-time prediction of ground motions (周波数依存性を考慮したサイト特性と不均質減衰構造が地震動即時予測に及ぼす効果について) 主査：教授 蓬田 清
博士（農学）	たけ うち とおる 竹 内 徹		コムギ眼紋病の病原菌とその防除に関する研究 主査：教授 近藤 則夫
	き た かず ひと 末 田 和 人		グイマツ雑種F ₁ の育種と種苗生産技術に関する研究 主査：特任教授 小池 孝良
博士（臨床薬学）	こう だ けい すけ 合 田 圭 佑		医薬品開発における臨床肝障害予測のための非臨床手法に関する研究 主査：教授 井関 健
博士（工学）	ふじ むら とし お 藤 村 俊 生		Solidification and Segregation in Continuously Cast Steel (鋼の連続鋳造における凝固と偏析に関する研究) 主査：教授 鈴木 亮輔
	にし むら まさ ひろ 面 村 正 弘		高速炉の事故時における冷却材ナトリウム燃焼挙動に関する研究 主査：教授 澤 和弘
博士（理学）	は ば とし お 端 場 登 志 雄		Studies on Anisotropic Electrodeposition of Copper with Organic Additives (有機添加剤を用いた銅の異方的電気化学析出に関する研究) 主査：教授 村越 敬

■ 同窓会との交流

函館同窓会 「総会及び懇親会」



都ぞ弥生を歌う参加者



挨拶する笠原理事・副学長

3月25日（月）に函館市のホテル函館ロイヤルにおいて北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から笠原正典理事・副学長、長谷川晃理事・副学長、関靖直理事・事務局長が出席しました。当日の参加者は27名

でした。懇親会は、山根繁会長の挨拶に始まり、笠原理事・副学長及び長谷川理事・副学長が「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。木村暢夫水産科学研究院長の発声による乾杯の後、参加者の懇親を深め、最後に参加者全

員が輪になって肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い、盛会の裡に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成31年3月6日）

議案・理事の任期等について

- ・共同プロジェクト拠点に係る評価及び更新について
- ・北米ポートランドオフィスの開設について
- ・産学・地域協働推進機構の組織改編等について

協議事項・学内共同施設（教育施設）「人間知・脳・AI研究教育センター（仮称）」の設置について

- ・2019（平成31）年度 年度計画について
- ・平成31年度に実施する公共政策大学院認証評価の自己評価書について
- ・ジョイント・ディグリー制度の導入について
- ・研究費の不正使用にかかる調査の体制・手続き等の見直しについて
- ・2019年度予算について
- ・フロンティア基金奨学金制度の見直しについて
- ・北海道大学病院における副病院長の増員について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・諸規則の制定、全部改正及び一部改正について

報告事項・第3期中期目標期間に係る前半3年間の進捗状況等について

- ・裁量労働制適用者の労働時間の把握方法の見直しについて

教育研究評議会（平成31年3月13日）

議 題・経営協議会の学外委員について

- ・名誉教授の選考について
- ・学内共同施設（教育施設）「人間知・脳・AI研究教育センター（仮称）」の設置について
- ・2019（平成31）年度 年度計画について
- ・平成31年度に実施する公共政策大学院認証評価の自己評価書について
- ・ジョイント・ディグリー制度の導入について
- ・フロンティア基金奨学金制度の見直しについて
- ・研究費の不正使用にかかる調査の体制・手続き等の見直しについて
- ・2019年度予算について
- ・北海道大学病院における副病院長の増員について
- ・諸規則の制定、全部改正及び一部改正について
- ・教員の懲戒について

報告事項・理事の任期及び副学長の任命について

- ・共同プロジェクト拠点に係る評価及び更新について
- ・産業創出講座等の設置及び更新について
- ・寄附講座等の設置及び更新について
- ・産学・地域協働推進機構の組織改編等について

経営協議会（平成31年3月19日）

議 題・総長選考会議委員の選出について

- ・2019（平成31）年度 年度計画について
- ・2019年度予算について
- ・フロンティア基金奨学金制度の見直しについて
- ・諸規則の一部改正について

報告事項・平成30年度運営費交付金の追加配分について

- ・共同研究経費の負担項目の改定について
- ・理事の任期について

役員会（平成31年3月20日）

議 案・学内共同施設（教育施設）「人間知・脳・AI研究教育センター（仮称）」の設置について

- ・2019（平成31）年度 年度計画について
- ・平成31年度に実施する公共政策大学院認証評価の自己評価書について
- ・ジョイント・ディグリー制度の導入について
- ・研究費の不正使用にかかる調査の体制・手続き等の見直しについて
- ・2019年度予算について
- ・フロンティア基金奨学金制度の見直しについて
- ・北海道大学病院における副病院長の増員について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・諸規則の制定、全部改正及び一部改正について
- ・北海道大学危機対応・業務継続マニュアル等の策定について
- ・次期教育情報システムについて
- ・学長裁量経費の基本方針の改定について

報告事項・国立大学法人等施設整備実施事業〈2018年度補正予算（第2号）〉について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程

(平成31年3月20日海大達第19号)

本学における災害等に係る危機対策に関する体制を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第20号)

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第21号)

国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第22号)

国立大学法人北海道大学教育研究評議会規程等の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第23号)

国立大学法人北海道大学評価規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第24号)

北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第32号)

国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第66号)

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程等の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第71号)

国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第77号)

国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第80号)

北海道大学観光学高等研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第125号)

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第128号)

北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第134号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置、改組及び廃止を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第25号)

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第26号)

本年4月1日付けで、アドミッションセンターの組織を見直すこと及び高等教育推進機構高等教育研究部高等教育研究部門を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第27号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに研究人材育成推進室の業務について、人材育成本部に移管することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第28号)

本年4月1日付けで高等教育推進機構を改組すること、平成31年度から専門横断科目を開講すること及び本学大学院に文部科学省が所管する卓越大学院プログラムにより採択された学位プログラムを設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程等の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第29号)

本年4月1日付けで高等教育推進機構を改組すること、平成31年度から専門横断科目を開講すること及びより適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第30号)

国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構知的財産委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第31号)

国立大学法人北海道大学における北大発ベンチャー称号授与規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第58号)

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第75号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織である産学・地域協働推進機構の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第33号)

国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第34号)

国立大学法人北海道大学動物実験委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第35号)

国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第65号)

北海道大学大学文書館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第129号)

北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第131号)

北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第132号)

北海道大学埋蔵文化財調査センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第133号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに委員会等の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第36号)

本年4月1日付けで、委員会の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学放射性同位元素等管理委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第37号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程(平成13年海大達第86号)が改正されることに伴い、規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学化学物質等管理委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第38号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに化学物質等管理委員会委員の選出母体となる教育研究組織の構成を変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学特定認定再生医療等委員会規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第39号)

本年4月1日付けで、再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則（平成26年厚生労働省令第110号）が改正されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第40号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールが統合されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第41号)

北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第51号)

平成31年度から専門横断科目を開講することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第42号)

本年4月1日付けで、本学大学院に文学院及び情報科学院を設置すること、本学大学院の農学院及び国際広報メディア・観光学院の専攻を改めること、国際食資源学院に博士後期課程を設置すること、理学院の定員を改めること、専門職大学院設置基準の一部改正が施行されることに基づき、専門職大学院における教育課程の編成方針を改め、専門職大学院に教育課程連携協議会を設置すること、本学大学院に文部科学省が所管する卓越大学院プログラムにより採択された学位プログラムを設置すること及び専門横断科目が開設されたことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学学位規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第43号)

本年4月1日付けで本学大学院の文学研究科を廃止し文学院を設置すること、情報科学研究科を廃止し情報科学院を設置すること、国際食資源学院に博士課程を設置すること、本学大学院に文部科学省が所管する卓越大学院プログラムにより採択された学位プログラムを設置すること及び学位記の様式を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第44号)

本年4月1日付けで、本学大学院の文学研究科を廃止し文学院を設置すること、本学大学院の情報科学研究科及び国際広報メディア・観光学院において教育職員免許状の授与の所要資格を得させるための課程の認定を取り下げること及び本学大学院の農学院の専攻を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学履修証明プログラムに関する規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第45号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに学校教育法施行規則が改正されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第46号)

本年4月1日付けで、現代日本学プログラム課程運営委員会の構成員の見直しを行うこと及び現代日本学プログラム課程において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第47号)

本年4月1日付けで、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールが統合されることに伴い、新渡戸カレッジに運営会議を置くこと並びに北海道大学専門横断科目規程が制定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学NITOBED教育システム運営会議規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第48号)

本年4月1日付けで、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールが統合されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第49号)

本年4月1日付けで、北海道大学通則(平成7年海大達第2号)が改正されること、高等教育推進機構を改組すること及び全学教育科目について、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることと共に伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学専門横断科目規程

(平成31年4月1日海大達第50号)

平成31年度から専門横断科目を開講することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第52号)

本年4月1日付けで、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールが統合されること、インテグレイテッドサイエンスプログラム運営委員会の構成員の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学卓越大学院プログラム推進会議規程

(平成31年4月1日海大達第53号)

北海道大学大学院通則(昭和29年海大達第3号)第21条の6第2項の規定に基づき、北海道大学卓越大学院プログラム推進会議の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

北海道大学大学院One Healthフロンティア卓越大学院プログラム規程

(平成31年4月1日海大達第54号)

北海道大学大学院One Healthフロンティア卓越大学院プログラム運営委員会規程

(平成31年4月1日海大達第55号)

平成31年度から、本学大学院において、文部科学省が所管する卓越大学院プログラムにより採択された学位プログラム「One Healthフロンティア卓越大学院プログラム」を実施することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第56号)

大学院共通授業科目において、適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第57号)

本年4月1日付けで、民間機関等が負担する経費等に学術貢献費を加えること及び産学連携推進経費の負担割合を直接経費及び学術貢献費の合計額の30パーセント以上に改定することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第59号)

国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第61号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第62号)

国立大学法人北海道大学船員労働時間、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第69号)

労働基準法（昭和22年法律第49号）が一部改正されること及び子育て支援制度の拡充によりワークライフバランスを充実させるため、特別休暇を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第60号)

労働基準法（昭和22年法律第49号）が一部改正されること、学生相談総合センターに勤務する職員について、学生相談業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、高等教育推進機構を改組すること、北海道大学病院を改組すること、北海道大学病院に勤務する医療職（A）の職員（栄養管理部に勤務する職員を除く）について、検査予約及びICU対応を行うため、並びに北海道大学病院麻酔科、救急科、救急部、集中治療部、新生児集中治療室及び母体・胎児集中治療室に勤務する教員について、手術対応を行うため、新たな勤務時間帯の区分を設けること並びに子育て支援制度の拡充によりワークライフバランスを充実させるため、特別休暇を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第63号)

労働基準法（昭和22年法律第49号）が一部改正されること、北海道大学病院を改組すること、北海道大学病院麻酔科、救急科、救急部、集中治療部、新生児集中治療室及び母体・胎児集中治療室に勤務する教員について、手術対応を行うため、新たな勤務時間帯の区分を設けること並びに子育て支援制度の拡充によりワークライフバランスを充実させるため、特別休暇を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第64号)

本年4月1日付で、高等教育推進機構国際教育研究部の部門を廃止すること、高等教育推進機構に採用する機構長付の教授、准教授、講師及び助教について新たに大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号に基づき任期を定めること、本学大学院の文学研究科及び情報科学研究科を廃止し文学研究院及び情報科学研究院を設置すること、理学研究院に採用する研究院長付の教授、准教授、講師及び助教について新たに大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号に基づき任期を定めること並びに北極域研究センターに採用するセンター長付の助教について新たに大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第2号に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の全部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第67号)

本学における研究費の不正使用に関する体制を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第68号)

労働基準法（昭和22年法律第49号）が一部改正されること、学生相談総合センターに勤務する職員について、学生相談業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、工学研究院に勤務する専門職（学術）の職員について、プロジェクトにかかる業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、北海道大学病院を改組すること、北海道大学病院に勤務する医療職（A）の職員（栄養管理部に勤務する職員を除く）について、検査予約及びICU対応を行うため、並びに北海道大学病院麻酔科、救急科、救急部、集中治療部、新生児集中治療室及び母体・胎児集中治療室に勤務する教員について、手術対応を行うため、新たな勤務時間帯の区分を設けること並びに子育て支援制度の拡充によりワークライフバランスを充実させるため、特別休暇を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第70号)

本年4月1日付けで、本学病院の先進急性期医療センターを廃止するとともに救急部及び集中治療部を新設し、麻酔科、救急科、救急部及び集中治療部に勤務する医師免許を有する職員を夜間業務手当の支給対象とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の全部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第72号)

平成29年4月14日付けで、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」(昭和32年法律第167号)が改正(平成29年4月14日公布。公布後1年以内又は3年以内と2段階施行)されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学エックス線障害予防規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第73号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程(平成13年海大達第86号)が改正されること、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに放射性同位元素等取扱者手帳が廃止されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第74号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに国際交流関係文書の保存期間を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第76号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置及び廃止を行うこと並びに本学通則及び本学大学院通則において「授業料の未納を理由として除籍した者に係る復籍」の取扱いを廃止する改正を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則

(平成31年4月1日海大達第78号)

国内旅行における鉄道路線の急行料金及び国内線旅客施設使用料並びに外国旅行における旅行雑費の取扱いについて、国における取扱い及び費用負担の実態を踏まえて見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第79号)

外国旅行における旅行雑費の取扱いについて、旅費業務マニュアルにおいて取扱いを定めることとすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第81号)

百年記念会館の利用に係る様式について、会計業務実施基準において定めることとすること及びレストランの一時占用の手續きについて見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学学術交流会館規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第82号)

学術交流会館の利用に係る様式及び受付期間について、会計業務実施基準において定めることとすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第83号)

ファカルティハウス「エンレイソウ」の利用に係る様式について、会計業務実施基準において定めることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第84号)

本学のオープンファシリティについて、使用料の見直し並びに設備の追加、変更及び削除を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第85号)

ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用について、利用料の改定を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第86号)

北海道大学法学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第88号)

北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第89号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第90号)

北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第91号)

北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第92号)

北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第94号)

北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第95号)

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第96号)

北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第97号)

北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第98号)

本学の学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第87号)

本学教育学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ること並びに教育職員免許法及び同施行規則の改正に伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第93号)

本年4月1日付けで、北海道大学病院の副院長を3名から5名に増員すること、中央診療施設等のうち、先進急性期医療センターを廃止し、救急部及び集中治療部を置くこと、企画マネジメント部長及び副部長に再雇用以外の特任教員を充てることができるようにすること並びに先進診断技術開発センターを置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第99号)
北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第100号)
北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第101号)
北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第102号)
北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第104号)
北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第105号)
北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第107号)
北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第108号)
北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第109号)
北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第110号)
北海道大学大学院医学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第111号)
北海道大学大学院歯学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第112号)
北海道大学大学院獣医学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第113号)
北海道大学大学院医理工学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第115号)
北海道大学大学院国際感染症学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第116号)
北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第122号)

本学の研究科、学院及び教育部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第103号)
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第106号)

本年4月1日付けで、農学院及び国際広報メディア・観光学院の改組を行うこと及びより適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程	(平成31年4月1日海大達第114号)
----------------------------------	---------------------

本年4月1日付けで、大学院獣医学研究院附属動物病院に「トランスレーショナルリサーチ推進室」を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院国際食資源学院規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第117号)

本年4月1日付けで、本学大学院国際食資源学院に博士後期課程を設置すること及びより適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学院文学院規程

(平成31年4月1日海大達第118号)

北海道大学大学院文学研究院規程

(平成31年4月1日海大達第119号)

本年4月1日付けで本学大学院の文学研究科を廃止し、文学院及び文学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学大学院情報科学院規程

(平成31年4月1日海大達第120号)

北海道大学大学院情報科学研究院規程

(平成31年4月1日海大達第121号)

本年4月1日付けで本学大学院の情報科学研究科を廃止し、情報科学院及び情報科学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第123号)

共同研究員及び研究生の受入れについて明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第124号)

本年4月1日付けで、量子集積エレクトロニクス研究センターに置く分野及び協力分野を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学広域複合災害研究センター規程

(平成31年4月1日海大達第126号)

北海道大学広域複合災害研究センター運営委員会

(平成31年4月1日海大達第127号)

本年4月1日付けで、本学に学内共同施設として北海道大学広域複合災害研究センターを設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学学生相談総合センター規程の一部を改正する規程

(平成31年4月1日海大達第130号)

本年4月1日付けで、学生相談総合センターに副センター長を置くこと及び留学生相談室の副室長に充てる職の見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

人事

平成31年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	田 山 忠 行 千 葉 恵 栗 原 正 仁 高 橋 庸 夫 甲 山 隆 司 長谷部 文 雄 松 田 冬 彦 相 川 弘 明 武 田 定 竹 下 徹 鈴 木 利 治 阿 部 純 小 泉 章 夫 近 藤 哲 也 坂 下 明 彦 水 野 眞佐夫 大 野 公 裕 杉 浦 秀 一 藤 野 彰 山 田 澤 明 飯 場 正 紀 上 田 多 門 梅 垣 菊 男 松 藤 敏 彦 岡 部 洋 實 佐々木 憲 介 清 水 宏 野 口 昌 幸 松 居 喜 郎 寶 金 清 博 原 登志彦 高 橋 保 本 村 泰 三 安 部 智 久 細 田 典 明 村 田 和 香 大 滝 純 司	大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院経済学研究院教授 大学院経済学研究院教授 大学院医学研究院教授 遺伝子病制御研究所教授 大学院医学研究院教授 北海道大学病院教授 低温科学研究所教授 触媒科学研究所教授 北方生物圏フィールド科学センター教授 国際連携研究教育局・北極域研究センター教授 大学院文学研究科教授 大学院保健科学研究院教授 大学院医学研究院教授
(任期満了) (辞職)		
【准教授】 (定年)	高 田 泰 弘 王 秀 峰 川 寄 義 和 齋 藤 正 恭 清 水 晋	大学院理学研究院准教授 大学院農学研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院歯学研究院准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授
【助教】 (定年)	井 上 貴一朗	大学院歯学研究院助教
【部長】 (定年)	勝 山 憲 明	工学系事務部長
【事務長・室長】 (定年)	齋 藤 之 史 柴 田 仁	監査室長 歯学事務部事務長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	杉 山 淳 一	北方生物圏フィールド科学センター事務長
【補佐】 (定年)	佐々木 淳 子 板 井 義 喜 堀 川 まゆみ 志 賀 政 明 堀 川 俊 弥	学務部入試課課長補佐 施設部施設整備課課長補佐 北海道大学病院総務課課長補佐 北海道大学病院管理課課長補佐 北海道大学病院医事課課長補佐
【係長】 (定年)	林 寛 幕 田 典 子	北方生物圏フィールド科学センター係長 北海道大学病院医療支援課係長
【主任】 (定年)	中 林 ゆかり 山 本 絹 子 村 上 建 市	附属図書館管理課主任 文学研究科・文学部事務部主任 函館キャンパス事務部主任
【技術職員等】 (定年)	吉 田 義 孝 吉 田 明 彦 野 矢 洋 一 笠 師 久美子 佐 藤 ひとみ 大 井 睦 美 表 留美子 山 田 千津子 櫻 田 弘 美 須 藤 三千代 竹 内 ひとみ 戸 澤 幸 子 藤 林 薫 坂 元 裕 美 秋 沢 宏 次 門 馬 弘 司 阪 野 充 輪 島 克 司 上 浦 達 哉 小 宮 圭 示 富 岡 輝 男	水産学部附属練習船おしよろ丸甲板長 大学院工学研究院技術専門員 アイソトープ総合センター技術専門員 北海道大学病院薬剤部副薬剤部長 北海道大学病院看護部長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長 北海道大学病院医療技術部診療放射線技師 北海道大学病院医療技術部歯科技工士 北海道大学病院医療技術部歯科技工士 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員

平成31年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 理事 (事務局長)	笠 原 正 典 長谷川 晃 西 井 準 治 皆 川 一 志 関 靖 直	理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 理事 (事務局長)
【副学長】 副学長 副学長	秋 田 弘 俊 山 口 淳 二	北海道大学病院教授 大学院理学研究院教授
【参与】 参与 (期間：平成32年3月31日まで)	多 谷 司	参与

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【総長補佐】</p>	<p>櫻 井 義 秀 長谷山 美 紀 南 雅 文 福 岡 淳 児矢野 マ リ 藤 田 修 高 橋 彩 村 山 明 宏 見 延 庄士郎 大 場 雄 介 香 内 晃 金 子 純 一 小 澤 丈 夫 愛 甲 哲 也 秋 田 利 之 村 松 正 隆 黒 岩 麻 里 寒 川 美 奈 長谷川 靖 哉 石 塚 真由美 LA FAY MICHELLE KAY</p>	<p>大学院文学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授 大学院薬学研究院教授 触媒科学研究所教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院工学研究院教授 高等教育推進機構教授 大学院情報科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院医学研究院教授 低温科学研究所教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院教授 大学院農学研究院准教授 大学院理学研究院教授 大学院文学研究院准教授 大学院理学研究院教授 大学院保健科学研究院准教授 大学院工学研究院教授 大学院獣医学研究院教授 大学院文学研究院准教授</p>
<p>【経営協議会委員】 (期間：平成33年 3月31日まで)</p>	<p>河 合 江理子</p>	<p>京都大学大学院総合生存学館教授</p>
<p>【部局長・施設長等】</p> <p>技術支援本部長 アドミッションセンター長 人材育成本部長 創成研究機構長 高等教育推進機構長 サステイナブルキャンパスマネジメント本部長 安全衛生本部長 産学・地域協働推進機構長 国際連携機構長 大学院理学院長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院理学研究院長 理学部長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院薬学研究院長 薬学部長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院農学研究院長 大学院農学院長 農学部長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院生命科学院長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院先端生命科学研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院メディア・コミュニケーション研究院長 大学院国際広報メディア・観光学院長 (期間：平成33年 3月31日まで) 大学院工学研究院長</p>	<p>笠 原 正 典 長谷川 晃 笠 原 正 典 西 井 準 治 長谷川 晃 皆 川 一 志 皆 川 一 志 西 井 準 治 笠 原 正 典 網 塚 浩 堀 口 健 雄 佐 藤 美 洋 西 邑 隆 徳 山 下 正 兼 門 出 健 次 西 川 克 之 瀬戸口 剛</p>	<p>理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 (副学長) 理事 理事 理事 (副学長) 理事 (副学長) 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院工学研究院教授</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院工学院長 工学部長 (期間：平成33年3月31日まで)	吉 岡 充 弘	大学院医学研究院教授
大学院医学研究院長 大学院医学院長 医学部長 (期間：平成33年3月31日まで)		
大学院獣医学院長 (期間：平成33年3月31日まで)	昆 泰 寛	大学院獣医学研究院教授
大学院獣医学研究院長 獣医学部長 (期間：平成33年3月31日まで)	堀 内 基 広	国際連携研究教育局・大学院獣医学研究院教授
大学院医理工学院長 (期間：平成32年3月31日まで)	白 土 博 樹	国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授
大学院国際感染症学院長 (期間：平成33年3月31日まで)	大 橋 和 彦	大学院獣医学研究院教授
大学院国際食資源学院長 (期間：平成33年3月31日まで)	井 上 京	国際連携研究教育局・大学院農学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長 (期間：平成33年3月31日まで)	遠 藤 乾	大学院公共政策学連携研究部教授
北海道大学病院長 (期間：平成34年3月31日まで)	秋 田 弘 俊	北海道大学病院教授
電子科学研究所長 (期間：平成33年3月31日まで)	中 垣 俊 之	国際連携研究教育局・電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
附属図書館長	長谷川 晃	理事 (副学長)
附属図書館北図書館長	長谷川 晃	理事 (副学長)
情報基盤センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	棟 朝 雅 晴	情報基盤センター教授
アイソトープ総合センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究院教授
観光学高等研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	山 村 高 淑	観光学高等研究センター教授
アイヌ・先住民研究センター長 (期間：平成32年3月31日まで)	常 本 照 樹	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
北極域研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	深 町 康	国際連携研究教育局・北極域研究センター教授
広域複合災害研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	山 田 孝	大学院農学研究院教授
外国語教育センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	河 合 靖	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
数理・データサイエンス教育研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	長谷山 美 紀	国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授
総合博物館長 (期間：平成33年3月31日まで)	小 澤 丈 夫	大学院工学研究院教授
大学文書館長	長谷川 晃	理事 (副学長)
保健センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	橋 野 聡	保健センター教授
埋蔵文化財調査センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	小 杉 康	大学院文学研究院教授
学生相談総合センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	児矢野 マ リ	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	辻 康 夫	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 (期間：平成33年3月31日まで)	山 口 淳 二	大学院理学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長 (期間：平成33年 3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 (期間：平成33年 3月31日まで)	渡 辺 精 一	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 (期間：平成31年 8月31日まで)	榎 本 芳 人	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：平成33年 3月31日まで)	亀 井 佳 彦	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 (期間：平成33年 3月31日まで)	長 山 雅 晴	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
大学院医学研究院附属動物実験施設長 (期間：平成33年 3月31日まで)	渡 辺 雅 彦	大学院医学研究院教授
(免・遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長)	近 藤 亨	遺伝子病制御研究所教授
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	廣 瀬 哲 郎	遺伝子病制御研究所教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院地球環境科学研究院副研究院長 (期間：平成31年 9月30日まで)	小 西 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	齋 藤 陸	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	永 井 隆 哉	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	木 原 章 雄	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	野 口 伸	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	森 春 英	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	出 村 誠	国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	河 合 靖	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	泉 典 洋	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	永 田 晴 紀	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	幅 崎 浩 樹	大学院工学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	岩 崎 倫 政	国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院副研究院長 (期間：平成33年 3月31日まで)	滝 口 満 喜	大学院獣医学研究院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：平成34年 3月31日まで)	渥 美 達 也	大学院医学研究院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：平成34年 3月31日まで)	北 川 善 政	大学院歯学研究院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：平成34年 3月31日まで)	南須原 康 行	北海道大学病院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：平成34年 3月31日まで)	平 野 聡	大学院医学研究院教授
北海道大学病院副病院長 (期間：平成34年 3月31日まで)	高 橋 久美子	北海道大学病院看護部看護部長
電子科学研究所副所長	居 城 邦 治	国際連携研究教育局・電子科学研究所教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
旭川医科大学事務局長	保 科 豊 次	北海道大学病院事務部長
【次長】 総務企画部次長 (兼) 総務課長 (免) 総務課安全衛生室長 スポーツ庁政策課課長補佐 (併) スポーツ庁参事官 (地域振興担当) 付参事官補佐 (命) スポーツ庁スポーツ戦略官	河 野 孝 紀 坂 本 秀 敬	総務企画部総務課長 (兼) 総務課安全衛生室長 学務部次長 (兼) キャリア支援課長
【課長・事務長・室長】 監査室長 総務企画部総務課安全衛生室長 総務企画部広報課長 総務企画部人事課長 財務部経理課長 学務部キャリア支援課長 研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長 研究推進部産学連携課長 施設部施設企画課長 施設部環境配慮促進課長 法学研究科・法学部事務長 環境科学事務部事務長 工学系事務部情報科学研究所事務課長 経済学事務部事務長 北海道大学病院経営企画課長 北海道大学病院医療支援課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 北キャンパス合同事務部事務長 (出向復帰) 歯学事務部事務長 (出向) 旭川医科大学総務部研究支援課長 苫小牧工業高等専門学校総務課長 (転出) 東京大学本部人事企画課長 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官付専門官 奈良女子大学学術情報課長 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課課長補佐 (併) 初等中等教育局財務課課長補佐	佐々木 尊 吉 田 茂 乾 優紀子 水 口 隼 人 佐々木 好 美 菅 田 勝 美 眞 野 茂 樹 吉 田 年 克 佐々木 津 祥 佐々木 匡 史 徳 山 雅 一 長 野 剛 志 菊 池 洋 美 高 野 雅 広 三 浦 順 一 成 田 昭 夫 成 澤 顕 久 笹 原 英 明 中 谷 慎 志 岩 佐 俊 明 松 橋 和 哉 熊 谷 達 也 竹 内 真 司 横 井 有 紀 西 村 敏 信	学務部学務企画課課長補佐 旭川医科大学監査室長 総務企画部広報課課長補佐 文部科学省大臣官房人事課専門官 (併) 任用班任用第一係長 工学系事務部情報科学研究科事務課長 工学系事務部教務課課長補佐 政策調整室室長代理 (兼) 研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長 総務企画部広報課長 施設部環境配慮促進課長 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課技術係長 環境科学事務部事務長 北キャンパス合同事務部事務長 北海道大学病院医療支援課課長補佐 財務部経理課長 北海道大学病院医療支援課長 弘前大学医学部附属病院医事課長 法学研究科・法学部事務長 経済学事務部事務長 帯広畜産大学経理課長 研究推進部産学連携課長 研究推進部産学連携課課長補佐 総務企画部人事課長 施設部施設企画課長 附属図書館利用支援課課長補佐 北海道大学病院経営企画課長

※教育研究組織及び教育研究組織に置く事務部の名称変更等に係る配置換は記載省略

○教育研究組織

- ・「文学研究科」→「文学研究院」
- ・「情報科学研究科」→「情報科学研究院」

○教育研究組織に置く事務部

- ・「文学研究科・文学部事務部」→「文学事務部」
- ・「情報科学研究科事務課」→「情報科学研究院事務課」

新任副学長・部局長等紹介

平成31年4月1日付

副学長・北海道大学病院長に



あきた ひろし
秋田 弘俊 教授

平成31年3月31日限りで寶金清博北海道大学病院長が任期満了となり、その後任として秋田弘俊教授が発令されました。任期は平成34年3月31日までです。

併せて、平成31年4月1日付けで、副学長として発令されました。

略 歴

生 年	昭和31年
昭和56年3月	北海道大学医学部卒業
昭和62年3月	北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
昭和62年3月	医学博士（北海道大学）
昭和62年10月	米国国立癌研究所 Fogarty Visiting Fellow
平成2年3月	
平成2年4月	北海道大学医学部附属病院助手
平成9年10月	北海道大学医学部附属病院講師
平成13年8月	北海道大学大学院医学研究科教授
平成28年4月	北海道大学病院副病院長
平成31年3月	
平成29年4月	北海道大学大学院医学研究院教授

理学研究院長・理学部長に



ほりぐち たけお
堀口 健雄 教授

平成31年3月31日限りで石森浩一郎理学研究院長・理学部長が任期満了となり、その後任として堀口健雄教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和32年1月18日
昭和54年3月	筑波大学第二学群卒業
昭和59年3月	筑波大学大学院生物科学研究所博士課程修了
昭和59年3月	理学博士（筑波大学）
昭和59年4月	日本学術振興会奨励研究員
昭和60年7月	南アフリカ共和国ナタール大学ピーターマリツバク分校植物学博士研究員
昭和62年2月	南アフリカ共和国ヴィットバースランド大学植物学博士研究員
昭和63年12月	信州大学教育学部助手
平成2年4月	信州大学教育学部附属教育工学センター助教授
昭和4年4月	信州大学教育学部助教授
平成5年4月	北海道大学理学部助教授
平成7年4月	北海道大学大学院理学研究科助教授
平成18年4月	北海道大学大学院理学研究院助教授
平成19年4月	北海道大学大学院理学研究院教授
平成27年4月	北海道大学教育研究評議会評議員
平成31年3月	
平成27年4月	北海道大学大学院理学研究院副研究院長
平成31年3月	

農学研究院長・農学院院长・農学部長に



にしむら たかのり
西邑 隆徳 教授

平成31年3月31日限りで横田 篤農学研究院長・農学院院长・農学部長が任期満了となり、その後任として西邑隆徳教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和33年11月22日
昭和58年3月	北海道大学農学部卒業
昭和59年4月	北海道立新得畜産試験場技術吏員
平成3年4月	北海道大学農学部助手
平成7年9月	博士（農学）（北海道大学）
平成9年4月	北海道大学農学部助教授
平成11年4月	北海道大学大学院農学研究科助教授
平成18年4月	北海道大学大学院農学研究院助教授
平成19年4月	北海道大学大学院農学研究院准教授
平成22年4月	北海道大学大学院農学研究院教授
平成29年4月	北海道大学総長補佐（企画経営室）
平成31年3月	
平成29年4月	北海道大学教育研究評議会評議員
平成31年3月	
平成29年4月	北海道大学大学院農学研究院副研究院長
平成31年3月	

先端生命科学研究院長に



もんで けんじ
門出 健次 教授

平成31年3月31日限りで出村 誠先端生命科学研究院長が任期満了となり、その後任として門出健次教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和36年7月30日
昭和59年3月	北海道大学理学部卒業
昭和63年3月	北海道大学大学院理学研究科博士課程中退
昭和63年4月	北海道大学理学部助手
平成5年3月	博士（理学）（北海道大学）
平成6年3月	米国コロンビア大学博士研究員
平成8年7月	東北大学反応科学研究所助手
平成13年4月	東北大学多元物質科学研究所助手
平成13年7月	北海道大学理学部助教授
平成18年4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院助教授
平成19年4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院准教授
平成22年4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
平成25年4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院附属次世代ポストゲノム研究センター長
平成28年3月	
平成29年4月	北海道大学大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長
平成31年3月	
平成25年4月	北海道大学大学院理学研究院副研究院長
平成31年3月	

メディア・コミュニケーション研究院長・
国際広報メディア・観光学院長に



にしかわ かつゆき
西川 克之 教授

平成31年3月31日限りで山田義裕メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長が任期満了となり、その後任として西川克之教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

生年月日	昭和34年4月24日
昭和57年3月	北海道大学文学部卒業
昭和61年3月	北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和61年3月	文学修士（北海道大学）
昭和61年4月	高知大学人文学部助手
昭和63年4月	高知大学人文学部講師
平成5年4月	北海道大学言語文化部講師
平成7年12月	北海道大学言語文化部助教授
平成19年4月	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
平成22年4月	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
平成29年4月	北海道大学外国語教育センター長
平成31年3月	

工学研究院長・工学院院长・工学部長に



せとぐち つよし
瀬戸口 剛 教授

平成31年3月31日限りで増田隆夫工学研究院長・工学部長、小林幸徳工学院院长が任期満了となり、その後任として瀬戸口剛教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

生年月日	昭和37年10月18日
昭和61年3月	早稲田大学理工学部卒業
平成2年4月	早稲田大学理工学部助手
平成3年3月	早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位修得退学
平成3年4月	北海道大学工学部助手
平成6年3月	博士（工学）（早稲田大学）
平成7年4月	北海道大学工学部助教授
平成9年4月	北海道大学大学院工学研究科助教授
平成19年4月	北海道大学大学院工学研究科准教授
平成22年4月	北海道大学大学院工学研究院准教授
平成22年5月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成29年4月	北海道大学大学院工学研究院副研究科長
平成31年3月	

文学研究院長・文学院院长・文学部長に



やまもと ふみひこ
山本 文彦 教授

平成31年4月1日付けで、文学研究科が学院・研究院化され、文学研究院長・文学院院长・文学部長として山本文彦教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日	昭和36年9月10日
昭和60年3月	東北大学文学部卒業
昭和62年3月	東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了
平成4年3月	東北大学大学院文学研究科博士課程後期単位修得退学
平成4年4月	北海道大学文学部助教授
平成6年2月	博士（文学）（東北大学）
平成12年4月	北海道大学大学院文学研究科助教授
平成19年4月	北海道大学大学院文学研究科准教授
平成21年4月	北海道大学大学院文学研究科教授
平成24年4月	北海道大学大学院文学研究科副研究科長
平成28年3月	
平成26年4月	北海道大学教育研究評議会評議員
平成28年3月	
平成28年4月	北海道大学大学院文学研究科研究科長
平成31年3月	

情報科学研究院長・情報科学院長に



きた ひろゆき
北 裕幸 教授

平成31年4月1日付けで、情報科学研究科が学院・研究院化され、情報科学研究院長・情報科学院長として北裕幸教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日	昭和38年5月7日
昭和61年3月	北海道大学工学部卒業
昭和63年3月	北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成元年3月	北海道大学大学院工学研究科博士後期課程中退
平成元年4月	北海道大学工学部助手
平成6年6月	博士（工学）（北海道大学）
平成7年4月	北海道大学大学院工学研究科助教授
平成17年7月	北海道大学大学院情報科学研究科教授
平成24年4月	北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
平成27年3月	
平成30年4月	北海道大学大学院情報科学研究科研究科長
平成31年3月	

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に



えんどう けん
遠藤 乾 教授

平成31年3月31日限りで高野伸栄公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長が任期満了となり、その後任として遠藤 乾教授が発令されました。任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和41年3月27日
- 平成元年3月 北海道大学法学部卒業
- 平成3年3月 北海道大学大学院法学研究科修士課程修了
- 平成4年9月 ベルギー・カトリック・ルーヴァン大学ヨーロッパ研究修士号
- 平成6年3月 北海道大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学
- 平成6年4月 日本学術振興会海外特別研究員
- 平成8年3月 北海道大学法学部助手
- 平成8年11月 政治学博士（オックスフォード大学）
- 平成10年8月 北海道大学法学部助教授
- 平成12年4月 北海道大学大学院法学研究科助教授
- 平成12年12月 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教授
- 平成14年10月 北海道大学大学院法学研究科助教授
- 平成17年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部助教授
- 平成18年3月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
- 平成21年4月 北海道大学大学院法学研究科教授
- 平成23年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
- 平成25年9月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長
- 平成27年5月

情報基盤センター長に



むねとも まさはる
棟朝 雅晴 教授

平成31年3月31日限りで高井昌彰情報基盤センター長が任期満了となり、その後任として棟朝雅晴教授が発令されました。任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和43年9月10日
- 平成3年3月 北海道大学工学部卒業
- 平成5年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
- 平成5年3月 修士（工学）（北海道大学）
- 平成8年3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
- 平成8年3月 博士（工学）（北海道大学）
- 平成8年4月 北海道大学工学部助手
- 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助手
- 平成10年6月 伊リノイ大学アーバナシヤンペイン校客員研究員
- 平成11年3月 北海道大学情報メディア教育研究総合センター助教授
- 平成15年4月 北海道大学情報基盤センター助教授
- 平成19年4月 北海道大学情報基盤センター准教授
- 平成24年8月 北海道大学情報基盤センター教授
- 平成25年4月 北海道大学情報基盤センター副センター長
- 平成31年3月

観光学高等研究センター長に



やまむら たかし
山村 高淑 教授

平成31年3月31日限りで西山徳明観光学高等研究センター長が任期満了となり、その後任として山村高淑教授が発令されました。任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和46年5月2日
- 平成6年3月 北海道大学農学部卒業
- 平成8年3月 筑波大学大学院環境科学研究科修士課程修了
- 平成8年4月 株式会社三和研究所大阪本社研究員
- 平成14年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
- 平成14年3月 工学博士（東京大学）
- 平成14年4月 京都嵯峨芸術大学芸術学部専任講師
- 平成16年4月 京都嵯峨芸術大学芸術学部助教授
- 平成19年4月 北海道大学観光学高等研究センター准教授
- 平成25年4月 北海道大学観光学高等研究センター教授

北極域研究センター長に



ふかまち やすし
深町 康 教授

平成31年3月31日限りで齊藤誠一北極域研究センター長が任期満了となり、その後任として深町 康教授が発令されました。任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和38年2月12日
- 昭和61年3月 北海道大学理学部卒業
- 平成4年10月 ノバ大学海洋研究所博士課程修了
- 平成4年10月 Ph.D. Oceanography（ノバ大学）
- 平成4年11月 北海道大学低温科学研究所助手
- 平成19年4月 北海道大学低温科学研究所助教授
- 平成23年2月 北海道大学低温科学研究所准教授
- 平成30年10月 北海道大学北極域研究センター教授
- 平成27年12月 北海道大学北極域研究センター副センター長
- 平成31年3月

広域複合災害研究センター長に



やまだ たかし
山田 孝 教授

平成31年4月1日付けで広域複合災害研究センターが設置され、広域複合災害研究センター長に山田 孝教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和36年3月19日
- 昭和59年3月 北海道大学農学部卒業
- 昭和60年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程中退
- 昭和60年4月 建設省大臣官房人事課建設技官
- 昭和60年4月 岐阜県土木部砂防課技術史員
- 昭和62年4月 建設省九州地方建設局大隅工事事務所砂防調査課建設技官
- 昭和62年5月 建設省九州地方建設局大隅工事事務所調査第二課砂防調査係長
- 昭和63年8月 建設省土木研究所砂防部砂防研究室研究員
- 平成6年4月 建設省土木研究所砂防部砂防研究室主任研究員
- 平成6年9月 博士（農学）（北海道大学）
- 平成13年1月 国土交通省土木研究所砂防部砂防研究室主任研究員
- 平成13年4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
- 平成18年4月 北海道大学大学院農学研究院助教授
- 平成19年4月 北海道大学大学院農学研究院准教授
- 平成20年4月 三重大学大学院生物資源学研究科准教授
- 平成22年10月 三重大学大学院生物資源学研究科教授
- 平成29年4月 北海道大学大学院農学研究院教授

外国語教育センター長に



かわい やすし
河合 靖 教授

平成31年3月31日限りで西川克之外国語教育センター長が任期満了となり、その後任として河合 靖教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和34年10月12日
- 昭和59年3月 北海道大学文学部卒業
- 昭和59年4月 北海道帯広柏葉高等学校教諭
- 昭和63年4月 北海道遠軽高等学校教諭
- 平成3年8月 アラバマ大学教育学部修士課程修了
- 平成7年3月 アラバマ大学教育学部博士課程退学
- 平成7年4月 北海道大学言語文化部講師
- 平成7年12月 教育学博士（アラバマ大学）
- 平成8年6月 北海道大学言語文化部助教授
- 平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
- 平成21年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

総合博物館長に



おざわ たけお
小澤 丈夫 教授

平成31年3月31日限りで中川光弘総合博物館長が任期満了となり、その後任として小澤丈夫教授が発令されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

略 歴

- 昭和59年3月 東京工業大学工学部卒業
- 昭和62年3月 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了
- 昭和62年4月 } 株式会社大林組
- 平成5年9月 } 株式会社大林組
- 平成6年5月 } ヘルマン・ヘルツベルハー建築設計事務所
- 平成9年8月 } ヘルマン・ヘルツベルハー建築設計事務所
- 平成9年4月 } TEO architects主宰
- 平成17年3月 } TEO architects主宰
- 平成16年12月 博士（工学）北海道大学
- 平成17年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
- 平成19年4月 北海道大学大学院工学研究科准教授
- 平成22年4月 北海道大学大学院工学研究院准教授
- 平成28年9月 北海道大学大学院工学研究院教授
- 平成29年4月 総長補佐（施設・環境計画室）

理事・副学長・部局長等（再任）紹介

平成31年4月1日付

理事・副学長，経営戦略室長代理，国際連携機構長，人材育成本部長，技術支援本部長に

かさはら まさのり
笠原 正典 氏

笠原正典氏は、平成29年4月1日から理事・副学長，国際連携機構長，人材育成本部長，技術支援本部長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

また，同氏は平成29年4月1日から企画・経営室長（名称変更に伴い，平成29年10月26日からは経営戦略室室長代理）を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

理事・副学長，教育改革室長，評価室長，高等教育推進機構長，アドミッションセンター長，附属図書館長，大学文書館長に

はせがわ こう
長谷川 晃 氏

長谷川晃氏は、平成29年4月1日から理事・副学長，教育改革室長，評価室長，高等教育推進機構長，アドミッションセンター長，附属図書館長，大学文書館長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

理事・副学長，研究戦略室長，創成研究機構長，産学・地域協同推進機構長に

にしい じゅんじ
西井 準治 氏

西井準治氏は、平成29年4月1日から理事・副学長，研究戦略室長，創成研究機構長，産学・地域協同推進機構長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

理事，施設・環境計画室長，サステイナブルキャンパスマネジメント本部長，安全衛生本部長に

みなかわ かずし
皆川 一志 氏

皆川一志氏は、平成29年4月1日から理事，施設・環境計画室長，サステイナブルキャンパスマネジメント本部長，安全衛生本部長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

理事・事務局長に

せき やすなお
関 靖直 氏

関 靖直氏は、平成30年4月1日から理事・事務局長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

副学長に

やまぐち じゅんじ
山口 淳二 氏

山口淳二氏は、平成26年4月1日から副学長を務め，平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同氏が再任されました。

理学院長に

あみつか ひろし
網塚 浩 教授

網塚 浩教授は、平成29年4月1日から理学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

生命科学学院長に

やました まさかね
山下 正兼 教授

山下正兼教授は、平成29年4月1日から生命科学学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

獣医学院長に

こん やすひろ
昆 泰寛 教授

昆 泰寛教授は、平成29年4月1日から獣医学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

医理工学院長に

しらと ひろき
白土 博樹 教授

白土博樹教授は、平成29年4月1日から医理工学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

国際食資源学院長に

いとうえ たかし
井上 京 教授

井上 京教授は、平成29年4月1日から国際食資源学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

薬学研究院長・薬学部長に

さとう よしひろ
佐藤 美洋 教授

佐藤美洋教授は、平成29年4月1日から薬学研究院長・薬学部長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

医学研究院長・医学院長・医学部長に

よしおか みつひろ
吉岡 充弘 教授

吉岡充弘教授は、平成29年4月1日から医学研究院長・医学院長・医学部長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

獣医学研究院長・獣医学部長に

ほりうち もとひろ
堀内 基広 教授

堀内基広教授は、平成29年4月1日から獣医学研究院長・獣医学部長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

国際感染症学院長に

おおはし かずひこ
大橋 和彦 教授

大橋和彦教授は、平成29年4月1日から国際感染症学院長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

電子科学研究所長に

なかがき としゆき
中垣 俊之 教授

中垣俊之教授は、平成29年4月1日から電子科学研究所長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

アイソトープ総合センター長に

はたけやま しげつぐ
畠山 鎮次 教授

畠山鎮次教授は、平成23年4月1日からアイソトープ総合センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

数理・データサイエンス教育研究センター長に

はせやま みき
長谷山 美紀 教授

長谷山美紀教授は、平成29年7月1日から数理・データサイエンス教育研究センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

埋蔵文化財調査センター長に

こすぎ やすし
小杉 康 教授

小杉 康教授は、平成27年4月1日から埋蔵文化財調査センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

アイヌ・先住民研究センター長に

つねもと てる き
常本 照樹 教授

常本照樹教授は、平成19年4月1日からアイヌ・先住民研究センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

保健センター長に

はしの さとし
橋野 聡 教授

橋野 聡教授は、平成25年4月1日から保健センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

学生相談総合センター長に

こやの
児矢野 マリ 教授

児矢野マリ教授は、平成30年8月1日から学生相談総合センター長を務め、平成31年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成33年3月31日までです。

新任教授紹介

平成31年4月1日付



法学研究科教授に

なかやま いちろう
中山 一郎 氏

法律実務専攻民法講座

生年月日

昭和41年11月3日

最終学歴

ワシントン大学法科大学院修士課程修了（平成7年6月）
コロンビア大学国際関係大学院修士課程修了（平成9年2月）
法学修士LL.M.（ワシントン大学）、国際関係学修士MIA（コロンビア大学）

専門分野

知的財産法

法学研究科教授に

ねもと ひさのり
根本 尚徳 氏

法学政治学専攻現代法講座

生年月日

昭和51年12月22日

最終学歴

早稲田大学大学院法学研究科博士課程研究指導認定（平成19年3月）
博士（法学）（早稲田大学）

専門分野

民法



法学研究科教授に

ハズハブランイスラヴ
HAZUCHA BRANISLAV 氏

法学政治学専攻現代法講座

専門分野

知的財産法



公共政策学連携研究部教授に

いとう かずより
伊藤 一頼 氏

公共政策学部門公共政策学分野

最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程退学（平成17年3月）
修士（法学）（東京大学）

専門分野

国際法



理学研究院教授に

うえの こうせい
上野 貢生 氏

化学部門 無機・分析化学分野

生年月日

昭和49年8月21日

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（北海道大学）

専門分野

分析化学・ナノ加工・光物性



総合博物館教授に

こばやし よしつぐ
小林 快次 氏

自然史科学専攻
地球惑星システム科学講座

生年月日

昭和46年12月23日

最終学歴

サザンメソジスト大学地球科学部博士課程
Ph.D.（サザンメソジスト大学）

専門分野

古脊椎動物学（特に恐竜の進化や生態復元）



農学研究院教授に

いしづか さとし
石塚 敏 氏

基盤研究部門生物機能化学分野

生年月日

昭和42年 8月 2日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士課程中退（平成6年11月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

食品栄養学



農学研究院教授に

さ さ き たかのぶ
佐々木 貴信 氏

基盤研究部門森林科学分野

生年月日

昭和45年 5月 29日

最終学歴

秋田大学大学院鉱山学研究科博士後期課程中退（平成11年3月）
博士（工学）（秋田大学）

専門分野

木材工学



農学研究院教授に

しなの たくろう
信濃 卓郎 氏

基盤研究部門生物機能化学分野

生年月日

昭和37年11月 6日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科専攻後期博士課程中退（平成2年11月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

農芸化学



農学研究院教授に

たま い ゆたか
玉井 裕 氏

基盤研究部門森林科学分野

生年月日

昭和38年 3月 31日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士課程修了（平成3年3月）
農学博士（北海道大学）

専門分野

林産学, 菌学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

しー るー
西 茹 氏

メディア・コミュニケーション部門
ジャーナリズム論分野

生年月日

昭和38年 8月 26日

最終学歴

北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士課程修了（平成20年3月）
博士（国際広報メディア）（北海道大学）

専門分野

マスメディア研究, ジャーナリズム研究



メディア・コミュニケーション研究院教授に

げーまん じえふりー じよせふ
GAYMAN JEFFRY JOSEPH 氏

メディア・コミュニケーション部門
多元文化教育論分野

生年月日

昭和42年11月 29日

最終学歴

九州大学人間環境学府博士後期課程修了（平成24年3月）
博士（教育学）（九州大学）

専門分野

教育人類学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

なべしま たかこ
鍋島 孝子 氏

メディア・コミュニケーション部門
公共伝達論分野

最終学歴

パリ第一大学第三課程政治学博士課程修了（平成16年1月）
政治学博士（パリ第一大学）

専門分野

国際政治学， アフリカ地域研究



メディア・コミュニケーション研究院教授に

ひょん む あん
玄 武岩 氏

メディア・コミュニケーション部門
メディア文化論分野

生年月日

昭和44年 5月12日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（平成19年3月）
博士（社会情報学）（東京大学）

専門分野

メディア文化論， 日韓関係論



工学研究院教授に

おの の むねかず
大野 宗一 氏

材料科学部門
マテリアル設計分野

生年月日

昭和51年 7月 6日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

材料組織学， 計算材料科学



工学研究院教授に

か み やま たかし
加美山 隆 氏

量子理工学部門
応用量子ビーム工学分野

専門分野

中性子イメージング， 中性子散乱， パルス中性子源，
液体の構造と物性



工学研究院教授に

さとう ひさし
佐藤 久 氏

環境創生工学部門
水代謝システム分野

生年月日

昭和48年 2月20日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

分析化学， 水環境工学



工学研究院教授に

さとう もとひろ
佐藤 太裕 氏

機械宇宙工学部門
機械フロンティア工学分野

生年月日

昭和49年11月16日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成14年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

材料力学， 構造力学， 構造安定論



工学研究院教授に

たべ ゆたか
田部 豊 氏

エネルギー環境システム部門
応用エネルギーシステム分野

生年月日

昭和46年 8月29日

最終学歴

東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成12年 3月）
博士（工学）（東京工業大学）

専門分野

エネルギー変換工学



医学研究院教授に

こんの さとし
今野 哲 氏

内科学分野呼吸器内科学教室

生年月日

昭和44年11月18日

最終学歴

旭川医科大学医学部医学科修了（平成7年 3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

呼吸器内科学



医学研究院教授に

まね あつし
真部 淳 氏

生殖・発達医学分野小児科学教室

生年月日

昭和35年 7月19日

最終学歴

北海道大学医学部医学科修了（昭和60年 3月）
博士（医学）（東邦大学）

専門分野

小児科学



歯学研究院教授に

さとう よしあき
佐藤 嘉晃 氏

口腔医学部門口腔機能学分野
歯科矯正学教室

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成5年 3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

歯科矯正学



獣医学研究院教授に

の なか なりあき
野中 成晃 氏

獣医学部門病原制御学分野

生年月日

昭和37年 5月 9日

最終学歴

ミシガン州立大学大学院獣医学研究科博士課程修了（平成5年 5月）
Ph.D.（ミシガン州立大学）

専門分野

寄生虫学



文学研究院教授に

あべ かしろう
阿部 嘉昭 氏

人文学部門表現文化論分野

生年月日

昭和33年 8月 2日

最終学歴

慶應義塾大学法学部（昭和57年）
博士（文学）（北海道大学）

専門分野

映画研究, サブカルチャー研究, 詩歌論



文学研究院教授に

かなざわ ひでゆき
金沢 英之 氏

人文学部門表現文化論分野

生年月日

昭和43年 7月 4日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位修得退学（平成10年 3月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

上代文学



文学研究院教授に

たかはし のぶゆき
高橋 伸幸 氏

人間科学部門行動科学分野

生年月日

昭和45年 1月 7日

最終学歴

アリゾナ大学大学院社会学部修了（平成12年12月）
Ph.D.（アリゾナ大学）

専門分野

適応社会科学

文学研究院教授に

たけうち しゅういち
竹内 修一 氏

人文学部門表現文化論分野

生年月日

昭和42年 7月 16日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位修得退学（平成12年 3月）
博士（文学）（東京大学）

専門分野

フランス現代文学



文学研究院教授に

まつしま あきお
松嶋 明男 氏

人文学部門歴史学分野

生年

昭和41年

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（平成10年 3月）
博士（文学）（東京大学）

専門分野

フランス近代史



国際連携研究教育局教授に

チュン-ユエン フイ
Chung-Yuen Hui 氏

ソフトマターグローバルステーション
アメリカユニット（コーネル大学）

生年月日

昭和26年10月27日

最終学歴

米国 ハーバード大学博士課程修了（昭和56年 6月）
博士（機械工学）（ハーバード大学）

専門分野

ソフトマター破壊力学

新任部課長等紹介

平成31年4月1日付



国際部長・国際連携機構副機構長に

のだ あきひこ
野田 昭彦 氏

昭和44年7月7日生
平成5年3月 東洋大学社会学部卒業
平成5年4月 民間企業
平成7年9月 国立オリンピック記念青少年総合センター業務課
平成8年7月 文部省生涯学習局青少年教育課
平成11年4月 国立教育会館社会教育研修所社会教育・生涯学習研修課
平成13年4月 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター企画課
平成14年4月 文部科学省生涯学習政策局社会教育課
平成17年4月 文部科学省国際統括官付
平成18年4月 国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) EFAコーディネーションユニット
平成20年4月 文部科学省国際統括官付専門官
平成20年10月 北海道大学学術国際部国際企画課長
平成22年7月 北海道大学国際本部国際連携課長
平成24年4月 名古屋大学国際部国際企画課長
平成27年4月 文部科学省国際統括官付国際統括官補佐
平成28年9月 文化庁長官官房国際課海賊版対策専門官
平成29年1月 同上 (併) 外務省経済局国際貿易課知的財産室課長補佐 (~6月末日)
平成30年10月 文化庁著作権課国際著作権室海賊版対策専門官



工学系事務部長に

おおみち はじめ
大道 元 氏

昭和58年1月 金沢大学医学部附属病院
昭和62年6月 文部省大臣官房会計課総務班
昭和62年7月 放送大学学園総務部会計課司計第二係
平成元年7月 文部省大臣官房会計課経理班経理第二係
平成5年7月 文部省大臣官房会計課経理班経理第四係主任
平成6年4月 文部省大臣官房会計課経理班経理第一係主任
平成8年4月 国立学校財務センター管理部企画課財産管理係長
平成9年4月 国立学校財務センター管理部総務課会計係長
平成11年4月 文部省大臣官房会計課用度班庶務係長
平成12年4月 帯広畜産大会計課長
平成14年4月 東京医科歯科大学医学部管理課長
平成16年4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院医事課長
平成18年4月 愛知教育大学財務部財務課長
平成20年4月 北海道大学財務部調達課長
平成23年4月 北海道大学病院医事課長
平成25年4月 北海道大学病院経営企画課長
平成27年4月 北海道大学工学系事務部経理課長
平成29年4月 北海道大学政策調整室長
平成29年10月 北海道大学財務部次長 (兼) 調達課長
平成30年4月 北海道大学財務部次長 (政策調整担当)



北海道大学病院事務部長に

ふかざわ ひろあき
深澤 博昭 氏

昭和35年6月15日生
昭和59年3月 立命館大学経営学部卒業
昭和60年1月 九州芸術工科大学
昭和63年4月 (併) 文部省大臣官房人事課
昭和63年5月 文化庁文化部著作権課
平成元年8月 文化庁文化部著作権課企画調整室
平成4年4月 文化庁文化部著作権課指導普及係主任
平成5年1月 文化庁文化部著作権課専門職員
平成5年4月 文化庁文化部国語課日本語教育係長
平成8年4月 文化庁文化部宗務課専門職員
平成8年10月 文化庁文化部宗務課宗教法人室法人係長
平成9年4月 文化庁文化部宗務課宗教法人室認証係長
平成10年4月 文化庁文化部宗務課宗教法人室庶務係長 (兼) 認証係長
平成11年4月 佐賀医科大学会計課長
平成13年7月 熊本大学医学部附属病院管理課長
平成15年4月 熊本大学医学部・薬学等事務部企画課長
平成15年10月 大阪大学医学部附属病院管理課長
平成20年7月 新潟大学財務企画課長
平成23年4月 神戸大学医学部総務課長
平成25年4月 琉球大学医学部事務部長
平成28年4月 熊本大学医学部附属病院事務部長



総務企画部次長 (兼・総務企画部総務課長) に

かわの こうき
河野 孝紀 氏

昭和36年11月生
昭和55年4月 北海道大学
平成12年4月 東京医科歯科大学庶務部人事課給与第二掛長
平成13年4月 東京医科歯科大学総務部人事課給与第一掛長
平成14年4月 北海道大学医学研究科・医学部人事掛長
平成17年4月 北海道大学総務部人事課統一試験係長
平成18年4月 北海道大学総務部人事課人事第二係長
平成18年10月 北海道大学総務部人事課人事第一係長
平成19年4月 北海道大学総務部人事課係長
平成21年4月 北海道大学総務部人事課課長補佐
平成23年4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐
平成26年4月 北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
平成28年4月 北海道大学総務企画部情報企画課長
平成30年4月 北海道大学総務企画部総務課長 (兼) 安全衛生室長



広報課長に

いぬい ゆきこ
乾 優紀子 氏

昭59年 7月1日 帯広畜産大学
平 7年 4月1日 北海道大学
平18年 4月1日 北海道大学農学事務部主任
平22年10月1日 北海道大学施設部施設企画課主任
平24年 4月1日 北海道大学法学研究科・法学部係長
平27年 4月1日 北海道大学施設部施設企画課係長
平28年 4月1日 北海道大学総務企画部広報課課長補佐



監査室長に

ささき みこと
佐々木 尊 氏

昭和39年 7月生
昭和58年 4月 北海道大学
平成15年 4月 室蘭工業大学総務課人事係長
平成18年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課専門職員
平成19年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
平成20年 4月 室蘭工業大学総務課課長補佐
平成22年 4月 北海道大学病院総務課課長補佐
平成25年 4月 北海道大学学務部教務課課長補佐
平成26年 4月 北海道大学学務部学務企画課課長補佐



工学系事務部情報科学研究院事務課長に

きくち ひろみ
菊池 洋美 氏

昭和39年 1月20日生
昭和57年 3月 北海道足寄高等学校卒業
昭和57年 4月 北海道大学
平成 5年 4月 岩手大学
平成 8年 4月 北海道大学
平成22年 4月 北海道大学医学系事務部総務課係長
平成23年 4月 北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課係長
平成24年 4月 北海道大学農学事務部係長
平成28年 4月 北海道大学農学事務部事務長補佐
平成29年 4月 北海道大学病院医療支援課課長補佐



学務部キャリア支援課長に

すがた かつみ
菅田 勝美 氏

昭和56年 4月 北見工業大学
昭和61年10月 文部省大臣官房総務課
平成 2年 4月 文部省大臣官房政策課
平成 3年 4月 北海道大学庶務部総務課
平成 4年 4月 北海道大学農学部
平成 7年 4月 北海道大学水産学部
平成10年 4月 北海道大学教育学部
平成16年 7月 北海道大学国際広報メディア研究科・言語文化部教務係長
平成20年 4月 北海道大学法学研究科・法学部係長
平成22年 4月 北海道大学医学系事務部総務課係長
平成24年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐
平成28年 4月 工学系事務部教務課課長補佐



総務企画部総務課安全衛生室長に

よしだ しげる
吉田 茂 氏

小樽商科大学短期大学部卒
昭和63年4月 旭川高専
平成6年4月 放送大学学園教務部学習センター課
平成8年4月 文部省官房会計課管財班
平成9年7月 文部省官房会計課宿舍係主任
平成10年4月 文部省官房会計課経理班経理第二係主任
平成12年8月 文部省官房会計課経理班経理第二係長
平成15年4月 文部科学省初中局施設助成課執行第一係長
平成16年4月 文部科学省官房文教施設企画部施設助成課執行第一係長
平成17年4月 帯広畜産大学財務課長
平成17年10月 帯広畜産大学(兼) 監査室長
平成19年4月 帯広畜産大学(免) 監査室長
平成20年4月 北海道教育大学財務課長(兼) 監査室長
平成21年4月 北海道教育大学(免) 監査室長
平成22年4月 室蘭工業大会計課長
平成22年7月 室蘭工業大学財務グループマネジャー
平成24年4月 北見工業大学財務課長
平成27年4月 北海道大学病院管理課長
平成29年4月 旭川医科大学会計課長
平成30年4月 旭川医科大学監査室長



総務企画部人事課長に

みずぐち はやと
水口 隼人 氏

昭和54年3月9日生
明星大学人文学部卒業
平成16年10月 東京工業高等専門学校庶務課
平成18年9月 国立高等専門学校機構本部事務局総務課
平成21年1月 国立高等専門学校機構本部事務局人事課
平成24年1月 文部科学省大臣官房人事課任用班
平成24年4月 放送大学学園総務部総務課人事係長
平成26年8月 文化庁長官官房政策課人事係長
平成28年4月 文部科学省大臣官房人事課任用班任用第三係長
平成29年10月 文部科学省大臣官房人事課任用班任用第一係長
平成30年10月 文部科学省大臣官房人事課専門官(併) 任用班任用第一係長



施設部環境配慮促進課長に

ささき まさし
佐々木 匡史 氏

平成11年4月 愛媛大学施設課
平成15年4月 文部科学省大臣官房文教施設部高松工事事務所
平成16年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構施設課
平成20年4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課防災推進室
平成22年4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課指導係長
平成25年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構施設課
平成28年4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課契約情報室監理係長
平成29年4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課技術係長
平成30年10月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課技術係長



歯学事務部事務長に

なかたに しんじ
中谷 慎志 氏

昭和39年1月29日生
昭和57年3月 北海道苫小牧南高等学校卒業
昭和58年6月 苫小牧工業高等専門学校庶務課
平成3年1月 北海道大学学生課
平成4年4月 文部省学術国際局留学生課
平成5年4月 北海道大学経理部経理課
平成7年4月 北海道大学経理部主計課
平成8年4月 室蘭工業大会計課用度係物品管理主任
平成11年4月 北海道大学経理部第二契約課付主任
平成13年4月 北海道大学理学研究科・理学部会計掛主任
平成14年4月 メディア教育開発センター管理部会計課総務係長
平成16年4月 独立行政法人メディア教育開発センター管理部会計課専門職員
平成17年4月 北海道大学病院管理課専門職員
平成17年10月 北海道大学病院管理課医療材料係長
平成19年4月 北海道大学病院管理課係長
平成23年4月 小樽商科大学財務課課長代理
平成25年7月 国際本部国際支援課課長補佐
平成27年4月 国際本部国際交流課課長補佐
平成28年10月 国際部国際教務課課長補佐
平成29年4月 帯広畜産大学経理課長



北海道大学病院医療支援課長に

なりた あきお
成田 昭夫 氏

昭和38年10月19日生

昭和57年 3月 北海道富良野高等学校卒業
昭和57年 4月 北海道大学
平成15年 4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林園北事務掛長
平成18年 4月 北海道大学病院医事課病歴管理係長
平成19年 4月 北海道大学病院医事課医療支援室係長
平成21年 4月 北海道大学農学事務部係長
平成23年 4月 旭川医科大学病院医療支援課長
平成24年 4月 旭川医科大学病院経営企画課長
平成28年 4月 弘前大学医学部附属病院医事課長



北海道大学病院看護部長に

たかはし くみこ
高橋 久美子 氏

昭和37年 2月23日生

昭和58年 3月 北海道大学医学部附属看護学校卒業
昭和58年 4月 北海道大学医学部附属病院看護部
平成 4年 4月 北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成16年 4月 北海道大学病院看護部看護師長
平成24年 4月 北海道大学病院看護部副看護部長

資料

平成31年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		一般・AO・国際総合入試 (高等学校卒業程度認定試験合格者等は含まない)								その他			
				人数		比率		人数		比率					
				道内	道外	道内	道外	30年度卒業	過年度卒業	30年度卒業	過年度卒業			人数	比率
総合入試文系	100	103	20	19	83	18.4%	80.6%	73	29	70.9%	28.2%	1	1.0%		
総合入試理系	数学重点選抜群	130	130	20	46	82	35.4%	63.1%	91	37	70.0%	28.5%	2	1.5%	
	物理重点選抜群	235	238	27	80	157	33.6%	66.0%	132	105	55.5%	44.1%	1	0.4%	
	化学重点選抜群	235	239	50	76	163	31.8%	68.2%	135	104	56.5%	43.5%	0	0.0%	
	生物重点選抜群	177	178	72	25	152	14.0%	85.4%	123	54	69.1%	30.3%	1	0.6%	
	総合科学選抜群	250	253	90	83	169	32.8%	66.8%	175	77	69.2%	30.4%	1	0.4%	
	計	1,027	1,042	261	310	726	29.8%	69.7%	659	377	63.2%	36.2%	6	0.6%	
文学部	155	163	66	49	114	30.1%	69.9%	112	51	68.7%	31.3%	0	0.0%		
教育学部	30	30	14	13	17	43.3%	56.7%	21	9	70.0%	30.0%	0	0.0%		
法学部	180	183	60	62	118	33.9%	64.5%	110	70	60.1%	38.3%	3	1.6%		
経済学部	160	164	31	75	89	45.7%	54.3%	105	59	64.0%	36.0%	0	0.0%		
理学部	数学科	13	13	0	4	7	30.8%	53.8%	7	4	53.8%	30.8%	2	15.4%	
	物理学科	10	10	1	0	9	0.0%	90.0%	6	3	60.0%	30.0%	1	10.0%	
	化学科	23	23	2	4	18	17.4%	78.3%	10	12	43.5%	52.2%	1	4.3%	
	生物科学科	生物学専修分野	10	10	3	2	8	20.0%	80.0%	5	5	50.0%	50.0%	0	0.0%
		高分子機能学専修分野	5	5	2	1	2	20.0%	40.0%	2	1	40.0%	20.0%	2	40.0%
	小計	15	15	5	3	10	20.0%	66.7%	7	6	46.7%	40.0%	2	13.3%	
	地球惑星科学科	10	10	2	2	8	20.0%	80.0%	6	4	60.0%	40.0%	0	0.0%	
	計	71	71	10	13	52	18.3%	73.2%	36	29	50.7%	40.8%	6	8.5%	
医学部	医学科	102	102	18	53	49	52.0%	48.0%	47	55	46.1%	53.9%	0	0.0%	
	保健学科	看護学専攻	67	70	67	52	18	74.3%	25.7%	55	15	78.6%	21.4%	0	0.0%
		放射線技術科学専攻	35	35	16	29	6	82.9%	17.1%	20	15	57.1%	42.9%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	35	27	25	10	71.4%	28.6%	22	13	62.9%	37.1%	0	0.0%
		理学療法専攻	17	19	5	9	10	47.4%	52.6%	10	9	52.6%	47.4%	0	0.0%
		作業療法専攻	17	18	13	12	6	66.7%	33.3%	10	8	55.6%	44.4%	0	0.0%
		小計	171	177	128	127	50	71.8%	28.2%	117	60	66.1%	33.9%	0	0.0%
	計	273	279	146	180	99	64.5%	35.5%	164	115	58.8%	41.2%	0	0.0%	
歯学部	43	43	17	16	27	37.2%	62.8%	19	24	44.2%	55.8%	0	0.0%		
薬学部	24	25	10	5	19	20.0%	76.0%	16	8	64.0%	32.0%	1	4.0%		
工学部	応用理工系学科	38	40	7	4	33	10.0%	82.5%	22	15	55.0%	37.5%	3	7.5%	
	情報エレクトロニクス学科	38	45	2	5	29	11.1%	64.4%	13	21	28.9%	46.7%	11	24.4%	
	機械知能工学科	30	33	1	2	24	6.1%	72.7%	15	11	45.5%	33.3%	7	21.2%	
	環境社会工学科	53	53	7	8	43	15.1%	81.1%	27	24	50.9%	45.3%	2	3.8%	
	計	159	171	17	19	129	11.1%	75.4%	77	71	45.0%	41.5%	23	13.5%	
農学部	53	54	19	3	51	5.6%	94.4%	32	22	59.3%	40.7%	0	0.0%		
獣医学部	35	37	23	3	34	8.1%	91.9%	24	13	64.9%	35.1%	0	0.0%		
水産学部	175	183	41	49	131	26.8%	71.6%	96	84	52.5%	45.9%	3	1.6%		
現代日本学プログラム	-	16	9	-	-	-	-	-	-	-	-	16	100.0%		
合計	2,485	2,564	744	816	1,689	31.8%	65.9%	1,544	961	60.2%	37.5%	59	2.3%		

※その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生

※国際総合入試理系は選抜群単位で募集していないため、「計」の欄に計上している。

(学務部入試課)

平成31年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	816	541	275	31.8%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	107	76	31	4.2%
----	-----	----	----	------

青森県	21	13	8
-----	----	----	---

岩手県	20	15	5
-----	----	----	---

宮城県	33	27	6
-----	----	----	---

秋田県	10	5	5
-----	----	---	---

山形県	9	7	2
-----	---	---	---

福島県	14	9	5
-----	----	---	---

関東	687	516	171	26.8%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	52	30	22
-----	----	----	----

栃木県	34	25	9
-----	----	----	---

群馬県	32	28	4
-----	----	----	---

埼玉県	102	84	18
-----	-----	----	----

千葉県	74	60	14
-----	----	----	----

東京都	279	213	66
-----	-----	-----	----

神奈川県	114	76	38
------	-----	----	----

北陸・中部	382	286	96	14.9%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	39	32	7
-----	----	----	---

富山県	31	23	8
-----	----	----	---

石川県	43	27	16
-----	----	----	----

福井県	8	4	4
-----	---	---	---

山梨県	8	5	3
-----	---	---	---

長野県	31	21	10
-----	----	----	----

岐阜県	14	12	2
-----	----	----	---

静岡県	67	48	19
-----	----	----	----

愛知県	141	114	27
-----	-----	-----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	330	242	88	12.9%
----	-----	-----	----	-------

三重県	20	12	8
-----	----	----	---

滋賀県	12	11	1
-----	----	----	---

京都府	50	36	14
-----	----	----	----

大阪府	109	74	35
-----	-----	----	----

兵庫県	88	70	18
-----	----	----	----

奈良県	36	27	9
-----	----	----	---

和歌山県	15	12	3
------	----	----	---

中国・四国	111	77	34	4.3%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	4	3	1
-----	---	---	---

島根県	4	4	0
-----	---	---	---

岡山県	20	13	7
-----	----	----	---

広島県	32	24	8
-----	----	----	---

山口県	4	3	1
-----	---	---	---

徳島県	10	5	5
-----	----	---	---

香川県	13	7	6
-----	----	---	---

愛媛県	18	14	4
-----	----	----	---

高知県	6	4	2
-----	---	---	---

九州・沖縄	72	45	27	2.8%
-------	----	----	----	------

福岡県	27	18	9
-----	----	----	---

佐賀県	2	1	1
-----	---	---	---

長崎県	6	3	3
-----	---	---	---

熊本県	11	7	4
-----	----	---	---

大分県	5	3	2
-----	---	---	---

宮崎県	3	1	2
-----	---	---	---

鹿児島県	9	6	3
------	---	---	---

沖縄県	9	6	3
-----	---	---	---

その他	59	37	22	2.3%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	12	6	6
---------------	----	---	---

帰国子女入試	11	7	4
--------	----	---	---

外国人留学生	36	24	12
--------	----	----	----

入学者数合計	2,564	1,820	744
--------	-------	-------	-----

地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

編集メモ

● 4月に入り、春の陽気を感じられる季節となりました。キャンパス内の花々も続々と咲き始めています。

● リテラポプリ第62号（2019春）を発行しました。

特集ページでは、“進化”をテーマに、「NITOBЕ教育システム」,「函館キャンパス」,「スラブ・ユーラシア研究センター」を取り上げています。

◆ <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>





2013.4.21 室蘭本線 黄金～崎守 (伊達市)

北の鉄道風景 73 残雪を抱く蝦夷富士

長万部駅を起点、岩見沢駅を終点とする延長211kmの室蘭本線。この路線が通る伊達市と室蘭市の市界付近、稀府駅から黄金駅にかけての区間では、蝦夷富士（羊蹄山）を背景に列車が駆ける光景が見られる。写真は、春の日差しを浴びながら、残雪を抱く蝦夷富士を背景に力走する寝台特急列車「北斗星」

である。黄金駅の室蘭方にあるアウトカーブから、超望遠レンズを使用して撮影した。札幌と本州間の寝台特急列車が廃止されて今春で早3年が経過し、このような情景も遠い過去のものになりつつある。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ④ No.781 平成31年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html